令和3年12月定例会（12月6日開会
12月17日閉会）

池田町議会会議録

令和3年12月池田町議会定例会会議録目次

招集告示.....	1 3
応招・不応招議員.....	1 4

第 1 号 (1 2 月 6 日)

議事日程.....	1 5
本日の会議に付した事件.....	1 6
出席議員.....	1 6
欠席議員.....	1 6
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名.....	1 6
事務局職員出席者.....	1 6
開会及び開議の宣告.....	1 7
諸般の報告.....	1 7
会議録署名議員の指名.....	2 0
会期の決定.....	2 0
町長あいさつ.....	2 1
承認第10号の上程、説明、質疑、討論、採決.....	2 2
議案第40号の上程、説明、質疑.....	2 3
議案第41号の上程、説明、質疑.....	2 4
議案第42号の上程、説明、質疑.....	2 5
議案第43号、議案第44号の一括上程、説明、質疑、討論、採決.....	2 6
議案第45号、議案第46号の一括上程、説明、質疑.....	2 8
議案第40号より第42号、議案第45号、第46号について、各担当委員会 に付託.....	3 4
散会の宣告.....	3 5

第 2 号 (1 2 月 1 3 日)

議事日程.....	3 7
本日の会議に付した事件.....	3 7

出席議員.....	3 7
欠席議員.....	3 7
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名.....	3 7
事務局職員出席者.....	3 7
12月定例議会一般質問一覧表.....	3 9
開議の宣告.....	4 1
一般質問.....	4 1
横 澤 は ま 君.....	4 1
中 山 眞 君.....	5 7
大 厩 美 秋 君.....	7 1
矢 口 稔 君.....	9 1
大 出 美 晴 君.....	1 1 3
散会の宣告.....	1 2 7

第 3 号 (12月14日)

議事日程.....	1 2 9
本日の会議に付した事件.....	1 2 9
出席議員.....	1 2 9
欠席議員.....	1 2 9
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名.....	1 2 9
事務局職員出席者.....	1 2 9
開議の宣告.....	1 3 1
一般質問.....	1 3 1
服 部 久 子 君.....	1 3 1
薄 井 孝 彦 君.....	1 4 5
松 野 亮 子 君.....	1 6 7
倉 科 栄 司 君.....	1 7 1
散会の宣告.....	1 8 3

第 4 号 (12月17日)

議事日程.....	1 8 5
本日の会議に付した事件.....	1 8 5
出席議員.....	1 8 5
欠席議員.....	1 8 5
地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名.....	1 8 5
事務局職員出席者.....	1 8 6
開議の宣告.....	1 8 7
各担当委員会に付託した案件について、委員長報告、質疑.....	1 8 7
議案第 4 0 号から議案第 4 2 号について、討論、採決.....	1 9 3
議案第 4 5 号、議案第 4 6 号について、討論、採決.....	1 9 5
日程の追加.....	1 9 6
議案第 4 7 号について、上程、説明、質疑、討論、採決.....	1 9 6
同意第 5 号、同意第 6 号について、上程、説明、採決.....	1 9 8
日程の追加.....	2 0 0
同意第 7 号から同意第 1 8 号について、上程、説明、採決.....	2 0 0
日程の追加.....	2 0 4
総務福祉委員会、振興文教委員会の閉会中の所管事務の調査の件.....	2 0 4
日程の追加.....	2 0 5
議会運営委員会の閉会中の所掌事務の調査の件.....	2 0 5
日程の追加.....	2 0 5
議員派遣の件.....	2 0 6
教育長あいさつ.....	2 0 6
町長あいさつ.....	2 0 8
閉議の宣告.....	2 0 8
議長あいさつ.....	2 0 9
閉会の宣告.....	2 0 9
署名議員.....	2 1 1

池田町告示第108号

令和3年12月池田町議会定例会を次のとおり招集する。

令和3年11月29日

池田町長 齋 聖 章

1.期 日 令和3年12月6日(月) 午前10時

2.場 所 池田町役場議場

応招・不応招議員

応招議員（12名）

1番	松野亮子君	2番	大厩美秋君
3番	中山眞君	4番	横澤はま君
5番	矢口稔君	6番	大出美晴君
7番	薄井孝彦君	8番	服部久子君
9番	和澤忠志君	10番	那須博天君
11番	倉科栄司君	12番	矢口新平君

不応招議員（なし）

令和 3 年 12 月 定例 町 議 会

(第 1 号)

令和3年12月池田町議会定例会

議事日程(第1号)

令和3年12月6日(月曜日)午前10時開会

諸般の報告

報告第19号 議長が決定した議員派遣報告について

報告第20号 議員派遣結果報告について

報告第21号 例月出納検査結果報告(9・10・11月)について

報告第22号 定期監査報告について

報告第23号 寄附採納報告について

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 会期の決定

会期 - 12月6日(月)から17日(金)までの12日間

日程第3 町長あいさつ

日程第4 承認第10号 令和3年度池田町一般会計補正予算(第5号)について

上程、説明、質疑、討論、採決

日程第5 議案第40号 池田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

上程、説明、質疑

日程第6 議案第41号 池田町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

上程、説明、質疑

日程第7 議案第42号 池田町特別職の職員等の給与に関する条例及び池田町執行機関の
附属機関設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

上程、説明、質疑

日程第8 議案第43号 町道の路線の廃止について

議案第44号 町道の路線の認定について

一括上程、説明、質疑、討論、採決

日程第9 議案第45号 令和3年度池田町一般会計補正予算(第6号)について

議案第46号 令和3年度池田町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)につ

いて

一括上程、説明、質疑

日程第10 議案第40号より第42号、議案第45号、第46号について

各担当委員会に付託

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（12名）

1番	松野亮子君	2番	大厩美秋君
3番	中山真君	4番	横澤はま君
5番	矢口稔君	6番	大出美晴君
7番	薄井孝彦君	8番	服部久子君
9番	和澤忠志君	10番	那須博天君
11番	倉科栄司君	12番	矢口新平君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	甕聖章君	副町長	小田切隆君
教育長	竹内延彦君	総務課長	塩川利夫君
企画政策課長	大澤孔君	会計管理者兼 会計課長	丸山光一君
住民課長	蜜澤佳洋君	健康福祉課長	宮本瑞枝君
産業振興課長	宮澤達君	建設水道課長	丸山善久君
学校保育課長	寺嶋秀徳君	生涯学習課長	下條浩久君
総務課長補佐 兼総務係長	山岸寛君	監査委員	吉澤暢章君

事務局職員出席者

事務局長	丸山光一君	事務局書記	矢口富代君
------	-------	-------	-------

開会 午前10時00分

開会及び開議の宣告

議長（矢口新平君） おはようございます。

令和3年12月池田町議会定例会が招集されました。御多忙の折、御参集願ひ、大変御苦労さまでございます。

各位の御協力をいただき、順調な議会運営ができますよう、よろしくお願ひを申し上げます。

ただいまの出席議員は12名全員です。定足数に達していますので、ただいまから令和3年12月池田町議会定例会を開会します。

会議に入る前にお諮りします。

本会議の発言で不適切な用語等があれば、その部分においては言い間違いとして、議長において会議録を修正させていただきたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

これから本日の会議を開きます。

諸般の報告

議長（矢口新平君） 諸般の報告を行います。

報告第19号 議長が決定した議員派遣報告について。

この報告については、前定例会後、急を要する場合として、池田町議会会議規則第128条の規定により、議長において議員の派遣を決定しましたので、お手元に配付した資料のとおり報告します。

報告第20号 議員派遣結果報告について。

この報告については、派遣議員から議長に報告があり、お手元に配付した資料のとおりです。

報告第21号 例月出納検査結果報告（9月・10月・11月）について。

この報告については、監査委員から議長に報告があり、お手元に配付した資料のとおりです。

報告第22号 定期監査報告について。

吉澤代表監査委員。

〔監査委員 吉澤暢章君 登壇〕

監査委員（吉澤暢章君） おはようございます。

それでは、令和3年12月2日、町長に提出いたしました令和3年度定期監査の結果に関する報告をいたします。

なお、定期監査につきましては、倉科監査委員と私とで2名で行いました。

地方自治法第199条第4項の規定に基づき、令和3年度定期監査を実施し、その結果に関する報告を決定したので、同条第9項の規定により次のとおり提出をいたします。

監査の期間。

令和3年11月4日から11月15日までの6日間。

監査の対象。

下記各課等全般にわたり監査の対象といたしました。

監査の範囲。

令和3年4月1日から9月30日までに執行された財務に関する事務の執行状況、経営に係る事業の管理について。

監査の方法。

定期監査に当たっては、財務に関する事務、経営に関わる事業の法令に基づいて、適正かつ効率的に執行されているかに主眼を置き、各課等の関係職員から、監査資料に基づき執行状況及び帳簿等を審査し、監査を実施した。

監査した書類等については、一般会計の職員等の給与費など人件費を除く課担当ごと、特別会計の歳入歳出計算書、委託料・負担金・補助金の状況資料、工事実施状況資料、袋会計の通帳等及び実査その他の資料。

監査の結果。

予算の執行状況。

予算は目的に従って、適正に執行されているものと認められた。

事務処理状況。

収入事務については、関係諸帳簿を調査した結果、おおむね良好な処理がなされていた。

国庫支出金、県支出金については事業施工中であり、まだ収入されていないものも多いが、事業の執行状況に併せ、収入の時期については遅れのないよう留意をされたい。歳入については、一般会計全体で歳入予算現額48億6,823万2,000円に対し、収入済額27億1,329万4,564円、収入率は55.7%である。

各担当課における執行状況につきましては、下記の表のとおりです。

国民健康保険特別会計。

昨年度の1人当たりの医療費の県内市町村順位は、一昨年の16位から10位となり、県内市町村平均を上回る結果となった。歳出の保険給付費では、昨年同期と比較すると3,125万95円と増加している。歳入では、国民健康保険税の収納率は34.6%で、昨年より0.4%減少している。

後期高齢者医療特別会計。

歳入の後期高齢者保険料の収納率は、9月末現在で47.9%である。歳出の後期高齢者医療広域連合納付金の執行率も43.4%であり、共に順調に推移している。

工場誘致特別会計。

支出の執行はない。

簡易水道特別会計、水道事業会計、下水道事業会計につきましては、下記の表のとおりです。

以上、公営企業会計を除く5会計は、合わせて61億9,549万5,000円の予算のうち、27億7,555万6,760円の予算執行がなされ、執行率は44.8%となっている。

令和3年度定期監査の要望及び指摘事項について。

町民、議会、町が危機感を共有し、引き続き一丸となって歳費削減に取り組んでいただきたい。

職員間の事務量の偏りがないように、適切な人員配置と計画的な職員採用を考慮していただきたい。

コロナの3回目のスムーズな予防接種について、体制づくりを進めていただきたい。

以上、一般会計、特別会計及び公営企業会計について申し述べた。令和3年度の予算執行では、大変厳しい財政状況の下ではあるが、補正予算については十分検討し、当初予算を尊重していただきたい。令和3年度において計画されている諸事業は、昨年引き続き新型コロナウイルスの影響で中止になった事業もあり、令和4年度の予算編成は、それらの事情を考慮して編成していただきたい。職員各位の努力により、各会計とも適正に執行をされている。

なお、事業の執行が年度後半に集中するところもあるが、事業担当課において職員間の連携を十分に図られ、円滑な事務事業の執行をお願いしたい。今後も国や県の動向に十分配慮し、より一層の行財政改革への取組と事業執行に努めていただきたい。

以上で定期監査報告とさせていただきます。

議長（矢口新平君） 報告第23号 寄附採納報告について。

この報告については、お手元に配付した資料のとおりです。

以上で諸般の報告を終わります。

会議録署名議員の指名

議長（矢口新平君） 日程1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、4番、横澤はま議員、8番、服部久子議員を指名します。

会期の決定

議長（矢口新平君） 日程2、会期の決定を議題にします。

会期、日程については、議会運営委員会を開催し、あらかじめ審議を願ってあります。

議会運営委員長から報告を求めます。

矢口稔議会運営委員長。

〔議会運営委員長 矢口 稔君 登壇〕

議会運営委員長（矢口 稔君） おはようございます。

議会運営委員会の報告を申し上げます。

去る11月29日に開催いたしました議会運営委員会において、令和3年12月池田町議会定例会の会期及び議事日程について協議をいたしました。

会期は本日12月6日から12月17日までの12日間とし、議事日程はお手元に配付のとおりといたしましたので、よろしくお願いたします。

以上、議会運営委員会の報告を申し上げます。

議長（矢口新平君） ただいまの委員長報告に質疑がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

お諮りします。

本定例会の会期、日程については、委員長の報告のとおりとしたいが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、別紙会期日程案のとおり決定しました。

町長あいさつ

議長（矢口新平君） 日程3、町長あいさつ。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） おはようございます。

12月定例会の開催に当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

師走を迎え、何かと気ぜわしい時期となりました。議員各位には、御多用のところ御出席をいただき、本日から17日までの会期、日程を御決定いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染もようやく落ち着いてきたところでありますが、また、新たな変異株の感染が確認され、世界中に脅威をもたらしております。年末年始を控え、感染対策には十分留意した生活をしてまいりたいと考えております。なお、3回目となりますワクチン接種につきましては、来年の2月頃から進める予定となっておりますが、一日も早い終息を願っております。

また、このたび、行財政改革委員会より第1次の答申が示されました。大変厳しい内容となっておりますが、真摯に受け止め、どのように対応するか、検討してまいる所存でございます。

さて、本定例会に提案いたします案件は、報告5件、承認1件、条例改正案等5件、補正予算案2件の計13件であります。また、最終日には、人事案件等を予定しております。よろ

しく御審議、御決定をいただきますようお願い申し上げます、ごあいさついたします。

承認第10号の上程、説明、質疑、討論、採決

議長（矢口新平君） 日程4、承認第10号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第5号）
についてを議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 承認第10号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第5号）の提案理由の説明を申し上げます。

この承認案件は、国及び県の交付金を活用し、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた事業者への支援を行うための事業費を計上した補正予算を10月1日付の専決処分により編成したもので、地方自治法第179条の第1項の規定により、議会に報告し、承認を願うものであります。

歳入歳出それぞれ1,531万8,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ46億7,764万7,000円といたしました。

歳入では、款14国庫支出金の地方創生臨時交付金に1,071万8,000円を、款15県支出金の特別警報 発出事町村等事業者支援交付金に460万円をそれぞれ計上いたしました。

歳出では、款7商工費に、今年度3回目となる中小企業事業継続支援給付金1,411万8,000円及びハープセンターの指定管理者使用料支援金120万円を計上いたしました。

以上、承認第10号について提案理由の説明を申し上げます。御審議の上、御承認お願い申し上げます。

議長（矢口新平君） これをもって提案説明を終了します。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

5番、矢口稔議員。

5番（矢口 稔君） 1点お聞かせください。

コロナの交付金を活用した事業でございまして、説明欄にあります池田町中小企業事業継

続支援給付金事業、12月1日まででこの第3弾が終わったわけでございますけれども、まだ実績全部出てきていないかと思いますが、どのような手応えと申しますか、実績が上がってきたのか、分かれば教えていただければと思います。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） では、お答えいたします。

今の申請自体は111件の申請がありました。業種的には飲食業をはじめとしまして、工業ですとか小売業、一部農業もありましたが、幅広く出てきているというところで、予算よりも多い申請が出てきましたので、要項どおり案分をして支給をしていく予定でございます。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 質疑はほかにございせんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

討論を行います。

まず、この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって討論を終了します。

承認第10号を挙手により採決します。

この議案を原案のとおり承認することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり承認されました。

議案第40号の上程、説明、質疑

議長（矢口新平君） 日程5、議案第40号 池田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 議案第40号 池田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について説明を申し上げます。

本改正は、令和3年6月11日に公布された全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律により、国民健康保険法等関係法令が改正されたことによるものです。

主な改正点は、令和4年4月1日より、国民健康保険税の均等割について未就学児（6歳に達する日以後の最初の3月31日以前）にかかるものを2分の1に軽減する内容となっております。なお、既に世帯所得による軽減対象になっている世帯につきましては、所得による軽減後の額をさらに2分の1の軽減となります。

以上、提案の説明を申し上げます。御審議の上、御承認いただきますようお願いいたします。

議長（矢口新平君） これをもって提案説明を終了します。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

議案第41号の上程、説明、質疑

議長（矢口新平君） 日程6、議案第41号 池田町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 議案第41号 池田町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定に

ついて提案理由の説明を申し上げます。

本条例は、産科医療補償制度の見直しに併せた出産育児一時金の額の見直し及び新型コロナウイルス感染症の定義規定の変更に伴い、所要の改正を行うものであります。

改正の内容につきましては、出産育児一時金に加算される産科医療補償制度の掛金が引き下げられることに併せて、少子化対策の重要性に鑑み、加算前の額を40万8,000円に増額し、支給総額を42万円に維持するものでございます。

以上、提案理由の説明を申し上げます。御審議の上、御決定をお願いいたします。

議長（矢口新平君） これをもって提案説明を終了します。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

議案第42号の上程、説明、質疑

議長（矢口新平君） 日程7、議案第42号 池田町特別職の職員等の給与に関する条例及び池田町執行機関の附属機関設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 議案第42号 池田町特別職の職員等の給与に関する条例及び池田町執行機関の附属機関設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、提案理由の説明を申し上げます。

本改正は、あづみ野池田いきいき食育条例の施行に伴い、非常勤特別職の名称を健康長寿食育推進協議会委員に改める必要があるための改正であります。

御審議の上、御決定をお願いいたします。

議長（矢口新平君） これをもって提案説明を終了します。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

議案第43号、議案第44号の一括上程、説明、質疑、討論、採決

議長（矢口新平君） 日程8、議案第43号 町道の路線の廃止について、議案第44号 町道の路線の認定についてを一括議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 議案第43号 町道の路線の廃止について、議案第44号 町道の路線の認定について一括提案理由の説明を申し上げます。

初めに、議案第43号 町道の路線の廃止についてであります。

これは道路法第10条第1項の規定に基づき、町道の路線の廃止を提案するもので、県営経営体育成基盤整備事業の会染西部地区において、農地の区画整備に伴い、町道154号線ほか5路線が整備区域内となるため、一旦、この路線の全線を廃止するものであります。

次に、議案第44号 町道の路線の認定についてであります。

これは道路法第8条の第2項の規定に基づき、町道の路線の認定を提案するもので、議案第43号で廃止した町道172号線の1路線を除く町道154号線のほか4路線の終点を変更し、分割となった路線は、新たに町道302号線を附番し、改めて町道の路線の認定を行うものであります。

以上、議案第43号及び議案第44号について提案理由の説明を申し上げます。御審議の上、御決定をお願いいたします。

議長（矢口新平君） これをもって提案説明を終了します。

議案第43号 町道の路線の廃止について質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

討論を行います。

まず、この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって討論を終了します。

議案第43号を挙手により採決します。

この議案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

議案第44号 町道の路線の認定について質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

討論を行います。

まず、この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって討論を終了します。

議案第44号を挙手により採決します。

この議案は原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

議案第45号、議案第46号の一括上程、説明、質疑

議長（矢口新平君） 日程9、議案第45号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第6号）について、議案第46号 令和3年度池田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）についてを一括議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 議案第45号及び議案第46号について、一括提案理由の説明を申し上げます。

初めに、議案第45号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第6号）について説明を申し上げます。

歳入歳出それぞれ4,583万7,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ47億2,348万4,000円とするものでございます。

第2表の地方債補正では、防災対策事業債を270万円追加するとともに、臨時財政対策債の限度額を1億5,580万円に減額変更しております。

歳入の主なものとしては、まず、款10地方交付税に6,343万4,000円を追加しました。

款14国庫支出金では、障害者総合支援給付費に関する国庫負担金を主なものとして、1,580万8,000円を増額しております。

款15県支出金では、障害者総合支援給付費に関する県費負担金を主なものとして697万5,000円を増額、款20諸収入では、北アルプス森林組合の補助金返還金など112万円の増額、款21町債では、臨時財政対策債の発行可能額確定等により、4,150万円を減額するものであります。

一方、歳出の主なものとしては、款2総務費では、Jアラート用パソコンの更新やマイナンバーカード用プリンターの更新等を中心に、415万7,000円を増額としました。

款3民生費では、介護給付訓練等給付費をはじめ、会染保育園の施設修繕、池田保育園のエアコン設置に伴う設計委託、児童センターの公用車購入経費等3,196万5,000円の増額、款6農林水産業費では、北アルプス森林組合に係る県への返還金等101万6,000円を増額しまし

た。

款8土木費では、降雪に備え除雪委託や除雪機借り上げ等に588万円を増額、款10教育費では、中学校の修学旅行キャンセル料をはじめ、池田小学校校庭遊具の修繕、美術館及び創造館の消防設備修繕に、計229万2,000円を増額するものであります。

次に、議案第46号 令和3年度池田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について提案理由の説明を申し上げます。

歳入歳出それぞれ943万7,000円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ11億5,043万8,000円とするものであります。

歳入では、款3国庫支出金に4万7,000円、款8雑入に療養給付費等精算金として939万円をそれぞれ増額いたしました。

歳出では、款6諸支出金で療養給付費等精算に伴う交付金償還のため1,021万3,000円を計上し、予備費を77万6,000円増額いたしました。

以上、議案第45号及び議案第46号について、一括提案理由の説明を申し上げます。御審議の上、御決定をお願いいたします。

なお、議案第45号につきましては、補足説明を担当課長にいたさせます。

議長（矢口新平君） 補足の説明を求めます。

議案第45号中、歳入関係と企画政策課の歳出について、大澤企画政策課長。

企画政策課長（大澤 孔君） それでは、議案第45号 池田町一般会計補正予算（第6号）につきまして、歳入及び歳出のうち企画政策課関係の補足説明を申し上げます。

歳入歳出それぞれ4,583万7,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ47億2,348万4,000円とするものでございます。

まず、地方債補正及び歳入全般について御説明いたします。

3ページの第2表の地方債補正では、Jアラート用パソコン更新等で防災対策事業債を270万円追加するとともに、臨時財政対策債の発行可能額確定により、限度額を4,420万円減額し、1億5,580万円に変更しております。

続きまして、6ページ、歳入では、款10地方交付税は臨時財政対策債の確定を主な要因として、6,343万4,000円増額計上いたしました。

款14国庫支出金では、項1国庫負担金に、介護給付訓練給付費等の実績に基づく障害者総合支援給付費国庫負担金等1,311万4,000円をはじめ、項2国庫補助金に、マイナンバーカード用プリンター更新のための個人番号カード交付事務費補助金79万2,000円、児童手当シス

テム改修のための子ども・子育て支援事業費補助金52万4,000円等で、計1,580万8,000円を増額しております。

7ページの款15県支出金では、項1県負担金に障害者関係の負担金655万7,000円を増額してございますが、先ほどの国庫負担金の説明と同様のものがございます。

また、項2県補助金に、地域活動支援センターくわの木の利用者増に伴う地域生活支援事業県補助金31万6,000円等で、計697万5,000円を増額いたしました。

8ページ、款20諸収入では、美術館レジシステム購入に伴う指定管理者の負担金10万円及び北アルプス森林組合への補助金返還金を中心に112万円を増額、款21町債では、先ほど町債補正で御説明したとおり、臨時財政対策債の発行可能額確定による減額を中心に、計4,150万円を減額いたしました。

続きまして、企画政策課の歳出関係について御説明申し上げます。

9ページを御覧ください。

款2総務費、項1総務管理費、目6企画費では、92万6,000円の減額補正をお願いするものでございます。

説明欄、企画一般経費では、北アルプス広域連合の職員退職等に伴う経常費負担金112万6,000円の減額、また、移住定住推進事業では、空き家解体事業補助金1件分20万円の増額でございます。

企画政策課関係の補足説明は以上でございます。

議長（矢口新平君） 議案第45号中、総務課関係の歳出について、塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） それでは、総務課関係の補足説明を申し上げます。

予算書9ページ中段をお願いいたします。

款2総務費、項1総務管理費のうち、目11防災対策費ですが、369万1,000円の増額補正です。主なものはJアラート表示用パソコンの更新と防災無線非常時電源装置用蓄電池交換等でございます。

次に、下段の項2徴税費のうち、目2賦課徴収費60万円の増額補正は、町税等過誤の納付金をお願いするものです。

以上、総務課関係の補足説明を申し上げます。

議長（矢口新平君） 議案第45号中、住民課関係の歳出について、蜜澤住民課長。

住民課長（蜜澤佳洋君） それでは、住民課関係の補足説明を申し上げます。

10ページをお願いいたします。

2 款総務費、3 項 1 目戸籍住民基本台帳費は、79万2,000円の追加補正でございます。マイナンバーカードの記載事項に変更があった場合に、カードの追記欄に印字をするためのプリンターを更新するものでございます。

続いて、11ページをお願いいたします。

3 款民生費、2 項 3 目児童福祉費は、児童手当の現況届廃止に伴うシステム改修費で52万5,000円の追加補正でございます。

続いて、12ページをお願いいたします。

4 款衛生費、1 項 5 目墓地公園事業費の聖地解約に伴う返還金は、未使用聖地 2 件の返還がありましたので、墓地公園条例の規定により永代使用料の 2 分の 1 の額を返還するため、29万2,000円を計上しております。

住民課関係は以上でございます。

議長（矢口新平君） 議案第45号中、健康福祉課関係の歳出について、宮本健康福祉課長。

健康福祉課長（宮本瑞枝君） それでは、健康福祉課関係の補足説明を申し上げます。

10ページからとなります。

款 3 民生費、項 1 社会福祉費、目 3 障害者福祉費2,972万3,000円の増額です。主なものとしまして、説明欄、介護給付訓練等給付費2,542万8,000円であります。

続きまして、12ページをお開きください。

款 4 項 1 目 2 予防費23万5,000円の増額です。説明欄の感染症風しん予防接種事業国庫負担金過年度返還金確定に伴う補正でございます。

健康福祉課関係は以上であります。

議長（矢口新平君） 議案第45号中、産業振興課関係の歳出について、宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） それでは、産業振興課関係をお願いをします。

予算書は13ページからになりますので、お開きいただきたいと思います。

款 6 項 1 農業費、目 3 農業振興費ですが、8 万1,000円の増額補正です。内容としては、説明欄ですけれども、機構集積協力金 7 万1,000円ですが、農業を辞めて新たに農地中間管理機構を通じて農地の貸付を行った者に交付をするものであります。それから、農作物等災害経営支援利子補給金ですが、本年度、凍霜害を受けた農業者への経済支援としまして 1 万円計上いたしました。

次に、目 7 土地改良費ですが、20万円の増額補正です。これは農道 1 号線道路補修工事に係る分筆登記に係るものであります。

続きまして、項2 林業費、目1 林業振興費ですが、73万5,000円の増額補正です。北アルプス森林組合からの補助金返還額が増えたため、町から県への返上金を増額計上いたしました。

産業振興課の補足説明は以上です。

議長（矢口新平君） 議案第45号中、建設水道課関係の歳出について、丸山善久建設水道課長。

建設水道課長（丸山善久君） それでは、建設水道課関係の歳出についてお願いいたします。14ページをお願いいたします。

上段、8 款土木費、1 項土木管理費、1 目土木総務費は、道路台帳補正のための委託料に31万円の増額補正でございます。

次に、2 項道路橋梁費、1 目道路橋梁維持費は、除雪費用を中心に557万円の増額補正でございます。

説明欄の除雪委託料は、寒候期気象予報を基に450万円を増額補正し、現予算550万円と合わせました1,000万円で、町道約200路線の除雪を業者、自治会等に委託するものでございます。重機等借上料の107万円は、除雪用のホイールローダーと塩カル散布機を積載するための2 トンダンプの借り上げ費用が主なものでございます。

建設水道課関係の補足説明は以上でございます。

議長（矢口新平君） 議案第45号中、学校保育課関係の歳出について、寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 続きまして、学校保育課関係の補足説明を申し上げます。

予算書の11ページをお願いいたします。

中段になります。款3 項2 目1 児童福祉総務費127万円の増額補正でございます。

保育園運営事業53万6,000円につきましては、会染保育園のボイラー修繕のため施設修繕料30万円を、また、来年度予算で池田保育園保育室エアコン設置を行うための設計委託料として23万6,000円を計上するものでございます。

次に、保育認定事業73万4,000円につきましては、年度当初に概算金額として予算計上していた子ども・子育て支援給付負担金の確定により、不足分11万円の予算を計上し、また、新たに10月から広域入所者が2名増えたことに伴い、今年度3月までの広域負担金62万4,000円を増額補正する内容でございます。

次に、予算書12ページをお願いいたします。

目4 児童センター費44万7,000円の増額補正でございます。内容につきましては、主に中

古の公用車1台を購入する関連する予算計上でございます。

次に、予算書14ページ、下段をお願いいたします。

款10教育費、項1教育総務費、目2事務局費25万2,000円の増額補正でございます。内容につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、高瀬中学校3年生の修学旅行のキャンセル料金が発生したことに伴い、コロナ交付金の活用により対応をお願いするものでございます。

次に、予算書15ページ、上段をお願いいたします。

項2小学校費、目1池田小学校管理費27万5,000円の増額補正でございます。内容につきましては、池田小学校のブランコ修繕のため、一般修繕料の予算計上をお願いするものでございます。

学校保育課関係の説明は以上でございます。

議長（矢口新平君） 議案第45号中、生涯学習課関係の歳出について、下條生涯学習課長。生涯学習課長（下條浩久君） それでは、生涯学習課関係の補足説明を申し上げます。

歳入歳出ございますが、併せて御説明申し上げます。

最終15ページ、中段をお願いいたします。

まず、款20諸収入の関係でございます。

真ん中の財源内訳にございますレジシステム購入負担金10万円です。これは、6月に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業として、美術館レジシステム導入事業70万4,000円を御承認いただいておりますが、導入に当たりましては、指定管理者に一部負担を求めるべきという御意見をいただいておりますので、指定管理者と協議の結果、10万円を負担いただけることになりましたので、今回、計上させていただきました。

続きまして、歳出です。

まず初めに、款10教育費の項4社会教育費、目6美術館費の一般修繕料48万4,000円です。美術館におきまして、法定定期点検の際、ガス消火、消火器設備の操作パネルに不都合が生じており、これらを指摘されましたので、修繕するものであります。

次に、目7創造館費、一般修繕料128万1,000円です。創造館におきまして、落雷により消防非常放送設備の基盤が故障し、法定点検の際、指摘されましたので、これを修繕するものでございます。

生涯学習課関係は以上です。

議長（矢口新平君） これをもって提案説明を終了します。

議案第45号について、質疑を行います。

質疑はありませんか。

7番、薄井孝彦議員。

7番（薄井孝彦君） 小・中学校の研修旅行ですか、修学旅行ですか、これはもうやらないということで、こういう予算を出しているのでしょうか。ニュースなんか見ると、学校によっては県内に変更して、コロナの対策を図りながらやっているという自治体もあるんですけども、そういったことも、私は必要なことじゃないかと思うんですけども、その辺の考え方はどうなんでしょうか。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

高瀬中学校3年生の修学旅行につきましては、県内1泊旅行を10月下旬に実施済みでございまして、当初予定していた2泊3日の京都・奈良方面への旅行に代えて、県内1泊旅行を実施したんですけども、2泊3日の修学旅行の計画に対するキャンセル料金の発生があったということでございます。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 他に質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

議案第46号について、質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

議案第40号より第42号、議案第45号、第46号について、各担

当委員会に付託

議長（矢口新平君） 日程10、議案第40号から第42号まで、議案第45号、議案第46号を各担

当委員会に付託したいと思います。

職員をして、付託表の朗読をさせます。

丸山光一議会事務局長。

〔議会事務局長 朗読〕

議長（矢口新平君） ただいまの付託表により、各担当委員会に付託したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第40号から第42号まで、議案第45号、第46号を各担当委員会に付託することに決定いたしました。

散会の宣告

議長（矢口新平君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

本日はこれで散会いたします。

御苦労さまでした。

散会 午前10時49分

令和 3 年 12 月 定例 町 議 会

(第 2 号)

令和3年12月池田町議会定例会

議事日程(第2号)

令和3年12月13日(月曜日)午前10時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員(12名)

1番	松野亮子君	2番	大厩美秋君
3番	中山真君	4番	横澤はま君
5番	矢口稔君	6番	大出美晴君
7番	薄井孝彦君	8番	服部久子君
9番	和澤忠志君	10番	那須博天君
11番	倉科栄司君	12番	矢口新平君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	麩聖章君	副町長	小田切隆君
教育長	竹内延彦君	総務課長	塩川利夫君
企画政策課長	大澤孔君	会計管理者兼 会計課長	丸山光一君
住民課長	蜜澤佳洋君	健康福祉課長	宮本瑞枝君
産業振興課長	宮澤達君	建設水道課長	丸山善久君
学校保育課長	寺嶋秀徳君	生涯学習課長	下條浩久君
総務課長補佐 兼総務係長	山岸寛君		

事務局職員出席者

事務局長 丸山光一君 事務局書記 矢口富代君

1 2 月定例議会一般質問一覧表

番号	質 問 者	質 問 要 旨
1	4 番 横澤はま議員	1．行財政改革・持続可能な行財政運営について 2．健康長寿・食育のまちづくりの取り組みについて
2	3 番 中山 眞議員	1．池田町行財政改革推進委員会の第一次答申について、町長の受け止め方と今後の展開 町長の財政危機マネジメントを問う 2．令和4年度予算編成の町長基本方針について 会染西部地区ほ場整備事業、会染保育園等の大型事業計画の中での財政健全化の道筋は
3	2 番 大厩美秋議員	1．児童の通学路における安全対策について 2．交流センターかえで、創造館の運用について
4	5 番 矢口 稔議員	1．経常経費の抑制につながる適正な人材の確保について 2．町が取り組む地球温暖化対策について 3．町の情報発信のあり方について
5	6 番 大出美晴議員	1．令和4年度当初予算編成方針における町長の具体的な道筋を聞く
6	8 番 服部久子議員	1．福祉灯油の実施を 2．米価下落に対して町の対応は 3．会染保育園の町民説明会とアンケートを通して町の考えは 4．子供を守るための新型コロナ感染症対策は
7	7 番 薄井孝彦議員	1．町長は町行財政の改革をどのように進めるか 2．業務引継ぎはどう改善するのか 3．災害時の避難対策・田んぼダムの取り組み強化を 4．企業版ふるさと納税「地方創生応援税制」を導入し、「花とハーブの里池田町」の取り組み強化を

8	1 番 松野亮子議員	1 . 雑草の有効活用で、ゴミ削減、肥料の供給、地球温暖化対策を
9	1 1 番 倉科栄司議員	1 . 町営墓地の階段部分に手すりの設置を 2 . 町営墓地の P R について 3 . 行政のリーダーとしての言葉の発信について

開議 午前10時00分

開議の宣告

議長（矢口新平君） おはようございます。

ただいまの出席議員は12名全員であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

なお、吉澤監査委員、所用のため欠席との届出がありました。

会議に入る前にお願い申し上げます。発言をされる際は、できるだけマイクに向かってお話しいただきますようお願い申し上げます。

一般質問

議長（矢口新平君） 日程1、一般質問を行います。

質問の通告がありましたので、質問の順序を通告順とします。

職員をして一般質問一覧表の朗読をさせます。

丸山光一議会事務局長。

〔議会事務局長 朗読〕

議長（矢口新平君） 日程1、一般質問を行います。

横 澤 は ま 君

議長（矢口新平君） 1番に、4番の横澤はま議員。

横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） おはようございます。4番の横澤はままでございます。

今年は、選ぶとすれば、10大ニュースの中に私は2つ掲げたいと思います。去年は3億円プロジェクトが発足され、そして、今年は、まず行財政という問題で行財政改革推進委員会

が立ち上げられ、今まさに検討しております。明日の未来、池田町のために行財政の健全化を図るという、そういう大きな課題が掲げられております。

もう一つは、やはり健康長寿ということで、町も健康長寿の町づくりということが掲げられました。今年、議会の提案でございましたあづみ野池田いきいき食育条例が制定され、まさにこれから、池田町の町民の皆さんの健康づくりのための要となる条例を制定し、粛々とこれから進められる、そんな2つの課題が大きいかなと思います。

そんな願いを持ちまして、今回は2点の課題で質問させていただきます。

まず、行財政改革・持続可能な行政財政運営についてであります。

町の行財政改革推進委員会より、機構・組織の改善で、1、組織のスリム化について、11月8日、第1次答申が行われました。行政自らが財政危機を招いたという反省に立ち、役場全体として、答申を着実に実施する姿勢を示すことを求めています。

この答申は、聖域なく抜本的な改革を求めており、当面する財政危機を克服し、池田町の持続可能な維持・発展の土台を築くため、役場職員の率先した取組と議会、町民一丸となって全力を尽くすことが期待されたものであります。今の町長の考えをお聞きいたします。

まず、職員数の削減について、町長の決意でございます。

平成28年度の正規職員は92人、人件費6億5,000万円から徐々に上がり、令和2年度は106人、人件費7億1,000万円、なお、令和3年度は102名と14人、人件費6,000万円が増加しております。令和4年度から令和8年度までの5年間を財政危機緊急対応期間と位置づけ、増加させた職員数を削減し、92人にするという答申が出されておりますが、その決意をお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） おはようございます。

一般質問、御苦労さまでございます。

それでは、ただいまの横澤はま議員の御質問にお答えをしたいと思います。

職員数の削減についてでありますけれども、このたび行財政改革推進委員会から答申をいただきましたので、職員数の削減について、目標を持って取り組む決意でございます。

以上、答弁いたします。

議長（矢口新平君） 4番、横澤はま議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） 目標を持ってということで、ただいまの町長のお話でございます。その目標とは、かつて平成28年度には92名ということで、それに戻すという形というふうな解釈を私はしておりますが、かつて、池田町のまちづくり推進プランを見ますと、平成12年は117人、そして、平成17年には103名となりまして、平成22年は93人となっている、その記録がございますが、新規採用を最小限に抑えることによって、一般財源の一般職の職員総数を削減したことが、この中でも分かるわけでありまして、その当時は非常に効率的で効果的な行財政運営がされてきたのかなという、そういう努力がうかがわれております。

御存じだと思いますけれども、平成19年からの10年間のプランでは、当時の職員数の削減の手法というのがありまして、削減の取組は次のようなことが述べられております。新規採用の抑制、退職者3名につき1名の割合で採用と。そして、民間への業務委託の推進、これは、今進められております指定管理制度の活用ということでありまして。それから、ITの活用、これは今もずっと事務の効率化を図っていらっしゃるといふ、そういう解釈だと思いますが、それから、ここがやはり問題ではないかなと思うんですが、事務事業の再編、それから整理・廃止・統合、こういうことに既に、かつて取り組んでおったんですが、その辺のところは課題ではないかなというふうに思うんですが、また、もう一つの課題としては、役場組織の機構改革、これはやはり、これからの取組になるのではないかなというふうな、そんなことであります。

ぜひ、こういう職員定数の条例の改正、今回は検討を求めています、その辺のところは、町長はどんなふうにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ただいま議員の御指摘のように、あらゆる角度から検討いたしまして、目標92名ということでありますので、令和8年度までに92名にするという方向で、今、検討を進めてまいりたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） ぜひ、そんな中で検討されまして、そして職員の皆さんも、非常に削減される中ではいろいろな抵抗がございますが、今申し上げたとおり、一つ一つ解決されていけるような、92名に向かってということをお願いをしたいと思います。

次にまいりたいと思います。

職員給与の削減についての考えであります。

財政危機に対する行政責任の明確化と人件費削減達成の観点から、令和4年度の1年間、正規職員給料5%、会計年度任用職員2%の一律削減を求めています。行革委員会の会議録を見ますと、財政危機に至ったことは、町民の声として、職員にも責任があると女性委員からも発言されております。行政責任を明らかにする必要があります。町長の考えをお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 職員給与の削減についての御質問でありますけれども、この件につきましては、本年2月に、一般職員については責任なしと判断いたしまして、削減を行わないと明言をいたしました。その時点で結論を出しておりますので、御理解いただきたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） この議論は非常に、今回の行財政改革委員の皆さん方からも再度答申を出されておりますが、薄井議員の一般質問とも重なることがありますけれども、これは11月10日の第1次答申に対しまして、まちづくり懇談会の席で、今言われたとおり、一般職員の給料の削減は行わない方針とし、諮問の対象外と町長はおっしゃいまして、今もそういうことだというお話でありますけれども、行財政改革推進委員会は、大変不適切で審議と答申を軽視するものであるゆえに、組織のスリム化、人件費削減で、職員給料等の削減の指摘は趣旨に沿うとして発言の撤回を申し入れ、この26日に提出されました。答申を提出した直後、検討を行うこともなく、町長の発言は非常に、私自身も大変不適切な回答だというふうに思っております。

中では、モチベーションの低下、いわゆるやる気、意欲、そして動機ですね、そういったことで資質向上を図りたいとお聞きしておりますけれども、やはり職員の皆さん方の公僕としての向かう姿勢が問われていませんか。今こそ、町民と行政との信頼関係をやはり構築すべきであり、自助・共助・公助の原則の下に、魅力あふれる美しい町づくりを目指す。財政難を招いた責任は、やはり庁内全体にあると私は思います。

そういうことで、町長はじめ職員の皆さんの誠意をぜひ示していただきたい、町長はそういうことでの促す心を示していただきたいと、そんなふうに思っております。

しかも、行財政のほうでは、決して無理なことではないわけです。令和4年度のみで責任としての形を示してほしいという、そういう願いの中での答申であります。ぜひもう一度、町長、この辺のところを考えていただけませんか。再度、町長の御意見をお願いしたいと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 先ほどお答えいたしましたとおり、責任という部分が一番問題でありますけれども、私は責任なしということで結論を出しました。これは懇談会等を通して、責任はないという御意見が私としては大半を占めたと、責任あるということの意見は少数であったと私は認識しております。

そういう点からということもありますけれども、私としても、一般職員には責任なしということで結論を出したということですので、御理解いただきたいと思います。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） これは押し問答になりますけれども、常識としまして、この辺の町民が、僅かの声かもしれませんが、あるいは逆に多いかもしれません。この責任というものは、私が申し上げるのは、やはりそのモチベーションという低下、モチベーションに低下ということは、私は公僕としての立場ではないというふうに思います。やる気です。どんなことも、これからの町民を救うといえますか、財政を健全にしていくためには、物で示さなければ、町民はどうなのでしょう。モチベーションは、ただのやる気、意欲、これは当たり前のお話であります。その辺を私は、もう一度考えていただきたいということで、次にまいりたいと思います。

次、組織体制の見直しです。

答申では、令和4年度に課の統合で、10課を8課とするよう求めています。総務課と企画政策課を統合し総務課とする、2、産業振興課と建設水道課を統合して振興課にする、企画財政を総務課長が担当し、庁内の取りまとめ部局として総合調整機能を果たすべきとし、振興課は前回の行革委員会、平成16年の答申で実施しました。

今回、財政危機を乗り切るために組織体制の見直しは必要と思いますが、町長の考えを伺います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えいたします。

この件につきましても、行財政改革推進委員会の答申を受けまして、答申に沿うように行
ってまいります。ただ、課の名称につきましては、職員の意見などを勘案して検討してまい
りたいと考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） 検討というんですけれども、もうこれはやっていかなければいけない
という見通しの中で、今、実際に庁内で、こういうことを十分議論されておるのでしょうか。
住民ニーズに応じた簡素で効率的な行政運営を行う上にも、これは、先ほどの話ではありま
せんけれども、平成10年度以降、行政組織・機構改革が行われております。

今回、庁内職員間での効率的な行政運営や総合的・横断的課題に対応しやすい組織の見直
しは、どのように進められているのでしょうか。

また、今回の係の再編成・統合や、これに当たっての留意点も答申に示されております。
そういう中で、もう既に何回かやられているはずだと思うんですが、その辺のところが見え
ておりませんが、御回答をお願いしたいと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 答申にありましたように、ただいま10課でありますけれども、これを
8課にするということで、答申にある課の統合ということで進めているところであります。
今、各課に投げかけておまして、どんな体制にするか、各課並びに係についても、それぞ
れの課で検討するという段階にありますので、結論につきましては、新年度近くになりまし
てからということになるかと思いますが、10課から8課にするということは変わりませんの
で、御理解いただきたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） ぜひ効率のよい、そして効果の上がる、そういう課になるようにお願
いをしたいと思います。

次にいきます。

早期退職者制度の導入についてであります。

人件費の削減を図る観点から、令和4年と令和5年の2年間に限り、45歳から54歳の職員

を対象に、早期退職者制度を実施することを求めています。どのように制度化するのか、お聞きいたします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） それでは、ただいまの御質問でありますけれども、早期退職者制度ということではありますが、町では現在、55歳以上の対象者については制度がございます。その年齢を下げるということで、新たな制度を設けることになります。

ただ、期間については、2年にするのか、さらに延長するのか、検討を要するものと考えております。一応目安といたしましては、45歳以上ということになるかなと思います。御理解いただきたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） 大変申し訳ないんですが、今、45歳から54歳、対象者の人数というのは何人になるんでしょうか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） ちょっと、ただいま数字は持ち合わせておりませんので、また後でお答えしたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） また後ほどお聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。次にいきます。

業務の合理化・効率化の推進、公平な人事評価の確立、人材育成についてであります。

業務を見直し、合理化・効率化をどのように進めるのでしょうか。年功序列を改め、職務執行能力、評価により昇進・昇格するシステムを求めています。庁内の活発な意見交換を通じて職員の職務能力を向上させ、人材育成を進める。これらを具体的にどのように進められるのか、お聞きいたします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） ただいま業務の合理化についての御質問でありますけれども、御指摘の内容につきましては、行政の大きな課題の一つであります。一気の見直しには多くの課題

がありますけれども、御指摘のように庁内で十分議論し、できるところから進めてまいりたいと考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） これからのお話でありますけれども、公平な人事評価あるいは人材育成というのは、非常になかなか、面倒というか、難しい問題かと思いますが、これも職員の資質向上や意欲、あるいは能力の高い人材育成・強化に努めるために、これまでに幾つかの目標があったかと思います。

例えば職員提案制度の充実、これが、前にもありました、ボトムアップ・プロジェクトの活用というのがされておったわけですが、この辺のところが多岐なふうかなというところがありますし、それから、他の自治体と相互人事交流、これもやられていると思います。それから、多様な手法による研修機関の充実、こちら辺もどうか。それから、先ほど言いました人事評価と勤務実績の反映、これがどうなんだろうかな。それから、新規採用職員の人事評価制度など、今までは様々な取組をされてきたかと思います。

これも、やはり推進の前の計画の中にも盛り込んでおったわけですが、今そういうことがなされているかと思っておりますけれども、改めてそういった観点から、業務の合理化・効率化、それから評価、人材育成、こういうものが、人材育成について、特に財政健全化に向けた、そういった今後の図られていくのか、

具体的に、町長、これだけの職員の皆さんとやっていくわけですが、もっと町長としての具体的な確立や育成について、職員の皆さんを交えてディスカッション、あるいは、していく機会があるのではないかと思うんですが、その具体的な町長としてのどうするんだというものを、もう一度お伺いしたいと思っております。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 確かに人事評価等につきましては、非常に難しい問題がございますが、研修会等については、年間通しまして、それぞれのスキルアップ、あるいは職員としての在り方等の研修会は行っているところであります。

御指摘のとおり、職員との懇談につきましては、若干不足しているというふうには感じておりますので、今後深めてまいりたいと思っております。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） ぜひ町長のリーダーシップを発揮していただきたいと思います。今までのような、やはり町長の姿勢といたしますか、そういった中で、庁内の皆さん方、分かっているのか、あるいは、どうしたのか、どうすればいいのかなというところの迷いもあるかと思うんですが、ぜひその辺の町長の技量を発揮していただきたい、そんなふうに思います。

次にまいります。

持続可能な確実な行政運営を求める町長の決意についてであります。

財政運営の一つに、経常経費を抑えて、できるだけ投資的経費に回して町民の要望に応えるという、そういうことがあります。平成28年度は、経常経費38億4,000万円が80%であります。投資的経費の9億6,000万円が20%です。令和元年、経常的経費42億3,000万円、約4億円の増となり、シミュレーションでは、令和8年度は43億円と見込んでおります。財政構造を大きくゆがめてしまいました。喫緊の課題は、この経常経費をいかに抑え、財政のバランスを取り戻すことではありませんか。

町長は、任期中に財政健全化の道筋をつけると言っておりますが、立て直しを図るには、先ほどのお話ではありませんが、町長のリーダーシップ、強い決断力が必要ですが、その決意をお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 持続可能な行政運営についての御質問でありますけれども、安定した財政運営を行うには、経常経費の削減が大きな要素となっております。行財政改革推進委員会の答申にもありますが、職員数の削減を当面の目標として取り組んでまいります。

ただ、年々、職員のベースアップがありますので、人件費の削減について、人員削減の効果がどのくらい反映されるか、懸念するところであります。

あわせて、公債費につきましても検討していくわけでございますけれども、公債費というのは今までの事業の結果でありますので、これは計画的に公債費を計上しながら、経常経費の削減に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） これはやはり、先ほどもお話をいたしましたけれども、どうしてもやはりバランスという問題、それから、もう一つは、これも薄井議員からの質問でも一つありますけれども、第1次答申の中で、目標の確実な達成の検証を行う、これは基本的なロードマップの策定が求められておるわけです。

町長の何となく曖昧な、よく分からない、そういった中でのロードマップが、きちんと見通しが立てられれば、これは私たちも、そして市内の皆さん方も、目当てというものが分かるわけなんです、そのロードマップというのは、いつ頃作成されるのか、ちょっとお聞きしたいと思いますが。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 再三、財政シミュレーション、長期についてのシミュレーションについてはお示ししております。決して曖昧な部分は、私はないと考えておりますし、またロードマップについては、人件費の削減をこれから盛り込みまして、今年度中にある程度進めていくと、新年度早々にはロードマップがお示しできるのではないかとこのように考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） 新年度はということの町長からのお話であります。ぜひ、しっかりしたロードマップを示していただきたいと、そう思います。

町民説明会では、厳しい財政状況は、表向きには危機的状況は脱した感があるというふうに町長はおっしゃっておりますが、私は、決して脱してはいない、非常に厳しい、深刻だなと、そんなふうに、町民の皆さんも受け止めていらっしゃる方が多いかと思っております。

今回の行革委員会の一答申は、人事費削減の重要な答申だと思います。町民の意見、そして議会との協議の上、決定し、速やかに実施されることを要望いたします。

次にまいりたいと思います。

健康長寿・食育のまちづくりの取組についてであります。

食をめぐる環境は大きく変化しており、コロナ禍を踏まえた新たな日常に対応した食育の在り方や様々な課題を抱えております。第4次食育推進基本計画、あずみ野池田いきいき食育条例から第2次池田町食育推進計画、町民の健全な食生活の実現と環境や食文化を意識した持続可能な社会の実現のために、SDGsへの貢献も視野に町民相互の理解を深め、連

携・協働し、食育を推進するものであります。

健康長寿社会がどう変わるのか。老化のスピードの速い今日、池田町の食育条例制定は、健康で幸せな人生を楽しみ、実現するためのよりどころとなる食育の基であります。取組についてお聞きいたします。

まず、食育から始まる健康長寿の情報発信であります。

条例を生かした町全体が取り組む食育推進は、いかに浸透させ、関心を高めるのかが課題であります。国の第4次食育推進基本計画では、食育に関心を持っている国民の割合を現状の83.3%から5年後の目標として90%を掲げております。

この具体的な目標を実現するため、食育の取組を子供から大人まで誰にでも分かりやすく発信し、普及啓発を目的として絵文字で表現した食育ピクトグラムが作成され、多くの人の活用が望まれております。

町として、食育条例が制定されたことから、町民の食育に関心や意識を高め、目標の実現のために、食育ピクトグラムの活用や食育のまちづくりの情報発信は必要であります。町長としての考えをお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 養町長。

町長（養 聖章君） それでは、御質問にお答えしたいと思います。

議員御指摘のように、健康長寿の実現のために、食育に対してどのように情報発信していくか、とても重要なことだと考えております。そこで、現在、議員も出席しております健康長寿食育推進協議会の中で、第2次池田町食育推進計画が策定されておりますので、食育のピクトグラム活用、その他情報発信の仕方について御意見をいただき、議論する中で、具体的な情報発信の仕方について深められたらと考えております。

町としても、その御意見を基に計画の中に入れ、情報発信していくと考えておりますが、いずれにいたしましても、町民の皆さんに大いに情報発信をして関心を持っていただく、また健康長寿ということへの自覚を持っていただく、これが大事なかなというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） これからのスタートであります。町民の皆さんが、食育の条例というのは一体必要なのかなとか、あるいは、これはちょっと制約されるのではないかと、いろいろ

るな御意見もいただきましたけれども、先ほど言ったように、やはり条例というものは、要といいますが、一番の目標だというふうに思っております。やはり生活の健康のよりどころになるものであります。

そういった中での、特に日本型食生活、これも違和感のある問題かも分かりません。しかし、今、全国あるいは池田町も、これだけの生活習慣病、いろいろな様々な健康の障害を持っておる中で、食として何が一番近道かなという中で、いろいろな専門家の中では、日本型食生活ということは大事なんだよと、和食文化というものは大事ですと、しかも池田町は米どころであります。

そういった中で、これからの進むべきというところを、今回の第2次食育推進計画で期待をし、私もその1人として努力してまいりたいと思っておりますけれども、町長の言われる町民がいかにか理解していくか、そこが大事なことであり、この発進というのは非常に、これからの窓口としてアピールしていくもので大事だと思っております。

そこにピクトグラムというのをお示ししていただいておりますが、これは全て12であります。それから、SDGsが全て17の中に、このピクトグラムの12に入っております。池田町のこれから出来上がります第2次には、共食の問題、それから栄養のバランス、もちろんそうです。主食、主菜、副菜という、こういうことであります。それから歯の、あるいは口腔の咀嚼の問題、それから災害、新しく条例の中にも、災害の備えとして明記されております。

それから、地産地消、後ほど話になりますけれども、その問題、それから日本の食文化の継承、これが一つの日本型食生活という、そういう代名詞であります。この日本型の食文化を継承していくことは、非常に大事だというふうになっております。

それから、朝食欠食の改善、池田町も若い人たちの朝食欠食、非常に問題であります。この辺のこと、それから生活習慣病、もちろんそうです。これも池田町が取り組む、減塩については非常に効果が出たという町長からのお話もいただいております、この啓発。

それから、食の安全の問題であります。環境への配慮、それから農林漁業の体験、食育の推進、こういった12が入っておりますので、ぜひ有効的な活用、あるいは店頭であり、食品業者であり、農業関係者であり、家庭の中でも浸透していくような、こういう形が取ればと思っております。

その中で生かしていくに、懸垂幕まではいきませんけれども、何とか町長、こういうSDGsあるいはピクトグラムの活用の中で、池田町はこうですよという発信みたいなものがないかどうか。それから、パンフレットですよ、家庭の中で。これだけは食、大事な

ことですよという、これからの制作になると思うんですが、町民へのアピールというものは何か考えがありますか、お聞きしたいと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ただいまの御質問でありますけれども、健康長寿食育推進会議でいろいろ検討されていると思いますが、その中で、発信の仕方についても恐らく議論されると思います。

私としては、今議員おっしゃるように、何らかのペーパーとして町民の皆さんにお配りして、そして、自覚と認識を持っていただけるようなやり方ができればなというふうには考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔 4 番 横澤はま君 登壇 〕

4 番（横澤はま君） ぜひ一緒にお願いをしたいと思います。

最後であります。

持続可能な社会を目指した地産地消の推進であります。

日本の食料自給率は、カロリーベースで38%と、主要国の中で際立って低いものとなっている一方、国内の農村地域では、農業の担い手が高齢化し、荒廃農地が増加しているという現状にあり、当町も深刻な問題であります。

このような状況下で、食育推進計画の基本方針の一つとして、食の循環と環境づくりに地産地消のさらなる推進を掲げております。国でも、学校給食における地場産物を活用した取組等を増やすことや、産地や生産者を意識し、環境に配慮した食品の選択を増やすこと目標値が見直されております。町として、今後、持続可能な地産地消の推進をどのように考えているか、お聞きいたします。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） それでは、お答えいたします。

地産地消を推進する上で、安定した地場産品の供給が必要不可欠であります。学校給食では、JAを通して地元の農産物を提供していますが、供給量や収穫のタイミング等で苦労していると聞いています。

人口減少や食の多様化に伴う米の消費量が減少している中で、水稻の生産調整による水田活用として、米と果樹や園芸作物等の高収益作物の複合経営を推奨していますが、園芸作物

は自家用が多く、販売用はなかなか広がらない状況です。

地産地消では、生産者は出荷・販売・宣伝・商品の品質管理等、生産以外の能力が必要になることから、直売所等へのお荷をためらっている生産者も多くいると思います。持続可能な地産地消を推進していく上では、生産者を育成しながら、マーケットとして収益性を考慮し、バランスを取って推進していく必要があると思います。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔4番 横澤はま君 登壇〕

4番（横澤はま君） 大変なことは私も承知しております。今、課長のほうの答弁で、これが本当にまさに現実かと思えます。

私は、この前に、給食センターのほうへちょっとお聞きいたしました。そのところの資料ですね、現状をちょっとお話しさせていただきますけれども、野菜が実は地元が29%であります。これは、令和元年度が16%ですので、約13%ですかね、上がって上昇してきております。その前はずっと低かったわけですが、令和2年度は非常に努力され、生産者の方も協力いただいたかなと、そういうことであります。

それから、地元で調達できる農産物と、これはいわゆる米とみそ、それから野菜、果物関係の合計であります。これが53%というような状況であります。県内は11%ということですから、国外は全くゼロであります。

こういうことの中で、非常に学校給食も、一生懸命努力されている形がありますけれども、特にその中で危惧されるのが、おみそであります。みそが実は、今年いっぱいでしょうか、大出議員は直接、おみその関係に携わられていらっしゃるけれども、そういう中で、おみそがなくなってしまうと。みそは、これ100%ですので、松川さんと一緒の。これがなくなるとどうなるのかなということ、担当のほうからも非常に心配をされております。ぜひおみそは製造のほうをお願いしたいなということが強い希望でありました。

その中で、いろいろな課題はあろうかと思いますが、町として、そういった生産物を何とか助成できないのかなと。それから、最近の話では、ハックルベリーの、地元の方の生産で製造されて売り始められているという、地元が、先ほどのお話ですが、小さい農業の方、農産の方が、いかに少しでも収益を得るとい、こういう方向にやはり持っていけないと駄目ではないかなと、駄目ではないかという、非常に希望の薄い問題だなと、そんなふうにお思っております。

それから、もう一つ大きな目標が、フードマイレージというのがよく聞かれます。世界では、日本が一番、地球環境としてのフードマイレージ、非常に外国に依存している。しかし、それが地元、国内産では非常に負荷がかかっている。CO₂の問題もありますし、世界的に日本はそういう状況に陥っております。そのために、やはり地元として、ここで取れたもの、そして、それがおいしい、顔が見える、これがやはり池田町の健康、野菜を食べようという、そういうところにつながるかというふうに思っております。

そんなことで、やはり簡単に解決できない問題でありますけれども、地域の皆さんも、そして経営されている方も、町民の皆さんも、みんなやはり、池田町で取れるものをもっと有効的にできないのかなと。そんな知恵を出し合って、少しでもいいから、おいしい野菜と、そしてお米と、そんなところをみんなで考える必要があるかと思えます。

キーワードの一つに、ワンヘルスという言葉が聞かれると思いますが、これは、私たちの健康と、そして社会や地域の地球の健康は一つという、こういう不可欠なことだということ、やはり私たちも念頭に置きながら進めていかなければいけないかなというふうに思っています、最終的に町長にお聞きしたいと思えます。

町長は基本方針では、農業政策の充実だとか、あるいはオーガニック農業の研究・推進を掲げております。これも非常に大事なことでありますが、しかし、具体的に町長、この対策ですね、特に地産地消、地場産物、これをどういうふうに進めていかれるのか。先ほどのおみその問題もそうですし、池田の特産品として持ってこようと思っておるけれども、町としてどういうふうにこれを考えていくのか、その辺の町長の御見解をお聞きしたいと思えますが。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 地産地消の問題でありますけれども、私も給食センターに関わっておりますが、非常に大事なことだなというよりも、やはりここを目指していくべきという考えはございます。しかしながら、これにこだわると、なかなか潤沢な供給体制が取れないとか、いろいろな課題が出てきております。

ただいま、みそのお話がありましたけれども、これにつきましても、これに町がどう関わるのかということも御指摘いただきましたが、なかなか難しいというふうに私は考えております。これ、守っていくことは大事でありますけれども、それに対して一つ一つ、やはり行き方というのがございます。全部が全部守られるというような体制を敷くということも不可能でありますので、十分生産者の皆さんと意見交換しながら、道筋が見いだせればなという

ふうには考えております。

いずれにいたしましても、大いに御意見いただきながら、行政として体制が取れるものかどうか、そんなことで検討していかれたらなというふうに思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 横澤議員。

〔 4 番 横澤はま君 登壇 〕

4 番（横澤はま君） 大変難しい問題でありますけれども、でも私たち、健康で生き抜くためには、この地域の食材をどう有効的に生かし、健康づくりをしていくか。そして、若い人たち、そして子供たちが、それを継承していくわけであります。ぜひそういう土壌を、この池田町の自然、水と、そして緑と、これを生かした中で、食の問題について大きく捉えた中で、ぜひ行政としての導きをお願いしたいなど、そんなふうに思います。

もう一つは、高齢化になりまして、お米、そして野菜等も、なかなか守っていけないというような現実はあるかと思えます。一つ、給食センターでちょっといただきましたけれども、エビイモとか大根を広津のほうで作られている方が学校給食に提供されております。ただ、一番問題は高齢化ということであります。

これが持続可能であるかどうかということは、非常に難しい問題でありますけれども、そういう中で、ぜひ池田町の健康を支える食というものをもう一度、行政として、できるところはやはり導いていただき、そして町民の意見をお聞きしていただいて、よりよい実現に向けた池田町、こういうことを望みたいと思えます。

最後にやはり、池田町は元気である、町長はよく言われます。健康長寿であります。その辺のところを、ぜひ庁内の皆さんと、そして共に、これからの生きる池田町、何だろう、安全で安心で、そして心も豊かな、そんな町をぜひ実現していきたいなど。また、ぜひ行政の力を発揮していただきたい、そんなふうに思いまして、私の質問を終わります。

議長（矢口新平君） 以上で、横澤はま議員の質問は終了しました。

一般質問の途中でありますが、この際5分ほど、暫時休憩をいたします。

休憩 午前10時54分

再開 午前11時00分

議長（矢口新平君） 休憩を閉じ再開します。

塩川総務課長より、先ほどの4番、横澤はま議員の質問に対して一言あるそうです。お願いいたします。

塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） それでは、先ほどの早期退職の関係でございますが、45歳から54歳の中ということで、人数的には男17名、女11名で計28名ですので、よろしく申し上げます。以上です。

中山 眞 君

議長（矢口新平君） 一般質問を続けます。

2番に、3番の中山眞議員。

3番、中山眞議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 3番、中山眞です。

先ほどの横澤議員に引き続き、行革審の第1次答申、それと町長の予算基本方針、大きく分けて、この2点についてお聞きしていきます。引き続き町長に質問が集中すると思いますが、お願いします。

まず初めに、池田町行財政改革推進委員会の第1次答申について。

令和3年3月、議会定例会において、池田町行財政改革推進委員会設置条例が制定されました。委員会の公募委員を募集するに当たっての要項、また委員会への諮問書では、役場組織の見直し、各種事務事業の必要性、公共施設の在り方等を審議するとともに行財政改革プランを作成し、健全財政の実現を目指すとあります。

主な項目に、事務事業の改善、組織・機構の改善、公共施設の管理運営の改善、財政運営の改善、行財政改革の計画策定・評価検証・見直しに関すること、この11月8日にその第1次答申が出されました。それに対して、町長のお考えをお聞きしていきます。

まず1番目に、人件費削減について。

人件費は経常的な経費の大部分を占めており、その増大が財政圧迫の一つの要因とされています。令和4年度から向こう5年間を財政危機緊急対応期間として制定され、職員数の削

減などによって経常経費を削減する、また、平均給与を抑制することが必要不可欠であるというふうに答申されています。

町長は、さきのまちづくり懇談会で、表面上は財政危機は脱したと感じていると冒頭で述べています。職員給料の減額は諮問項目にない、対象外だとも発言しています。まずは、その答申を一旦受け止めて、十分検討してからの町長発言であるべきだと、私はそういうふうに感じました。

そこで、質問します。

町長の危機は脱出したと感じている具体的な根拠は何か。

職員数削減を中心とする人件費削減についての町長の考えは。

正規職員給料の一律5%引下げ、会計年度任用職員の一律2%引下げという答申をどのように町長は受け止めているのか。

この3点についてお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） それでは、ただいまの中山眞議員の御質問にお答えをしたいと思います。

危機は脱したと感じている根拠はとの御質問でありますけれども、令和2年度の決算で明らかになりましたように、国の定める財政健全化法上の財政指標は全て健全となっていること、単年度収支で黒字決算であること、財政調整基金が財政規模の1割は必要と言われておりますが、当町の規模ではおよそ3億3,000万円となりますが、既に令和8年度までの財政シミュレーションをお示ししておりますが、財政調整基金が5億円を確保できる見通しができたこと、また、その他の基金にも積立てが可能になったこと。

課題といたしまして、経常経費比率、実質公債費比率が上昇していることが挙げられますが、実質公債費比率が令和7年度をピークに年々減少していくことなどが挙げられます。

また、経常経費につきましては今後の対応となりますが、人件費の削減などの効果が期待できること等、総合的に考えますと、これ以上、悪化する方向にはないことなどが判断の根拠となっております。

次に、先ほどの議員の御質問にもお答えいたしました。職員の削減には取り組んでまいります。これは行革審の答申に基づいて進めてまいりたいと思います。

それから、職員の給与の削減につきましては、先ほどお答えしたとおりで、削減するとい

う考えはございません。

以上です。

議長（矢口新平君） 3番、中山眞議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 今のお答で、決算が黒字になったから、あるいは財政、貯金に手を出していなかったから、だから危機は脱出しているというような、そういう私は受け止め方をしたんですけれども、だけれども、その後で言った経常的経費の圧迫については、まだ改善されていないと町長もおっしゃっていますけれども、そこが一番大事ではないかと思うんです。そこをクリアしなければ、危機はずっと続きます。毎年続きます。来年度の新予算、再来年度の新予算で果たして予算が組めるのかどうかと、今の時点ではっきりしていないんですよね。

それはなぜかという、固定費がほとんど、94%近くを占めてしまっている。その中での財政運営ですから、ここの数字をクリアしなければ、決して危機は乗り越えていない、私はそういうふうに判断しています。

昨年10月、3億円削減の計画案を出したときに、団体補助金とか子育て支援事業など減額しました。そして、町長は、聖域なく手をつけたいと、全員協議会やマスコミで取材に答えています。新聞紙上ですね。町民に厳しい状況を理解してもらい、行政として自ら身を切る覚悟が必要だと、ここで町長は述べています。

町長にお聞きしますけれども、行財政改革は、少なからず住民福祉削減等、住民負担をかけている。一方で、当初、官民一体でこの危機を乗り越えていくという姿勢で始まりました。それが、1年近くたって蓋を開けてみたら、一方的な住民負担だけである、住民はそういうふうに感じています。当初町長が発言した身を切る覚悟というのは、どういうことだったのか、どういう意味で言われたのか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） いろいろな御質問がありましたけれども、私は、職員にとりまして、一番厳しいのは人員削減というふうに考えております。これが一番、これから職員にとって厳しいことだろうなと思います。これは会計年度任用職員も含めまして、相当な削減を行わないと、経常経費の削減の効果というのにつながっていかないというふうに考えます。

そういうところから考えますと、まさに人員削減こそ、私は身を切る、そういう政策であるというふうに感じているところであります。これにつきまして、答申をいただきましたの

で、そのままお受けをいたしますということで、取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） これも当初、町長が発言していますけれども、今言われた人員削減あるいは給与カット、これが、職員のモチベーションが下がると言っています。そういう理由で、そういう発言もしています。

町長は今、3割カットしています。モチベーション下がっていますか。議員も1割カットしています。そう簡単に給与をカットして、もちろんそういう人もいるかもしれないですけども、多くの職員は、そういうことを感じていないと思うんですよね。そういうことについては、町長発言で簡単に、モチベーションが下がるということを言わないでいただきたい、私はそういうふうに感じました。

もう一つ、職員数が減ると住民サービスが落ちるとも、その当時言っていました。具体的に8課にしたときに、どれだけサービスが落ちるのか、実際検証しているかどうかなんですよ。これも単に発言というだけではなくて、やはり町長発言とすれば、簡単に住民サービスが落ちるなんていうことは言わないでいただきたい。

今現在、住民は十分なサービスを受けていると、そういうふうに感じているんでしょうかね。そういう中での町長発言、この後の議員の中でも、そういったことを取り上げる議員がいますので、このくらいにしておきますけれども、いずれにしても、町長が言う身を切る覚悟は、人件費を抑えること、1年に限り職員の給与カットをというふうに答申しています。要は、職員に責任を取らせるための1割カットではないと私は思っています。

このまま、先ほど町長が言うように、経常的経費が、たとえ人員削減しても、給料が自然と上がっていくと、思うような成果が出ないというような、そういうニュアンスの発言もしました。そういう中で、本当にそこを改善されないと、1年どころではないです。永久的に職員のカットをしなければいけない事態に、このままではなってしまう、私はそう思います。現にそういう自治体、全国で幾つもあります。

そうならないために、答申では、1年に限り1割カットして、5年後に92人になるという効果を、即効性を持たせるために、ここで給与カットを答申しているんです。要は5年のうちに、ある程度そういう目安をつけていかなければいけない。そういう形で答申されている

と思うんですけれども、もう一度お聞きします。町長の任期中に、果たして人件費は下がるんでしょうか。そこら辺の考えをお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 先ほどお答えしましたように、計画的に進めてまいります。令和8年度までということで、年々どのくらい削減すればいいかということで、今計画を組んでおります。確実にこれは反映されてくるだろうと。具体的な数字につきましては、先ほどお答えしましたように、新年度の計画の中でお示しできるというふうに考えております。

いずれにいたしましても、一気にではできませんので、年々ということで進めてまいりますので、そのことで新年度の中でお示しをしていきますので、よろしく願いいたします。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） いずれにしても、町長の目標の92人、ここ1点に絞っていくと、さっきも言うように給料は上がってきます。そういったことも踏まえれば、トータル的に人件費をいかに削減していくか、抑えていくか、ここに集中するべきだと思います。あまり削減だけの92人とらわれないでいただきたい。総合的なそういう判断を町長にお願いしたいと思っております。

次に、2番目として役場機構の見直し。

これは、先ほども言いましたように、課の統合、職員数削減は、アンプロでの無駄・問題点の洗い出し、意識改革、コスト意識等の限られた人材・財源で最大の効果をとうたっています。行革審では、限られた人数で質の高いサービス、行政課題に的確な対応ができる職員一人一人の資質や意欲の向上が不可欠だとされています。

お聞きします。

同じ答えになるかと思うんですけれども、課の統合8課について、もう一度町長にお聞きします。その時点での今の課長職、課長補佐職、こういう人員構成というのは変わるのかどうか、現状のままなのか、そこをお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、御質問にお答えしますが、先ほどお答えしましたように、10課を8課にするということで、今検討に入っております。課が減少しますと、課長はその分減少いたしますけれども、課長補佐については降格することはできませんので、どのよう

に対応するか検討中でありますので、よろしく願いいたします。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君）先ほども言いましたように、課の統合あるいは職員数がどんどん下がっていく中で、サービスが落ちるということは、町長の口からは言わないでいただきたい。多少減ってもサービスはもっと増えますよ、そういう意気込みをお願いしたいと思います。

次、3番目に、経常経費削減についてです。

町長は、全員協議会やまちづくり懇談会で示した来年度予算編成に関する基本方針の中で、人件費などの経常経費の削減が急務であることに言及しています。また、担当課長は委員会答申を踏まえ、財政シミュレーションを見直すと述べています。

お聞きします。

新しい財政シミュレーションでは、令和8年度に投資的経費を除く経常経費などの部分が94%を占めるとされています。この94%、先ほど言いました、どう見ているのか。

また、下の表にあるように、これは行革審の委員の人にお断りして表をお借りしています。この表でいくと、池田町は、経常収支比率、実質公債費比率ともに県内ワースト4位です。さらに今後、大型事業が予想されている中で、この数字はもっと悪化すると思うんです。

この2つの表を見て、先ほど町長が言うように、ある程度危機は脱出したということが言えるのでしょうか。これは単純な比較なんですけれども、これを住民が見たらどう思うか。本当に今の池田町、大丈夫なのかと、不安になると思うんです。町長の先ほどの発言とこの表を比べて、町長はどう考えているのか、もう一度お聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君）ただいまの御質問でありますけれども、行財政改革推進委員会の答申で指摘されておりますように、経常経費の削減が一つの大きな課題であります。シミュレーションでは、今後予定される大型事業について織り込んでありますので、私はこれ以上、悪化はないものと考えております。

また、比較表でございますけれども、他の町村と比較するというのも必要でありますけれども、その町村によって大型事業がどのくらいあるのか、それによって公債費も相当変わってきますし、当町では相当集中して大型事業をしましたので、公債費比率は上がってくる、これは当然のことです。

しかし、シミュレーションで示させていただいておりますように、年々計画的に減少してまいりますので、決して順位を見てどうこうということは、考える必要はないのではないかと。計画があるかないかが、私は大事だというふうに考えております。

経常収支比率につきましても、シミュレーションでお示しておりますので、これ以上悪化するということは、若干ぶれはありますけれども、一時的には上がるケースはあるかも分かりませんが、そこから以降、それ以上悪化するということにはなりませんので、そういう点で先ほどはお答えしたということであります。

以上です。

議長（矢口新平君） 3番、中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 先ほどから、これ以上悪化しませんと。私は、これからはもっとよくなりますと、そういう発言を聞いたかったですよ。これ以上悪くならないということは、今のまま、住民はまだ福祉を削られたまま、そう感じ取れますよね。だから、この2つの表で、少なくとも町長の口から、今は4番目だけれども、今後のかじ取りでこれを10番目にしますとか、そのくらいの意気込みを住民に示してもらいたい。

ちなみにですけれども、むやみに住民の不安をあおりたくはないんですけれども、基金残高という一覧表もあるんです。財政貯金の、基金総合です。ここでも、池田町は何番目でしょう。下から4番目です。ここも4番目です。この表の中で、3つとも入っているのは池田町だけなんですよ。これで、これ以上悪くならないと言われても納得できないですよ。

先ほども言いましたように、単純な表の比較だけではないんですけれども、いずれにしても、3つとも4番目に池田町が入っているということは、トータル的に、ほかの自治体に比べてバランスが悪いのではないかと、単純に見ればですね。そういうふうに読み取れます。

ここら辺は、町長だけではなくて、担当課長もしっかり、今の池田町の実態を見極めてもらいたい。それで、かじ取りをしてもらいたい。そうでないと、来年も再来年も、また4番目です、あるいは3番目ですとならないように、そういった姿勢で取り組んでいただきたい。私の言いたいところはそこなんです。

次に、答申案に対する町長の姿勢について。

今後、第1次答申を受けて、いつまでに、どのように町としての対策を立案していくのか。委員会が求めているロードマップをどのように作成していくのかをお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（麿 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えいたします。

行財政改革推進委員会の答申を受けまして、現在、令和4年度から可能な事項の実施に向け、庁内で機構改革等の検討を進めているところであります。当初予算の編成に合わせて、職員数や人件費のシミュレーションを精査しながら報酬を定め、令和4年度から令和8年度までの5年間、集中して取り組んでまいります。削減方針につきましては、令和4年度当初に公表する予定で進めてまいります。

なお、今回、先行して人件費の財政シミュレーションを作成してまいります。最終的には、委員会の諮問事項に盛り込まれております中長期的財政シミュレーション及び、仮称ではあります。行財政改革プランの作成の際に溶け込ませていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 次の質問にいきます。

5番目です。町長をリーダーとする財政安定化庁内プロジェクト、いわゆるアンプロについてお聞きしていきます。

このアンプロについては、将来にわたっての財政基盤の確立、限られた人材・財源で最大の効果を獲得する。それから、行財政改革推進委員会と並行した庁内協議、これが主な目的とされています。その中で、5つの項目を挙げられています。業務の見直しや既存組織の見直し、コスト意識の徹底、職員数、業務量の調査、それから財政状況の共有、財政知識の向上とあります。

現在の段階で、どういうふうな話が出て、どういうふうなところまで今、経過で来ているのか、その詳細が分かりましたら、お聞きします。

議長（矢口新平君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） それでは、ただいまの御質問でありますけれども、これは、全職員が財政状況や課題を共有して横断的に考えていく場にしたいという私の思いから、今年4月に組織いたしました。以降、アンプロといいますが、アンプロでは、財政シミュレーションや行財政改革推進委員会の財政資料等の共有をはじめ、公共施設個別施設計画の課題共有、会染西部圃場整備、非農用地や商業等活用エリアの活用方法等の検討、会染保育園施設整備の方向性、ハーブセンターやハーブガーデンの運営状況、行財政改革推進委員会の検討経過の

共有等をテーマに議論してきております。

これから予算査定に入りますので、具体的な人件費の削減、経費の見直し等、精査しながら具体化してまいります。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） このアンプロについて、今後どうなっていくんでしょうか。もうここでおしまいなのか、今後どういう方向でアンプロを進めていくのか。

一番は、いわゆる業務の遂行ではなくて、根本的なところ、業務の今やっている無駄がないかどうかという見直し、それから既存組織の見直しとかコスト意識、ここを徹底してやってもらいたいんですよ。それに対して、町長のお考えをお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 御指摘のとおりです。そういう課題に対しまして、一つ一つ十分な協議をして、全庁を挙げて皆さん方の、職員の皆さんのアイデア等を盛り込みながら、改善・改革に当たっていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） ぜひアンプロ、今後続くようですので、途中経過も議会に出していただければと思います。そこが一番、今回の財政改革で基盤になるのではないかと私は思っています。

先ほど町長が言われるように、庁内全体でそういったことに取り組んでいると、そういうふうにお答えしています。私も、いわゆる行革審も大事です。議会や町民の提言も大事なんです。だけれども、このアンプロで庁内の中から変わろうとする、そういう職員の意識が変わっていくこと、これが一番大事ではないかと思うんです。それが一番、この財政改革の即効性、それから持続性、幾ら周りで騒いでいても、実際に業務に携わる職員や町長たちがあまり関心がなければ、何もならないですよ。

だから、うちから変わっていく、問題点を出して、それを検証してというような、そういったことが一番大事ではないかと。私は行財政の改革の中で、このアンプロというのが一番大事なのではないかなと思います。そういう意味で、ぜひ今後の進捗状況等を報告いただ

ければと、そういうふうに思います。

次に、大きな2番、令和4年度予算編成の町長基本方針について。

新年度予算について、今回、答申が出されました。この答申を、予算編成に即効性のある行政のかじ取りが望まれています。要は、答申案を早く予算に盛り込むこと、早い効果が期待されているということなんです。

お聞きします。

第1次答申に対して、町長の予算基本方針、変更あるいは追加はあるのでしょうか。

議長（矢口新平君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） それでは、お答えいたしますが、基本的には変更・追加はございませんが、答申に照らし合わせながら、具体的方針を定めてまいります。

いずれにいたしましても、これから予算編成に入りますので、その中で反映をさせていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 先ほど私は、即効性と言いました。早く入れていかないと、どんどん日がたってしまいます。1年後の最終答申を待って、いろいろなことに取り組んでいったら、この2年間というのは空白期間になってしまうんですね。そういう意味で、ぜひ新年度予算で、少しでも行革審の答申の中が加わるような、そういう予算編成を期待したいと、そういうふうに思います。

次に、質問の6です。新年度の主な予算削減案あるいは削減事業はあるのでしょうか。

今年度の初めに、3億円削減プロジェクトがありました。それに似たようなことがあるのかどうかということ、それから、今回予算で削減・縮小した項目、移住・定住の推進策とか、もっと細かく言えば、お風呂の値段、あるいは小学生のお祝い金、入学お祝い金とか、そういったのはそのまま、削減されたまま来年度も続くのかどうか、この2点についてお聞きします。

議長（矢口新平君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） それでは、お答えいたしますが、具体的な予算編成につきましては、これから始まります予算査定の中で明らかにしてまいります。

令和3年度に削減した項目につきましては原則継続いたしますが、一部必要と思われる事

業につきましては見直しをかけてまいります。

以上、答弁いたします。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） この11月に出された町長の予算基本方針、これは聞いていると、期初の主張、施政方針と、あまり変わらないように感じたんです。なぜかといったら、そこに、来年度の予算で骨格になる、こういう予算を盛り込みたいという数字が何一つなかったんです。

町長が言われる3大テーマ、重大テーマと言っています。少子化対策、ゼロカーボン社会、それから健康長寿、この3つのテーマを挙げているんですけども、この3つに関して、新たな事業計画というのはあるのでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 3大重点テーマについての御質問ですけれども、テーマは掲げましたけれども、必ずしも新たな予算を伴うものとは考えておりません。

予算的には、少子化対策につきましては従来の子育て支援策を継続いたしますし、新規には、子育て環境を整備するということで、遊具の設置を考えております。

また、ゼロカーボンの取組につきましては、太陽光発電に対する補助金の増額を検討するとともに、可燃ごみ削減について、目標達成に向け、町民の皆様の協力を呼びかけてまいります。

健康長寿対策につきましては、減塩運動が効果を上げておりますので、さらに推進するとともに、食育推進条例、食育推進計画を中心として、町民に呼びかけてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 今のお答えそのものが、さっきも言いましたように、どうも私には、期初の主張・方針と何ら変わらないというね。

要は、予算編成がこれから組まれると言っていますけれども、主な骨格になる予算というのは事前に議会の中でも審議して、それで予算案に盛り込まれるべきだと思うんです。今の町長の基本方針の中では、何を議論したらいいか、さっぱり分からないです。

新年度、町長は何を考えて、どこに予算の一番のメインを置くのか。そこからはっきり示

してもらえれば、そこから議論が出るんですけども、私はそういうふうに、期初予算として、主張というのはもっと具体的に出すべきではないかと、そういうふうに思っています。

それから、2番目、大型事業計画案と財政健全化についてです。

会染西部圃場事業、会染保育園の方向性について、地権者の理解・協力があって、特に圃場整備というのは実施できたものだと思います。今回、町から提示された運動公園広場案について、地元説明会が行われたと聞いています。

お聞きします。

そのとき、地元住民からどんな意見が出ているのか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） それでは、お答えいたします。

内鎌自治会員を対象として開催しました会染西部地区圃場整備事業、創設非農用地の多目的広場の計画案の説明会では、芝生の管理や舗装の修繕は誰がやるのかといった管理についての質問ですとか、緩衝材の位置など広場内の施設配置に関する質問、あと、財源として補助金は活用するのかといった質問がありました。

また、要望としまして、幹線道路から広場への進入路となる道路について、入りやすいようをお願いしたいといったものですとか、消防団の操法練習ができるような区画も設けてほしいといった要望が出されております。そのほか、近くにこのような施設ができるとありがたいといった御意見をいただいております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） この運動広場の計画ですね、6億円かかると。そういった中の反対意見というのは出なかったですか。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） 先ほどの補助金を活用するのかという中で、ちょっと財源を心配する声はありましたけれども、内鎌地区のときは反対はございませんでした。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 私はこの間、個人説明会を地区でやりました。会染西部圃場と会染保

育園、幾らかかって、どんな施設ができるのかを詳しく説明しました。みんな反対していました。

今後の進め方ですけれども、そこら辺はもっと慎重に、課長もそうです、町長もそうです。大型事業というのは、もっと慎重に住民の意見を聞いて、進めていってもらいたいと思います。

特に運動公園、あんな立派な遊具が必要なのか、そういう意見が大半でした。要は、そこまでのお金をかけてやるんだったら、町民が多数参加して、そこで活動できるような、そういうことを目指すべきで、決して遊具だとかスケートボードとか、何千万円もかける、それを本当に住民が望んでいるのかどうかと、そこら辺も慎重に進めていってもらいたいと、そういうふうに思います。

とにかく、この2点だけでもはっきり分かっています。そのほかに、例年続いている会染小学校の大型改修だとか、そういったことを踏まえると、どんどんそういう事業が増えてきます。特に、運動公園なんかそうなんですけれども、住民の意見で、こういうふうにしたい、こういうふうにしたいという要望だけを聞いていると、どんどん膨らんでいきます。交流センターみたいにですね。

だから、そこら辺の手綱はしっかり課長のほうで握って、本当に住民が望んでいるもの、しかも、6億円もかけてという反対が多ければ、そこを見直して、もっと住民が活用できるようなもの、遊具はそこに必要なんでしょうか。来年度、かえでに遊具ができます。運動公園にも遊具ができます。クラフトパークにも遊具があります。本当に町民はそれを望んでいるんでしょうか。

少子化対策と言っていますけれども、それは、ただそういう名前を使っているだけにしか私には思えない。そこら辺の細かいことも含めて、十分な住民の意見を聞いて検討していってもらいたいと、そういうふうに思います。

いずれにしてもこれだけの事業が続けば、先ほども言いましたように、財政健全化の道筋、これをしっかり立てなければいけない。この2つの事業が入っても、財政シミュレーションでは15%、16%になって大丈夫ですよ、多分、そういう見方を町長はしていると思うんですけれども、そこに、やはり今後の池田町の町長のマネジメント力というのが問われてくるんです。

だから、課長や職員が進めている一方で、失礼な言い方、何も考えないで、その案に乗ってどんどんやっていけば、あっという間に6億円、会染保育園7億円、6億円かかってしま

うと。その手綱を町長自身がしっかり見極めていってもらいたいと、私はそういうふうに思います。

そういう意味で、最後の質問になりますけれども、大型事業計画案と財政健全化、1番目に設ける。この道筋、これを町長自身がどう考えているのか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） それでは、お答えいたします。

今後の大型事業は計画されておりますけれども、どのような規模にするか、意見聴取、検討の段階であります。財政健全化の中で、費用的には織り込んでありますけれども、財政健全化に大きな影響を与えないような計画としてまいりたいというふうに考えております。

いずれにいたしましても、これから多くの皆さんの御意見を頂戴して、それをまとめまして、今申し上げましたように、財政につきましても十分考慮しながら進めてまいりたいというふうに考えておりますので、御理解いただきたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 中山議員。

〔3番 中山 眞君 登壇〕

3番（中山 眞君） 財政調整基金に手をつけなかった、黒字だった。実質公債費比率も18%を切っています、これ以上悪くはなりません。これで安心できるのでしょうか。

この間の新聞にも載っていました。この冬、原油の価格高騰で住民生活を直撃しています。既に住民支援策を打ち出している自治体が県内で69市町村あります。灯油の高騰で、老人のひとり暮らしの家庭に灯油券を配ったりとか、実際そういった動きがもう既に始まっています。子育て世帯や、あるいは非課税世帯、ひとり暮らしのお年寄りに灯油券を配ったり、あるいは米価下落で農家は苦しんでいます。肥料の高騰も、物すごい勢いで上がっています。大型の農家ほど打撃を受けています。

そういった苦しんでいる農家に支援策を打ち出すこと、あるいは、コロナ禍で売上げが落ちている商店、事業主、この支援、移住・定住政策の住宅補助金を元に戻したり、早くこういう施策が堂々とできる財政基盤をつくらなければならない。安心ではないんです。これができるようになって、初めて安心なんです、実際にね。いつそれができるのでしょうか。いつ、今年度削減した住民福祉の項目が復活するのでしょうか。

町長の周りには2人の理事者がいます。行革審の10名のブレンがいるんです。住民の声を届けている議員が12名います。まして、100名を超える職員、部下がいます。これだけい

て、よくなるはずはないんですよ。この声を町長自身がどう受け止めるか、全て町長にかかっているんです。

周りがどんなに騒いでも、最後の決断は町長1人なんです。それだけ町長には絶大な権限があるんです。何もしない権限もあるんです。甕町長にはこうなってもらいたくないんです。これからの池田町は、甕町長の判断・決断に全てがかかっている、そういうことです。

質問を終わります。

議長（矢口新平君） 以上で、3番、中山眞議員の質問は終了いたしました。

一般質問の途中でありますが、この際、暫時休憩といたします。

休憩 午前11時47分

再開 午後1時00分

議長（矢口新平君） 休憩を閉じ再開いたします。

大 厩 美 秋 君

議長（矢口新平君） 一般質問を続けます。

3番に、2番の大厩美秋議員。

大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） それでは、令和3年12月池田町議会定例会一般質問、大厩美秋、よろしく申し上げます。

今回、大きく分けて2つ質問がありますけれども、1つ目、児童の通学路における安全対策についてお聞きしていきます。

およそ25年にわたり運用されているこどもを守る安心の家について、これは以降、安心の家という言い回しで御了承願います。以前お聞きしましたがけれども、児童の安全対策が十分機能しているのか、もう一步掘り下げた質問が、私のほう、質問が至りませんでした。委嘱されている安心の家の方々の在り方や理解と利用する児童への周知が重要であることから、

関係する各団体の役割と情報共有、町の管理はどのようにされているのか、お聞きしていきます。

それでは、最初に、安心の家の登録状況は、池田町小学校校区で46件、会染小学校校区で54件、合計ちょうど100件となります。あと、その他企業、ボランティアの方が15件ということで、数的には115件あるわけですがけれども、これを児童の通学路を全体に見渡したところでの分布について、状況をお伺いいたします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

〔学校保育課長 寺嶋秀徳君 登壇〕

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

安心の家の分布状況につきましては、池田小学校区、会染小学校区ともに、一部の地域に偏ることなく、通学路全体をほとんど均等に、バランスよく分布されている状況でございます。また、企業、その他ボランティアについても同様であります。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 2番、大厩美秋議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） ただいまの報告で、全通学区見通した中で、平均した安心の家が分布されて、協力していただいているということですがけれども、そういった中で、平均された分布に伴うに当たりましては、依頼をしている方々、自治会長をはじめ、防犯組合の方々の努力もあるかと思えますけれども、そういったところ、今後も平均的な分布がされていくといったところの管理をしっかりとよろしく願います。

あと、ちょっと自分の中では、これだけ広い中で、平均して全て通学路を安全に賄えるというところについては、距離感の問題もありますけれども、場所によっては暗かったりするところもあるのかなといったところで、場所によっては防犯灯の設置等も必要なのかなという提案もしたいと思っておりました。

通学路につきましては、安心の家については、小学校児童が対象となるわけですがけれども、こういった冬の時期になってくると、帰る時間、暗くなってきたりするところがあります。ましてや、中学生の下校については、特に暗い中での下校となると思いますが、こちらのほう、まだ調査されていないと思いますが、今ここでもし答えられれば、防犯灯を必要とする場所があるのかどうかといったところをちょっとお聞きしたいと思います。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

通学路についてということでございますので、防犯灯については、自治会の防犯担当の役がございまして、各自治会の防犯が必要に応じて、修理箇所ですとか設置希望等をまとめまして、防犯組合のほうに、また町のほうへ要望を上げていると思いますので、そういった流れで、通学路についても、必要な箇所についてはカバーしているというふうに認識しております。

詳細につきましては、現在、具体的に設置が必要な箇所があるかどうかということにつきましてちょっと、詳細については把握はしておりません。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 唐突な質問に対応していただきまして、ありがとうございます。

防犯灯につきましては、教育委員会というわけではなく、庁内の中での横断的な対応、取組になってくるかと思えます。防犯組合の方たちとも、そういった中での情報共有は、教育委員会のほうでもしていただきながら、管理のほうを引き続きお願いしたいと思えます。

続きまして、質問の2に入りますけれども、子供に対して安心の家の周知は、4月の地区児童会で集団下校する際に、教職員も同行して周知するというものでありましたけれども、そのほかに取り組まれていることがあれば、お聞きをいたします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 議員お話のとおり、学校では毎年度、年度当初に地区児童会や方面別下校時に、地区内の安心の家の確認を行っております。その際、地区担当の教師が危険箇所や安心の家の確認についても共有しております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） ただいまの報告につきましては、ちょっと私からすれば、もう少し、はっきり言えば、ちょっと不十分かなといったところを考えます。

それで、そういった取組をされた中で、町としましては、全ての児童の方に周知できていると考えていますでしょうか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 周知の点につきましては、年に1回、そういった機会は設けておりますけれども、新しく小学校に上がった1年生等について、また、それ以外の児童についても何回か、やはりそういった機会があれば、それにこしたことはないかなというふうに思います。一応そういうふうな認識で、十分かと言われれば、もうちょっとそういった、周知する機会があったほうがいいかなというふうに思います。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 毎日登下校する通学路において、対象となる児童の人たちが本当に気軽に、あと、場所がここだということをしっかりと周知して、理解していただかなければ、この活動というものは成り立っていかないわけであると考えます。

集団下校をされているときには、安心の家に直接立ち寄りながら、顔見知りになる活動を行うとか、あと、保小中一貫の連携の中で、小学生で実際に体験してきている中学生に、小学生へのそういった自分の体験とか説明を同じ目線で指導して、理解し合うというような方法も有効かとも思います。またあと、学校単位で、警察による安心の家の講習会等も開催していただくことも有効かなと思います。

元は警察、長野県の県警が、こういった安心の家を立ち上げたわけで、警察としても、こういった活動についての各市町村、自治体に対しての理解と協力には感謝をしております。こういったところを協力していただいて、児童の周知につなげていただきたいと思いますけれども、このような提案につきまして、考えがありましたら、お聞きしたいと思います。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） ただいま、大厩議員から御提案いただきました2点についてですけれども、1点目の中学生に協力を仰ぐという提案でございますが、なかなか、やはり実際、学校の行事の中で、合同にそういった時間が持てるかという、小学校と中学校の合同した行事というものは、現実的にはかなり難しいというふうに思われます。ただし、そういった提案自体は、すごく有効だなというふうには率直に感じましたので、できればそういった中学生の協力も実現できればなという思いはあります。

2点目につきましては、もともと安心の家の制度につきましては、警察と防犯組合が中心になって始めた制度でありますので、警察と防犯組合の方に、最近講習等がなかなかできていない状況であるかと思っておりますので、そういった講習については、いい提案かなというふう

に感じております。ぜひ考えていきたいと思えます。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） あくまでも私の提案ですので、こういったところをぜひ参考にさせていただいて、対応のほう、取組をお願いしていきたいと思えます。安心の家の理解周知というものは、最もこれ、重要な部分であると思えますので、よろしくお願ひいたします。

続きまして、安心の家の運用については、町と警察、学校、防犯、町防犯組合、自治会と、多くの連携によって成り立っていますけれども、町はどのように情報の共有をして、また管理をしているのか、その部分につきましてお聞きします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

まず初めに、自治会協議会におきまして年に1回、安心の家の制度につきましての説明を行います。各自治会から各家庭への周知を、協議会を通じてお願いしております。

安心の家の登録・変更・廃止の手続の流れにつきましては、自治会を通じて教育委員会へ届出が提出されます。次に、教育委員会は、この届出を防犯組合を通じて、警察へ報告・連絡しております。また、学校へも報告を同時に行います。

また、安心の家の看板につきましては、登録であれば、自治会を通して看板の配布、また、変更廃止であれば、看板の回収等を行っております。

次に、学校へ対する安心の家の周知でございますが、こちらにつきましては、年に1回、先ほども申し上げましたが、年度当初に行われる地区児童会等で現場の確認等を行っていただいております。

今後も必要な情報を関係者が共有していくことを心がけてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） ここでは、安心の家の運用について、要は協力されている方々についてのところでお聞きを、焦点を絞りたいと思うんですけれども、今聞いていると、安心の家の委嘱については、自治会が主に行っているということですが、各自治会が自分の地

区の安心の家の方々に統一された委嘱がされているのか、毎年自分の地区を、全ての安心の家に伺って、話を聞きながら継続されているのか。あとは、そういったところ、安心の家の自己申告によって対応しているのか、そういったところで伝わり方が違ってくると思うんですけれども、そういった統一をされた委嘱がしっかりされているかどうかといったところにつきましてはどうでしょうか。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 議員おっしゃるとおり、統一した委嘱がされているかということでもありますので、町から各自治会にお願いするのは、自治会協議会という年1回の会議の中での説明になりまして、説明資料の中には、状況を理解していただけるような資料をそろえて、会議ではお願いはしているんですけれども、例えば対応マニュアルですとか、安心の家の登録・変更・廃止についての手続方法等について、会議の中だけで説明しただけでは、やはり自治会長さんの認識にも、どうしても差が生じる可能性はありますので、そういった部分については否定できない部分ではあります。

ただし、委嘱については、もともと町が委嘱するという形ではなくて、警察と防犯組合が委嘱をするということでもありますので、あくまでも、更新を町の的確に行っていくという役割分担が重要なことというふうに思っていますので、安心の家に登録してあるお宅について周知、もちろん町の役割としては行っていきますし、更新についても的確にしていくことが町の役割かなというふうに思っております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） それでは、年に1回、自治会長会でそういった連絡をするといったところで、回数も限られた中での貴重な時間になるかと思えますけれども、そういった中で、町が先頭に立って担当する分野でもないということですが、自治会長会の中では、各地区委嘱に当たっては、統一された内容での更新、状況把握をしていただくような統一された文書等で周知をしていただけたらいいかなと思います。

安心の家の委嘱されている方についても、もう25年くらいにわたって、こういった制度が継続されているわけですが、町としては、委嘱されている方で、継続年数的なものの把握もされているのでしょうか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 年数につきましては随時、毎年更新をしているわけではございませんので、名簿等で毎年、更新をしたお名前等は確認できますけれども、継続年数が何年というような、そういった管理方法は取っておりませんので、また、今後そういう年数については、確認はしてまいりたいというふうに思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 委嘱されているこども安心の家の方たちにつきましては、中には相当な継続年数で頑張られて、協力されている方もいるかと思えます。こちらのほうは、本来なら警察が対応するべきところなのかなとも思えますけれども、これだけボランティアで活動していただいている方々については、何か規定を設けて、感謝状を検討するとか、そういったところをしていただきたいと思います。これは要望といたします。

いろいろ細かいところを聞いてきましたけれども、要は、約25年にわたって、このような管理状態がされてきているというのが現状だと思います。ここで、いろいろな情報共有をしたり、管理をしっかりしてほしいといった質問に対しまして、担当となる部署につきましては、今まで以上の労力を使われて、取り組んでいただくようになるかと思えますけれども、ここで少しずつでも管理体制をしっかりしていただければ、今後の活動にも、よりいい活動がやっているとしますので、よろしく願いいたします。

続いて、次の質問に移ります。

安心の家の協力に加えて、地域住民との関係性が大切であると認識されているということでしたけれども、地域の人たちに関心を高めていただくために、町としての取組をお聞きます。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

まず、安心の家の協力体制を今より強化するためには、地域住民が学校や地域の子供にもっと関心を高め、学校も地域の活動に関わりを持つことで、地域と学校の関係性をより密接にする必要があると考えられます。

地域と学校の関係については、既に当町では、信州学びの郷活性化委員会において取組はされてきておりますが、来年度より、国が示すコミュニティスクールを本格的に推進する予定でございます。これにより、保護者代表や地域住民の代表の方が、学校運営や必要な支援

に関して協議をする場ができることになり、例えば地域の人が、あいさつ運動などの活動や学校教育と生涯学習の融合を通じて、学校と地域がもっと近くなり、地域の活性化にもつながる効果が期待できます。安心の家についても、万が一のときにしっかり役立つ制度でありますので、こうした学校と地域がより身近な存在であることが重要であると考えます。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） 教育委員会のほうでも、そういった対応、地域とのつながりについて、真剣に考えていただいているということが分かりました。

教育大綱にも、地域の子供は地域で育てる意識を持って子供の学びや活動を支援するとあります。一連の活動として、安全に対する意識も持っていただき、大人からの積極的な声かけ、あいさつ、そして見守りをしていただき、子供との距離が一層近づける取組をよろしくお願いいたします。

それでは、次の質問ですけれども、県は、県の市町村などと合同で通学路を一斉点検したところ、危険で対策が必要な箇所が2,240か所あると新聞で発表されました。資料を添付してありますけれども、池田町につきましては7か所ということです。場所と改善内容について、今後の取組をお聞きします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

6月に千葉県八街市で発生しました児童交通事故を受けまして、町では9月29日、PTA、大町建設事務所、大町警察署など関係機関と合同で通学路の緊急点検を行いました。これまでPTAなどから寄せられた改良要望箇所13か所を点検し、このうち、内鎌地区の町道旧県道線や町道滝沢バス停連絡線など7か所を早期に対策が必要な危険箇所として選定しました。

危険性があるとされた主な理由につきましては、道幅が狭い、見通しが悪い、速度超過の車が多いなどでございます。

今後は危険箇所の状況に応じまして、樹木伐採による見通しの悪さの改善、路面表示や看板等の設置、外側線の新設や引き直しなどの安全対策を実施するほか、安全教育の一層の充実及びドライバーの意識改善にも努めるなど、関係機関がさらに連携して、児童・生徒が安全に通学できる通学路の安全確保を図ってまいります。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 9月29日に早速調査をしていただきまして、今報告ありましたけれども、内容について、これは新聞のほうでも、ソフト面の対策としまして、通学路の変更や見守り活動が挙げられていますけれども、池田町については、通学路の変更まで伴うような対象となる場所はあるのでしょうか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 通学路の変更が生じるような危険箇所はございません。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） それでは、最後に、町長にお聞きしますけれども、ハード面の対策をしていくに当たりましては、庁内で横断的な取組が必要となってくると思います。今後の対応について、安全面、これは重要なところですが、対応についてお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） ただいまの御質問ですが、これは、地域を一番よく知っているのは自治会でございます。自治会からその状況につきましては、随時、いろいろな御意見をいただいております。通学路等については、特に危険と思われる部分につきましては、自治会長会議を待たずに情報が来ますので、早速それについては対応を図るということで取り組んでいるところであります。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） それでは、とにかくこういったところ、子供に限らず、事故が起きる前の対策ということは特に重要かと思しますので、しっかりと状況を把握しながら、対応のほうをよろしく願いいたします。

それでは、大きい2番の交流センターかえでと創造館の運用について質問いたします。

最初に、町長にお聞きします。

令和4年度予算編成要領の歳入に関する事項で、使用料は利用者負担の公平性確保の観点から、他市町村の状況を把握の上、使用料について適正な金額かどうか十分検討することと

ありますけれども、ちょっとこれ、具体的にどういうことなのか、取組について、町長の考えをお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、お答えいたします。

公共施設の料金の見直しについての御質問でありますけれども、交流センターにつきましては、当初の設定時に、近隣の使用料等を参考にして設定をいたしました。利用者の皆さん、特に町民の皆さんからは、安いとの御意見もいただいておりますが、そのおかげで利用者数も増え、大変喜ばれております。

その他、全般的な使用料につきましては、町としては歳入面での懸案事項でありますので、行財政改革推進委員会への諮問事項としてお願いしてあります。その答申を待って、具体的に検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） それでは、この後、交流センターと創造館の使用料等について質問をしていくわけですが、全体的に見たときに、対象となる施設は幾つあるんでしょうか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 所属によって、いろいろ施設がありますので、それぞれの担当課のほうから、把握している範囲で答えていただきたいと思います。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） そこまで詳しい回答は求めていません。単純に、これからは交流センターと創造館についてだけに触れていくわけですが、そのほかについて町長が、予算編成に当たって対象となる施設は、ほかにどこがあるのかということをお聞きしているわけですが、お願いいたします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 交流センターと創造館ということでありますので、その2か所について検討していくということになるかと思っておりますけれども、ちょっと、質問の趣旨をもう一度お願いできればと思います。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） 全体的に町での使用料というものの取扱いの対象となっているものは、これからやる 2 か所の公共施設以外でも、グラウンドもありますよね、あとテニスコート等もあります。あと、やすらぎの郷のお風呂も料金、使用料が対象となってくると思いますが、あと総合体育館の使用料もホームページではうたわれています。

こういったところ、割と多岐にわたって使用料の対象となっているところがあるんですけども、ある程度自分の中で調べてはおいたんですが、要は、そういったところが全て対象ということによろしいのでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 行財政改革推進委員会のほうには、全般的にということで諮問しておりますので、どの範囲で検討を行っていただけるかということもありますけれども、全般的に検討いただけるものというふうに私は考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） それでは、町長が発表した使用料が適正かどうか十分検討することについては、目標とするところは、要は収入に当たるところの収入額も、収入の量、金額を増した目標を立てたいという、そういう認識でよろしいのでしょうか、もう一度お聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 基準というのは、それぞれの町村で決めることでありますけれども、さきにお答えいたしましたように、やはり他の市町村とのバランスということも少し考えていかななくてはいけないのかなというふうに考えております。安過ぎるのか、高過ぎるのか、比較という点で、他市町村の状況等考えながら、安い場合には、ちょっと上げてはどうかということも考えていかなければならないのかな、その辺も委員会のほうで検討いただけるのではないかと考えております。

特別私の中で、ここの施設についてはというようなところは、今は考えておりませんので、御理解いただきたいと思います。

議長（矢口新平君） 大厩議員、使用料の収入の増加ということに関しては、今の町長の答

弁は、考えていないということです。

大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 分かりました。

ということですので、ちょっと私の聞きたいことと一致していない部分がありますけれども、私の中では、こういった削減、削減にとらわれた中で、収入増に向けた取組を検討して取り組んでいくということは、ある意味有効なことと思って、評価をしたいなとは思っていたところですが、この質問はここで終わりたいと思います。

それでは、ある意味、本題となる交流センターと創造館についてお聞きしていきます。

交流センターは、ホールをメインに、学習室3室、クラフトルーム2室、談話室、防音室が各1室あります。創造館は、多目的ホールをメインに、会議室2室、工作教室2室、調理実習室、和室が各1室あります。

これらの施設の使用料収入の増加に向けた考え、取組についてお聞きしていきます。

交流センターについては、2019年9月1日にオープンし、半年足らずで新型コロナウイルス感染により、通常の運用機関が短くなってしまいました。そういうところもあるんですけども、通常時を基本としてお聞きしていきたいと思います。

それでは、質問で、交流センターと創造館の使用料収入の実績についてお聞きします。

議長（矢口新平君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） それでは、大厩議員の御質問にお答えいたします。

交流センターにおきましては、令和2年度の使用料の決算額は76万1,000円ございました。今年度は、12月1日現在、予算額102万円に対しまして、66万5,000円の収入がございました。

一方、創造館につきましては、昨年度、令和2年度の決算額が46万3,000円ございました。今年度は、予算額70万円に対しまして、50万8,000円が収入済みとなっております。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 今、数字をいただいたんですけども、両施設の今年度予算額は、コロナ禍を想定した額なのか、通常時を想定した額なのか、そこをちょっとお聞かせください。

議長（矢口新平君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

今年度の予算につきましては、コロナが落ち着くことを前提にして予算化をしてございます。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） 分かりました。

それで、今、実績のところを説明していただきましたけれども、担当課としましては、この実績について、どういった捉え方をしているかお聞かせください。

議長（矢口新平君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

各施設におきましては、コロナ禍が落ち着きつつある状況の中で、引き続きコロナ対策を取った上で、催し物等が開催できるようになってきてございますので、利用が回復傾向にあると、これは数字にも表れているというようなふうに捉えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） あと残り 4 か月足らずで今年度も終わるわけですがけれども、交流センターについては前年度実績を上回ると思われます。今年度予算の達成につきましては、ちょっと厳しいのかなといった数字かと私は感じております。

創造館については、もう既に前年度を上回った収入が達成できていますけれども、今年度予算、これは通常時の予算立てということで、達成できる可能性があるのかなといった数字ですので、こちらのほうを今後、利用率アップにつなげた活動をよろしく願いいたします。

それでは、続きまして、3 番の、これはちょっと関連したところなんですけれども、交流センターと創造館の施設の使用率についてお聞かせください。

議長（矢口新平君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

1 日のうち、たとえ 1 時間でもその部屋の利用があった場合を含めまして、計算してみました。

まず、交流センターなんですけど、5 月に 16 日間、8 月から 9 月にかけて 19 日間のコロナ禍

における臨時休館がございました。一時、月間の使用率で見ますと、38%まで落ち込みました。これが、コロナ禍が落ち着いた10月、11月は、使用率が90%を超えるまでに回復してきております。

創造館におきましても同じ傾向でございまして、10月、11月は使用率が74%まで回復してきております。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 今、1日のうち1時間でもその部屋を利用すればカウントされるということですが、これはちょっと確認なんですけれども、こういったホールを含めて、各部屋ごとの利用率というものは、常時集計はされているのか、お聞きします。

議長（矢口新平君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

使用率というものは、特段、ふだんは計算しておりません。ですので、こういうものを出すときには、貸し出した時間の実績に基づいて、手計算で出すしかない状態でございます。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） これが、使用料の今後の増加に向けた資料の一つとしては有効な手段かとも思います。こういったところも検討していただくことも、要望として言っておきますので、お願いいたします。

あと、創造館には、名器と言われるドイツ製スタインウェイのピアノが設置されています。町内外の人たちにとっても、知っていただき、使用していただくことが必要と考えます。PRをどのように考えているのか、お聞きいたします。

議長（矢口新平君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） 創造館にございますスタインウェイのピアノというものは、かなり名器ということでございますが、次回でいきますと来年2月13日に、公募コンサートというものを予定しております。これに関しましては、大変人気でありまして、今回で13回目を数えるまでになっております。

ですので、スタインウェイを弾きたいという方、どなたでも参加できるというようなこと

がございますので、現在、募集のほうを始める御案内をしております。年が明けましたら、先着順で20名定員ということでやる予定で考えてございます。

以上です。

議長（矢口新平君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 定期的にコンサートが開催されているということは、とても大切なことであって、今後も継続は、ぜひしていただきたいと思っておりますけれども、今、定員が20名ということで、これも毎回、全員いっぱいになるということだと思っておりますけれども、こういった人気のあることに対しまして、コンサートの回数を増やすとか、あと、いつも同じ人ばかりではなくて、リピーターの方はもちろん大切にしながら、新規の方も増やすといったような取組も提案したいと思っておりますけれども、この点についてはどうお考えでしょうか。

議長（矢口新平君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時44分

再開 午後 1時45分

副議長（横澤はま君） 休憩を閉じ再開をいたします。

議長は、体調が悪いので、副議長、横澤が代理を務めたいと思います。

それでは、始めたいと思います。

下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） それでは、先ほどの質問の続きをお答えします。

スタインウェイのピアノコンサートにつきましては、毎回定員に達する人気ぶりです。ふだんは、スタインウェイで練習をしたいという方も随時、創造館のほうにお越しいただいているというような状況もあります。

新規の方にもっと広く知ってもらうために、現在行っていることとしましては、教育委員会として、運用方針を定めながらSNSで、フェイスブック等を通じて、こういうコンサートがあるというようなことも告知もやるようにして、なるだけ広く知っていただくような対策は取っております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） そういった取組を考えられて、やっておられるということですので、ぜひ継続と利用者の増加に向けた取組を、対応をお願いしたいと思います。

続きまして、使用料収入の増加に向けての考え、取組についてお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

現在の料金設定は、町民の方が利用する場合には、できる限り負担が少ない額に設定してございます。使用料収入を増やすためには、町外の方の営利を目的とした利用を伸ばすことが必要だと考えております。

このコロナ禍が落ち着く状況が続けば、感染防止対策を徹底した上で、入場料を伴う音楽会やコンサート、演劇等で御利用いただけるよう、施設の使いやすさなどを町内外に積極的に情報発信していきたいと考えます。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） 使用料収入の増加に向けた施策としては、理想的な取組かと思えます。

こちら、ホームページのほうに、交流センターの施設使用料は当面の間、町内区分については半額となっていますけれども、標準料金に戻すタイミング等はお考えでしょうか。

副議長（横澤はま君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

実際に料金を上げるというようなことは、やはり国の大きな変化、例えば消費税増税、そのようなタイミング以外は、なかなか現実的には難しいかなというように考えてございます。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔 2 番 大厩美秋君 登壇 〕

2 番（大厩美秋君） 分かりました。

あと、交流センターは、先ほども話に出ましたけれども、SNS で日々活動等の発信をされていますけれども、創造館についても、多くの人たちに知ってもらうためには有効と考えますが、こういった SNS での発信を独自でとか、そういった考えはないでしょうか。

副議長（横澤はま君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えします。

SNSの情報発信なのですが、やはり人によっては得意不得意というのもございますし、生涯学習課としては、いろいろな施設がございますので、これを情報さえ集められるのであれば、大かえで俱樂部であろうが、総合体育館であろうが、創造館であろうが、交流センターであろうが、同じところから情報発信を今現在もしているところがございますので、そのような形でやっていきたいと考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 創造館独自というわけではないにしても、一括して、そういったところの発信をしていただいているということですので、こちらのほうはよいかと思えます。

あともう一点、創造館の周知という観点から、ホームページでの検索をしたところ、どうしてもたどり着くまで不便を感じています。ホームページを立ち上げて、施設案内、そしてコミュニティ・文化・スポーツというところへ行って、その後、クラフトパークというところを出して、その中に創造館というところが出てきます。施設としての検索では、すぐには出てこないんですけども、その辺について、もっとスムーズに検索できることを提案しますけれども、どうお考えでしょうか。

副議長（横澤はま君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

御指摘ありがとうございます。

確かに見づらい、検索しづらいということも、私どもも感じておりますので、これは早急に改善するように、見やすくしていきたいと考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） ぜひ早急に、よろしく願いいたします。

それでは、次の質問ですけれども、令和4年度当初予算編成方針で、町長基本方針の一つに、かえで広場への遊具とあずまや設置が挙げられました。今後のかえで広場がどうあるべきか、具体的な展望について、町長の考えをお聞きします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、お答えいたします。

かえで広場の展望についての御質問でありますけれども、遊具とあずまやの設置を検討しておりますが、既にアイデア、御意見を募集しており、多くの御意見をいただいております。今後の活用につきましては、御意見、御希望を参考にして、常に人が集い、年齢を問わず愛されるかえで広場になるよう目指してまいりたいと考えております。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） まだ立ち上がるところで、これから細かいところは絞られてくるのかなと思いますけれども、既にクラフトパークには遊具がありまして、それと今回のかえで広場、それで、会染西部地区圃場整備事業の中での非農用地の検討図にも遊具が計画されていますけれども、こういった、ある意味2か所増えるような、3か所の展開について、町長の考えをお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 公園が増えるというお話であります。遊具につきましては、各自治会に今まで設置をされておりました。点検によりまして、ほとんどの遊具が不適合と、今、大変安全基準が厳しくなっておりますので、そのために撤去してしまいました。各自治会、身近に欲しいという御意見が随分ありましたけれども、今のところ、自治会の近隣に設置するというような状況ではありませんので、1か所ずつでも増やしまして、子供たちが遊べる、そんな環境づくりをつくりたいなということで、遊具の設置ということを考えているところであります。

創造館というお話がありましたけれども、現実的には、町内の皆さん、非常に使いにくいというか、高い場所ということで、松川の公園に行かれる方も結構いらっしゃるというような話も保護者の間から聞いておりますので、どうしても町なかにそういう遊具のある公園の設置ということが必要かなと、要望の中から、そんなところを感じているところであります。

会染西部につきましては、先ほども御質問ありましたけれども、遊具が必要かどうか、またこれは町民の皆さんとの、御意見をいただいたりしながら、検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 既に3か所、クラフトパークを含めて3か所の遊具ということが、土俵に上がるというか、公表されてきているわけですので、こういったところを本当に細かいチェックしていただきながら、先ほど町長も言われましたけれども、2年半前の一般質問において、遊具、各自治会にある遊具について、D判定のものについては撤去をということで、大部分のものがD判定ということで、その年の9月には、担当の健康福祉課のほうですぐに対応していただいて、全て危険な使用禁止になっている遊具は撤去をしていただきました。こういったことの繰り返しがないように、それとあと、中途半端で余計子供が集まらなくなってしまうような、そういった施設、遊具の計画だけはしてほしくないと思います。

そういったことで、使われずになって使用禁止となった遊具は、これから見るのがつらいと思いますので、その辺は十分考慮をしていただきまして、同時に、クラフトパークの遊具は、今後老朽化が心配される時期に入ってきています。今年の点検、毎年の点検と、維持管理費用も新設に伴い、増額されていくと思いますけれども、しっかりした、こういったところの数字も研究していただいて、対応のほうをお願いしたいと思います。

それでは、最後の質問になります。

交流センターオープン時から、かえで広場の有効活用が課題であったと思われれます。担当課として、かえで広場の在り方と、遊具とあずまやの設置がこれで挙げられたわけですが、かえで広場の在り方と今後の考えについてお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

かえで広場を多くの町民の方に御利用していただくためには、日差しや雨をしのげるあずまやや、幼児から小学生くらいまでが安心して遊べる遊具が必要だと考えてございます。

今年夏なんです、かえで広場の遊具について、町内の保育園児の皆さん、小・中学生、それから一般の方から寄せられたアンケートというものがございまして、これを今、交流センターに掲示しているんですが、97件のアイデアが寄せられてございます。中でも、ブランコ45件、すべり台39件、鉄棒23件などの設置を望む声に集中してございます。

今後、このいただいたアンケートを踏まえまして、かえで広場全体をプロデュースするアイデアを複数御提案し、町民の皆さんから選んでいただける方法を検討してまいりたいと思います。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） 今の説明で、実際に対象となる人たちをはじめとして、たくさんの意見を集めていただいているということで、私も交流センター内の回廊の西側に、そのアンケートと寄せられた意見が展示、貼り出されておりますけれども、今後の取組に本当に有効になっていくと思いますので、引き続きこういった取組をお願いいたします。

あと、交流センターでは、掲示板に来場者の方々の声がたくさん集まって、入口のところに掲示されていますけれども、このような取組に、今後テーマを設けて、例えば今の課題に対して、かえで広場の未来像的なもの、あとは、何度も来なくなるかえで広場とはどういったものか、ちょっと範囲を広げた中でのアンケートというか、町民の声を集めていただくことも提案をしたいと思います。

あと、担当課のほうの方々が、これから研究していくに当たっては、町外の遊具施設、安曇野市もありますが、ちょっと遠いところでは松本あたりにも立派な遊具施設があって、休みのたびににぎわっているのを見かけます。こういったところの視察等も検討していただいて、今後の取組にしていっていただきたいと思いますが、そういった取組についての考えをお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 下條生涯学習課長。

生涯学習課長（下條浩久君） お答えいたします。

ただいまの御提案、大切に受け止めて、私どもも早速、近隣の市町村の遊具等も実際に見てきて、参考にさせていただきたいと考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大厩議員。

〔2番 大厩美秋君 登壇〕

2番（大厩美秋君） そういった足を使った中での研究のほうも続けていっていただきたいと思います。

オープン当初から、かえで広場の使用用途については、ずっと今まで、遊具がないせいなのか、よく分からないんですけども、ほとんど使用されていなく、でも、トイレと水飲み場は設置されているという環境でありますので、ここのところの遊具、広場の有効活用については十分な研究をしていただいて、いろいろな提案、それを絞り込んでいくような体制を

しっかり準備していただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終了いたします。

副議長（横澤はま君） 以上で、大厩美秋議員の質問は終了いたしました。

これより暫時休憩をいたします。

休憩 午後 2時02分

再開 午後 2時20分

副議長（横澤はま君） 休憩を閉じまして再開いたします。

なお、矢口新平議長、体調不良のため、副議長の横澤が務めさせていただきます。

矢 口 稔 君

副議長（横澤はま君） それでは、4番に、5番の矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） お疲れさまでございます。

引き続き一般質問をさせていただきます。5番の矢口稔です。

今回は、大きく3つの点について質問をさせていただきます。

まず初めに、先ほども同僚議員から質問が出ております経常経費の抑制につながる適正な人材の確保についてを質問したいと思います。

資料、お手元にありますけれども、前段2つの部分につきましては、先ほど説明また答弁がございましたので、割愛させていただきます。地域プロジェクトマネジャー制度の導入をというところから質問させていただきたいと思います。

人件費を削減することも非常に重要ですが、人件費をなるべくかけずに人を増やす方法を考えてもいいのではないのでしょうか。今年度から開始された国の施策の中で、一つ提案をさせていただきます。地域プロジェクトマネジャー制度であります。資料は後ろのほうに添付してございますので、御覧ください。

地方公共団体が重要プロジェクトを実施する際には、外部専門人材、地域、行政、民間な

どが連携して取り組むことが不可欠であります。そうした関係者間を橋渡ししつつ、プロジェクトをマネジメントできるブリッジ人材が不足しております。そこで、市町村がそうした人材を地域プロジェクトマネジャーとして任用する制度を、国が今年度から創設をいたしました。雇用に関する費用最大650万円、年間ですけれども、これは特別交付税で措置されるとしております。

近隣の市町村を見てまいりますと、筑北村、また松本市が観光分野にて、茅野市はデジタル戦略、いわゆるDX戦略において、この制度を導入しております。

調整できる人材を外部から雇用することにより、人手不足の解消と町の事業と事業の間の連携も期待できます。来年度の導入に向けて取り組んでいただきたいと思いますが、町の考えをお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） それでは、ただいまの矢口稔議員の御質問にお答えしたいと思います。

地域プロジェクトマネジャーについての御質問でありますけれども、御指摘のとおり、国の制度として創設されましたが、イメージとしては、地域おこし協力隊の長期対応型という形態のようで、町の課題に対して長期的に取り組む制度であると考えます。

当町では現在、個別の課題はありますが、制度を利用しての長期的に取り組むべきプロジェクトというものはないものと考えております。

なお、この制度における人件費は特別交付税で措置されるにしても、地域おこし協力隊のように臨時的経費ではありませんので、人件費としてカウントされ、人件費の削減にはつながらないものと考えております。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 小田切副町長。

副町長（小田切 隆君） ただいまの町長の答弁の中で、人件費にカウントされないというところなんです、ちょっと分かりづらい表現になっておりましたので、私のほうで補足させていただきますが、募集要項等は地域おこし協力隊とほぼ同じです。3大首都圏から来ていただかなければならない、交付税措置されるというところも共通ですが、違うのは、地域おこし協力隊は3年間という期限付であります。

これは決算統計等の仕訳の中でいけば、臨時的経費ということになりますので、経常収支比率には反映されません。ところが、地域プロジェクトマネジャーは期間がないということ

になりますので、恒常的な経費に算入されることから、現在町が課題としております経常収支比率の抑制にはつながらないと、そういう意味合いのことでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

副議長（横澤はま君） 矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 分かりました。

人件費的な、そういう数値的には反映されないということで、数値的に見れば反映されないということは理解しますけれども、明らかに92名に向けて人員削減をしていかなければならないという中で、そういう質的や量的なサービスを低下させないで、92名まで正規職員を持っていくことが果たしてできるのかどうなのか。そこが非常に、やはり疑問が残るところでありまして、住民の方々はそこを心配しているんですね。

幾らでも切ることはできるけれども、サービスが低下したり、今まで行ってきた福祉の面とか、そういったものが切り捨てられてしまうのが一番困るということが言われておりますので、そういったところで、要するに国の施策、そういう数値的なところは置いておいても、マンパワーはどうしても必要だと思うんですね。

その点について、要するにほかの組織からも人材を導入して、活用しているところもございます。それは、国や県からの交流の人材もそうですけれども、また、今では島根県の海士町においては、国際開発事業団のJICAの職員を招聘して、そういう町づくりに役立てるといったこともしております。

だから、外部から人を要するに、そういった経費のなるべくかからない方法で招き入れて、そういったマンパワーを補う施策というものも、やはり考えていかなければいけないのではないかなと思うんですけれども、そういった調査をまず、ぜひ始めていただければと思いますが、町長、いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 要は、人件費の削減ということが大課題でありますので、それに影響を及ぼさない、そういう人件費といいますか、制度があれば、大いに使っていきたいというふう考えております。

先ほど御指摘あった地域プロジェクトマネジャーについては、副町長の説明したとおりでありますので、これをお願いすることはやぶさかではありませんけれども、やはり人件費、あるいは人数という部分でカウントされてしまうと、この辺はちょっと問題かなというふう

に考えているところであります。またいい制度がありましたら、大いに御提案いただければ
なと思います。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 様々な制度、国もあります。調べればいろいろなところで、また民間
からも出向とか、社会貢献の一環として研修とか、そういったところで、やはり地域の団体
に出向させて、そこで研修とか、そういった勉強してまた帰るといふ、そういう制度もあり
ます。それは個々に調べていただければと思いますけれども、ぜひそのところを、一番危
惧しているのは、人件費は今のところ変わらないんですよ、先ほどの答弁を聞いていると。
ですけれども、人数は減っていってしまうという、そこなんですよね。

なので、やはり人件費に影響がない制度の中で、人をやはり、ある程度確保していかなけ
ればいけないという、ちょっと知恵を使っていかなければいけない時代に、令和8年までは
少なくとも、いかなければならないのではないかなと思います。

やはりそういったところの、自分のこういうパイだけで考えるのではなくて、やはり外部
からそういった知恵と、そういったマンパワーをぜひ導入して、この難局を乗り切ってい
ただきたいと強く希望しておりますので、研究をさらに進めていただきたいと思います。

続いて、2番目、町が取り組む地球温暖化対策についてであります。

地球温暖化対策のビジョンはということで質問させていただきます。

第6次総合計画が実行に移り、国連が提唱し、総合計画にも盛り込まれた持続可能な開発
目標（SDGs）が、様々な場所や機会で見られるようになりました。町も昨年3月の議会
定例会において、気候非常事態宣言を行いました。町民や事業者と協働して取り組むことや
再生可能エネルギーの促進を推進するとしています。

このような宣言の下、ビジョンを明確にする必要があると考えております。町民一人一人
ができること、家族でできること、町や事業者など団体ができること、様々な取組が求めら
れています。地球温暖化対策のビジョン策定について、どのように考えているのか、お聞き
いたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、お答えをいたします。

地球温暖化に対するビジョンはということでありますが、御指摘のとおり、全世界が取り

組むべき課題であり、人類が直面する最大の課題であると考えております。

ビジョンについての御質問ですが、県では「信州ゼロカーボンBOOK」を策定し、事業者向け、県民向けと、それぞれの取組について明らかにされております。その中では、2050年ゼロカーボンを実現するために、使うエネルギーを7割減らす、再生可能エネルギーを3倍以上増やすと目標が示されております。

町といたしましては、県の方針を受け、そのビジョンに沿った取組を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 県の取組にそのまま連動していくということなんですけれども、やはり気候非常事態宣言を出してある地域というのは、まだ限られておりまして、池田町は先進的な、こういう取組がされているところでもあります。なので、県がやってくる取組もそうなんですけれども、さらにそれよりも一歩や二歩前に行った取組を求めていると思うんですよね。だから、「ゼロカーボンBOOK」もいいんですけれども、県レベルでできることと町レベルでできること、また違いますので、そういったところをどのようにビジョン化して、皆さんに御理解いただけるかというところだと思うんですよ。

数年前にエコバッグを作ったときがありましたよね。非常にいい取組かなと思っているんですけれども、なかなか今、スーパーとかに行っても、あのエコバッグを目にする機会もあまりない、使っている方はいらっしゃるんですけどもね。やはりそういったところ、もう一回エコバッグを見直してみませんか、池田町、配ってありますよね、たんすの奥にしまっていてありませんかとか、そういったことを踏まえて、要するにちょっと啓蒙活動を、ビジョン策定と併せて行っていいのではないかなと思うんですけれども、その点についてはいかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 養町長。

町長（養 聖章君） 御指摘のとおりでありますけれども、エコバッグを配布することによって、町民の皆さんの意識はずっと変わったなと私は感じております。それ以降、非常にレジ袋等の使用量が減ったというようなことも聞かれていますので、今は見かけないというよりも、いろいろなエコバッグが出てきまして、というよりも、皆さんがそれぞれの中でエコバッグを用意して買物に行かれる、これが当たり前の日常になってきてしまったと。そのき

っかけを、あのエコバッグがつくったのではないかというような気もしております。

確かに、さっきもお話ししましたように、これは行政だけでやることではありません。住民の一人一人が取り組むという課題でありますので、どんな形でも地球環境を守るという形の中で取り組んでいただきたいということをお願いしていきたい。そういう意味では、大いに啓蒙活動をしていきたいなというふうには考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） また、啓蒙活動にも期待したいところではあります。

その中で、やはり一番直接的な、こういう地球温暖化を身をもって体験するというのは、やはり災害だと思うんですね。明らかに水の量が、ここ10年違います。高瀬川もそうですし、山から下りる量も全然違いますので、やはりそういったところも含めて、災害の数値、10年前と池田町はこれだけ変わってしまいましたと。今後いくと、池田町はこうなってしまいますから、ぜひそういったところを防止するために協力してくださいとか、そういった、要するに身をもった体験でないと、なかなかこういう、海がないですから、プラスチックの削減といっても、どこまで、肌で感じる事がなかなかできないんですけども、町民の皆さんが一番感じているのは、やはり災害が多くなったということですよ。

だけれども、やはりそういった地球温暖化対策を少しみんなですることによって、今までの災害をより少なくすることができるのではないかという行動に向けた考え方を、ぜひちょっと皆さん、考える機会を持っていただきたいと思うんです。

なので、来年なんかは特にそうですね、そういう気候自体に関連したシンポジウムなり何なりでも結構ですし、来年度の事業で、町内の中でも詳しい方、気象に詳しい方もいますし、様々な特化した方がいらっしゃいますので、そういった人を交えた啓蒙するような事業をぜひ、予算をかけない中で実現に向けていただきたいと思いますが、町長、いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 御指摘のとおり、私もいろいろな形で町民の皆さんに訴えていくと。そういう点では、シンポジウムあるいは講演会、またいろいろな懇談会等、必要かなというふうに考えております。

白馬村では、高校生が地球温暖化に対するプロジェクトチームみたいのをつくって、いろ

いろな提案をしてきているようでありますので、そんな形で、皆さんの御意見、また提案等を引き出せるような、そんな場づくりをやっていきたいなというふうには考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） それでは、来年度の事業に非常に期待したいと思います。

続いて、太陽光屋根の屋根貸し事業の実績と拡大はという点であります。

現在、町では、複数の公共施設の屋根を民間に貸し出しております。その屋根には太陽光パネルを設置して、面積に応じて収入を得るとともに、地球に優しい再生可能エネルギーの推進に取り組んでおります。しかし、町民から見れば、設置された場所やメリットが対象施設に表示されておりません。また、町の温暖化対策が町民意識の向上には至っていないのも現状であります。

現在の実績とともに、今後の展開及び町民への周知や意識の向上に向けた取組についてお伺いしたいと思います。

副議長（横澤はま君） 養町長。

町長（養 聖章君） ただいまの御質問でありますけれども、詳しい内容につきまして、担当課のほうから説明をさせていただきたいと思いますが、先ほどのお話のとおり、こういう事業を通して、町民の皆さんに大いにPRして理解をしていただく、認識をしていただく、そんな取組をしていきたいというふうに考えております。

それでは、担当課のほうからお願いいたします。

副議長（横澤はま君） 大澤企画政策課長。

企画政策課長（大澤 孔君） それでは、私のほうからお答えいたします。

町では、再生可能エネルギーの普及拡大や行政財産の有効活用を図るため、昨年の夏から太陽光発電事業者が公共施設の屋根を貸し出しております。対象施設は、総合福祉センターやすらぎの郷、池田保育園、池田小学校、会染小学校、高瀬中学校の5施設です。

年間発電量は約41万キロワットアワーで、一般家庭約95世帯分の年間電気消費量に相当いたします。屋根貸しの期間は20年間で、発電事業者からは年間約46万4,000円の使用料を頂いております。20年間で約930万円となります。このほか、固定資産税の収入もございます。

なお、災害時に使用できる屋外用非常コンセントを設置してあるほか、環境教育などの観点から、発電状況を確認できる表示モニターも施設内に設置し、児童・生徒や施設利用者に

太陽光発電の周知を図っております。

屋根貸し事業の拡大に関しては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度における買取り価格が年々下がっていることや、屋根貸しに適した公共施設がさきに述べた5施設以外にないことから、これ以上広げることではできませんが、現在の取組を広報いけだ等で紹介し、周知を図ってまいりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 年間46万円ということと20年間ということでありますけれども、モニターを設置してありますけれども、私、ついているところを見たことないんですね。せっかくついているんだったら、1時間でも、学校だったら登下校の間とか、ちょっとお手数かもしれませんが、そういったところでちょっとつけていただくと、非常に、登下校の間は発電していなかったりするわけでありましてけれども、モニターをやはり周知するなり、どこの場所でどんなことをやっているのかというのは、やはり町民の皆さんに知っていただく。ああ、これで少しは池田町は貢献しているのかなというのを分かっていただく。あとは、そういった指標の中に、例えばCO₂の回収はどのくらいとか、そういったところのものをに入れて広報いけだ等で周知をしていただく、そういったところの取組をぜひお願ひしたいと思ひます。

公共施設にとどまらず、池田町で一般家庭に向けて、太陽光発電の補助金を出しておりますけれども、県では長野県だけですね、全国で、こういう空撮映像に、あなたの家は適しているか適していないかというのが一目で分かるマップが今、公開されていますので、そういったところも要するに、うちの屋根は適しているのか、適していないのかというのは、インターネットがつながる環境であれば、すぐ見られますので、そういったところも含めて周知もお願ひしたいと思ひます。

これは、担当は住民課長だと思ひますけれども、住民課長、いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 蜜澤住民課長。

住民課長（蜜澤佳洋君） 県で公表しているソーラーのポテンシャルマップにつきましては、町のホームページからもいけるようにリンクを貼っておりますので、そういったところで周知をしているところでございます。

副議長（横澤はま君） 矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 引き続き、せっかくいことをやっているのが、なかなか太陽光というのは静かですので、何も音も出ませんし、分からないんですよ。それで、特に、一般家庭よりも高いところに載っているものですから、遠くからでないとパネルは見えないですし、何でそういうことをやっているかということも、町民の皆さん、なかなか分かってもらえていないので、こういった努力をしているということも、ある意味、ゼロカーボンに向けた池田町の取組の一つだと思いますので、そういったところをぜひ進めていっていただきたい。いいことをどんどん、やはりアピールすることも大事だと思います。

続いて、今度は各家庭にちょっと話題を移しまして、各家庭が自然エネルギーの電気を購入できる取組をとということであります。

長野市では、各家庭向けに電気の共同購入事業を開始いたしました。家庭からの温室効果ガス排出量削減を目的に、再生可能エネルギーなどから作られたエコな電気への切替え、これはE E電キャンペーンということで、ホームページに載っておりますけれども、実施が始まりました。もちろん、共同購入により各家庭の月々の電気料も削減されることに、ほぼなっているということで、一部例外はあるようでございますけれども、そういうことだそうでございます。

長野市など大きな自治体との協働での取組が、こういったものには必要となってくる時代であります。新しい考え方として検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えしますが、E E電キャンペーンということでもありますけれども、再生エネルギーの共同購入の新しい仕組みとのことですが、電力プロバイダーの説明によりますと、電力の選択に環境を配慮する制限がかけられ、通常プランより価格は上がることになり、コストの削減にはつながらないということでありました。

また、スケールメリットがないと効果が期待できないのではないかとということで、当町ではちょっとなじまないのではないかと考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） これは本当、スケールメリットの問題が大きいんですよ。実際やは

り長野市レベルくらいでいかないと、共同購入、要するにこの一帯を全部契約するので、このくらいの価格でという、かなり大きな話なものですから、すぐには取り組めないと思いますけれども、ぜひ広域とか、やはり白馬村とか大町市、特に今は、スキー場の電力は全部そういった、第三者のこういう電力プランになっておりますし、そういう大きな流れの中に来つつありますので、ぜひちょっとアンテナを高くしていただいて、大北圏域とか、こういう、例えば安曇野市とかと一緒にできるとか、電気にはそういう、ここまでとかあそこまでというのがないものですから、ぜひそういったところに一緒に提案していただけることによって、近い将来こういったことも、要するに検討の余地に入るのではないかなと思うんですけれども、機会あるごとに、町長、またお会いすることも、各首長さん、あろうと思いますので、そういったところの話をぜひ出していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） これから広域の時代ということと言われております。いろいろな形で、広域と連携していくということが大事なと思います。北アルプス広域ということで、5市町村がこちらでは組合を組んでおりますけれども、安曇野市とも隣でありますので、連携をできる部分はしていきたいなということで、いろいろな形で話は出していきたいというふうに考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） ぜひ話を出して、そういったような観点で話を持っていていただくことを期待しております。

また、太陽光発電だけが再生エネルギーではないわけでございまして、太陽光発電だけにとらわれない地球温暖化対策の推進についてお聞きいたします。

さきのまちづくり懇談会において、具体的な地球温暖化対策は実際示されませんでした。隣の松川村の例では、民間の事業者が小水力発電を活用し、自然エネルギーの推進に取り組んでいるとお聞きしております。当町も太陽光発電のみならず、民間事業者と共に、幅広く自然エネルギーを活用した事業の推進に取り組むべきだと思いますが、地球温暖化対策について、具体的にどのように取り組んでいくのか、お尋ねいたします。

副議長（横澤はま君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） 太陽光発電にとらわれない対策をとということではありますが、自然エネ

ルギー活用についての御質問につきましては、過去には業者と協力して取り組んだ経緯があります。具体的には風力発電、小水力発電等ですが、いずれも調査の結果、当町の地勢に合わないという結論が出てしまいました。

太陽光発電につきましては、当町は近隣に比べて日照時間が長く、適しているということですので、住宅の屋根に設置する補助金を設けて推進しております。また、池田保育園では、地中熱を活用しての発電設備を設置しております。

以上のことから、新たな取組がなかなか見いだせないという状況でありますけれども、常に模索してまいりたいと考えております。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） ぜひ小水力に関しても、かなり考え方がちょっと変わってきたようでありまして、松川村さんのところを聞いていただくと分かるんですけども、そんなにも大きな川ではないし、方式がやはり過去とちょっと変わるみたいで、そういったところも含めて、池田町のやはり水利権問題がありますけれども、そういったところをクリアしながら、何とかちょっと検討を、またそういった事業者さんと一緒になって、事業者さんもやり方によって全然違うみたいなので、そういったところもお願いしたいと思っておりますし、池田保育園の地中熱の発電はしていないと思うので、多分そういった地中熱の熱を利用した暖房ということだと思いますけれども、その点においては、穂高のクリーンセンターは発電をしているわけであります。

なので、施設には、こういう発電機能というものも当たり前のようについてくる、公共施設を1個造ると発電も一緒に造るとというのが、公共施設のスタンダードみたいなところにもなっておりますので、ぜひそういったところも含めて、また検討をしていただきたいと思います。

その点について、もう一度幅広く、町長、せっかくいい、こういう本当にゼロカーボンとか、気候非常事態宣言というのを出したわけなので、町民の皆さん期待していますので、太陽光プラスアルファという考えで、ぜひちょっと研究を進めて、またプロジェクトチームをつくっていただくなり何なりして、もう一步、もう半歩前進していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（麿 聖章君） 議員御指摘のとおり、当町は気候非常事態宣言を発出いたしましたので、あらゆる角度から検討を加えていきたいなど、また研究していきたいと思ひますし、またいろいろな形で、皆さんの御意見を伺える機会を設けていきたいというふうには考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） ぜひ我々の次の世代、また、さらに次の世代にもつながる話でございますので、こういった先人が頑張ってくれたおかげで池田町があるとか、すぐに答えが出る問題ではないというところが、この課題の大きなところでありますので、ぜひそういった先進的な取組をしていただきたいと思います。

続いて、3番目の質問であります。町の情報発信の在り方についてであります。

現在の町の情報発信体制についてお伺いをいたします。私の一般質問でも複数回質問させていただいている情報発信についてであります。

ようやく町の公式ホームページ以外にも、ツイッターやフェイスブックなどSNSの情報発信が始まりました。フェイスブックの「いいね」を見ると、具体的な取組などを紹介するなど、興味深く御覧になっている方も多くいらっしゃると思ひております。先ほど下條課長がおっしゃられたかえでのページとか、様々なところで、きめ細かなページの発信がされております。

しかし、町の公式ホームページにリンクしていないページやサイトがあるなど、情報の正確性が担保されていないようにも感じます。例えば、地域興おこし協力隊のフェイスブック、非常に移住者にも魅力のある発信をされております。景色とか季節の移ろいとか、新たな視点で、非常にいいページなんですけれども、本当にこういうリンクされていなかったり、本当に限られたところで、今は一生懸命活動されているので、そういったところとか、あとは長野県池田町教育委員会ホームページ、こちらのほうも、今年になって立ち上げができましたけれども、町の公式ホームページにはリンクがされておられません。

もう一度、情報発信する各メディアを再点検し、正確な情報であることの担保、リンクを公式ページに掲載する、相互リンクを貼るなどが必要なのではないでしょうか。情報発信体制についてお伺いをいたします。

副議長（横澤はま君） 麿町長。

町長（麩 聖章君） 情報発信につきましては、正確性、先ほど指摘ありましたけれども、それが大事なことかなと思います。リンクの貼り方については、まだまだ不足している部分があると思いますので、これからは研究を重ねてまいりたいというふうに考えております。

それぞれのSNSのアカウントにつきましては、職員しか知り得ないものでありますので、発信者が職員であることが情報の正確性を担保するものの一つと考えております。公式ホームページと各SNS間の相互リンクも正確な情報を示すことの一つでありますので、今後、整備を進めてまいりたいというふうに思います。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） というのは、SNSのアカウントをつくってみた方は分かりますけれども、全く同じアカウントをつくれるんですよ、誰でも。IDだけが違うだけで、全く同じ情報で、誰も情報を担保してくれないんですね、正確性については。インターネット全体にそうなんですけれども、インターネットの情報が正確であるということは誰も保証してくれないんですけれども、しかしながら、地方公共団体等においては、やはりそういったところがしっかりとした情報を流さないと、いざというとき、災害とか、そういったときにも活用するわけでありまして、間違っただけをそのままやっていると、また命に関わる問題も出てくるわけがあります。

そういったところで、実際見てみると、かなりホームページのところ、情報が古いものもあつたり、リンクが切れているものもありますので、もう一回ホームページ、今ちょうど、あのホームページになってから数年たちますけれども、リンク先の確認をもう一回していただくということですね。それでないと、今はそのリンクが存在しないというところが多々出てきておりますので、そこら辺のところをもう一回確認をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） 御指摘のとおりかと思えます。いろいろな情報が、これから流れてきます。その中で、正確性をチェックするということも大事でしょうし、また、正確な情報であればリンクをして、幅広く町民の皆さんにもお伝えをしていくということが大事なかなと思います。再度、リンク先については、洗い出しをしていきたいなというふうには考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） ぜひお願いします。

その次に、情報発信のガイドラインのほうに、ちょっと話を移させていただきたいと思えます。

現在、ツイッター、フェイスブックなど、情報発信について、運用方針などは個々に策定されております。今後、様々なサービスが増加することを考えると、情報発信全体のガイドラインや指針などをまとめることも必要ではないかと思えます。

現在は、町公式ホームページでは、個々の運用方針が大きく掲載され、大切な情報が下の段に掲載をされております。町民とか情報を知りたい人たちは、ガイドラインを知りたいわけではなくて、情報を知りたいわけですので、情報そのものを1枚目のトップページに持ってくる、そして、運用方針などはまとめて掲載するといったことを、更新とともに情報発信のガイドライン作成について、まずお聞かせください。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ガイドラインの作成ということではありますが、各SNSの運用方針の作成に当たりましては、まず、上位規定である池田町情報セキュリティポリシーを遵守した上で、それぞれのSNSの性質や運用担当課の方針に合わせる必要があるため、各運用担当課が定めた運用方針にのっとって運用しております。

御質問にある情報発信全体の指針については、このセキュリティポリシーが該当するものと考えております。また、御指摘のありましたホームページの見やすさの件でありますけれども、運用方針や情報等の並び順の配置を再検討し、できるだけ見やすくしていくということも重要な要件かと思えますので、検討してまいりたいと思えます。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） ぜひ、そういったところをもう一回、ポリシーのほうはまとめてあるんだったら、それでいいんですけども、なぜかツイッターとか、そういったものは、なぜかポリシーが前面に出ているということもありますので、ぜひそこら辺のところはまとめてあるところに、デザインの問題だと思えますけれども、ぜひ見やすい親しみのあるページ

にさせていただきたいと思います。

また、長野県の教育委員会のホームページについてお聞かせください。

教育委員会のページというのが今2つに分かれていて、非常に見にくいんですよ。御覧になっても分かるとおり、例えば教育委員会と押しても、このページにはいかないんですよ。せっかく作ったのに、そういったページにはいかない。わざわざ長野県教育委員会ホームページとあって、作っていただいた方のページのすぐ後くらいに出てくるという、なかなか探しづらいページであります。

また、今、学校ではタブレットを配付して、自分たちの学校のことを調べようかなとあって、池田町のホームページから入っても、自分たちの学校の新しいページには到達はしない状況です。

やはりそんな中で、そういった池田町の教育委員会のホームページの更新状況について、私は調べていて、ちょっと疑問に思ったのは、教育委員会の議事録が平成2年3月より更新されていないんですよ、3月19日の委員会から。これは、何でそこで止まってしまったのか、まずちょっとお聞かせください。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 令和2年3月が直近の定例教委の議事録ということによろしいでしょうか。町のホームページ上でということによろしいでしょうか。

教育委員会のほうでは、令和3年度以降も毎月、定例教育委員会をもちろん開催しております。議事録のほうも作成しておりますが、ホームページ上には掲載ができていないということでもありますので、そちらのほうは早速対応させていただきたいと思います。

副議長（横澤はま君） 矢口稔議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） そういったところも、やはり広くチェックしていかないと、結構見過ごされて、多分3月19日で終わっているということになると、職員の引継ぎがうまくいっていなかったのかなとか、そういったところまで気にするところもありますので、ぜひそういったところを改善をしていただきたいと思います。

また、各学校の紹介なんですけれども、平成30年のままなんです。ランドデザインも平成30年のまま、学校長の先生は、1代か2代前の先生のごあいさつが載っていますけれども、これはあえて載っているということでしょうか。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 現在、町のホームページ上に小・中学校の項目がありますけれども、そちらは確かに議員おっしゃるとおり、情報がほとんどない状況であります。

今年の9月に、先ほど来ありますけれども、もう一つの長野県池田町教育委員会ホームページというものを整備しまして、その中に、3校のホームページのほうも作成済みなんですけれども、現在のところ、まだリンクはされていないということでありまして、これについては、教育委員会のほう、また小・中学校のほうで随時更新できるような環境を目的に、もう一個ホームページを作ったものですから、セキュリティーの関係等の問題がございまして、今のところはリンクがまだできていないという状況ですけれども、小・中学校の学校のホームページと町のホームページについては、リンクを取ることは問題ないかというふうに思っています。町のホームページの小・中学校の項目から、新しく作った教育委員会のホームページの小・中学校のそれぞれのところにリンクするような形で、今予定をしております。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） こういう課ごとの、大澤課長の企画政策課との連携とかが多分、十分ではないのかなというのがちょっとかいま見えるのと、やはり3年間もそのままほっぽっておくというのは、よほどですよね。9月にできたと思っても、その前の情報はないわけなので、やはりそういったものも必要性がないのであれば、要するに要らないですし、必要性を感じ取るのであれば、ぜひそういったものを活用していただきたいというふうに思います。

情報というのは、やはり生ものですので、古い情報をそのまま残しておく、やはり信用がどんどんなくなってきましたし、考え方も変わってきます。コロナ前の情報が今まで載っていますので、全然今、学校の対応も変わっておりますので、そういったところを要するに、ぜひチェックをしていただいて、そういったホームページの更新を生かして、せっかくいいものを作ったのであれば、ぜひ生かさなない手はありませんので、お金もかけてあります。独自のドメイン、GRドメイン、エデュケーション・ドメインですね。非常に高いんですよ、エデュケーション・ドメインというのは、維持管理費も。やはりそういったところも、費用対効果も出てきますので、ぜひそういったところも含めて、ちょっと対応をお願いしたいと思います。

その中で、私は教育長と一番近い議員だと思って、情報発信について真実をお伺いしたいと思っておりますけれども、1点、フェイスブックページで、信州池田町学びの郷だよりというの

があるんですけれども、非常にいろいろな情報が発信されていて、2,000いいねを超えているという非常に活発なページだと思います。

その中で、教育委員会の公式ページと表記されていますが、教育委員会はどのような対応をされているか、お聞かせください。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 時期のことは、ちょっと詳細には覚えていませんけれども、そういった教育長のホームページを公式ページということで認識するようになっておりまして、現在に至っております。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 実際私も、そういった学びの郷だよりのコンテンツにも協力をさせていただいた経過もありますけれども、実際、教育委員会の公式ページと書いてあるんですけれども、遡っていくと、教育長の私の個人的見解が述べられているだけのページと書いてあるんですよ。なので、どっちが本当なのか、やはり見る人によっては、そういったところも気にされるといいますか、ところも出てきておりますが、その点についてはいかがなんでしょうか。

要するに、教育委員会内部でちゃんと議論されて、このページが立ち上がったのか、教育長のトップの発想でできたのか。それでまた、情報の内容によっても、やはりかなり違います。管理者は教育長になっておりますので、そこら辺のところ、教育委員会としてどのように、教育委員会の会議の中で御議論がされたのかどうか分かりませんが、そういった状況になっているのか、まずお聞かせください。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 先ほども申し上げましたけれども、当初は教育長個人のホームページであったものを、任期途中、ちょっと時期は詳細に覚えていませんけれども、途中から町の教育委員会のホームページというふうに、公式な取扱い、認識に変更しております。それは教育委員会の中でも共有はしております。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 実際、今後このページがどうなるのか。やはり、せっかくいいページ

なので、どのようなこういう、今度はどなたが管理者となるわけですか。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 教育長の任期、12月末で任期が終わりますけれども、それ以降につきましては、現在ICTの小・中学校の委託をやっているエンターキーという会社になりますけれども、そちらの会社のほうにICT関係の情報発信についてもお願いしていきたいというふうに、現在のところは考えております。よろしくお願いたします。

管理者権限のほうは変えていかないと、ちょっと対応できないということになります。現在、管理者権限のほうは、既に変更済みということでございます。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） ぜひ、せっかくないいページですので、教育委員会の公式ページですので、外部委託をせずに、フェイスブックをやっている方は分かりますけれども、非常に発信のしやすさ、私もそうですけれども、下條課長、本当にプロのように、今発信しておりますので、わざわざそういう外部の方にまた費用を払って運用していただくということは、この御時世、どうなのかなと思いたすが、いかがなんでしょうか。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 今後の対応につきましては、検討させていただきたいと思いたす。また、職員でそういった技術があれば、対応できればということで考えていきたいと思いたす。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） ぜひそういったところは、自分たちの情報ですので、やはり自分たちが、生涯学習課は本当に今、きめ細やかな情報発信されておりますので、下條課長に、隣の方に聞くだけでも十分だと思いたす。なので、ぜひそういったところも、寺嶋課長御自身が行うということではないですよ。ですけれども、やはり教育委員会として、ぜひこういったものを生かしていただきたいなと思いたす。

その中で、情報発信という観点では、単なるフェイスブックでやっている情報発信とともに、もう一点は、教育長の出張の関係であります。教育長は就任以来、全国各地において、講演等の活動を行って行りました。教育委員会として、これは許可をして行っただものなのか、

まずお聞かせください。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 教育長の出張につきましては、職員ではなく、特別職という立場でありますので、通常の職員の出張の取扱いとは異なりますので、御承知いただければと思います。あらかじめ出張が発生するというようなことは、町の理事者間での共有はされているというふうに聞いております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） その中で、報酬が発生しているということをお聞きしております。その場合、地方教育行政の組織及び運営に関する法律によると、服務というところで、11条の7で、「教育長は、教育委員会の許可を受けなければ、営利を目的とする私企業を営むことを目的とする会社その他の団体の役員その他人事委員会規則」云々で「定める地位を兼ね、若しくは自ら営利を目的とする私企業を営み、又は報酬を得ていかなる事業若しくは事務にも従事してはならない。」ということが書かれております。

教育委員会として、報酬を得るということに許可をされたのか、お聞かせください。

副議長（横澤はま君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 私からお答えいたします。

私、着任する前に、町長、副町長とその件についてお話をし、私、県庁時代から同様に講演活動もしておりますし、場合によっては謝金等も頂いているということについては、もちろんお話をし、それを許可いただいた上で着任をさせていただいておりますので、その前提で今までも務めさせていただいております。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 私の質問は、教育委員会として、これは法律上は教育委員会の許可なんです。首長の許可ではないんですよ。教育委員会として許可されているのかというところが非常に問題だと思っておりますが、いかがですか。

副議長（横澤はま君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） お答えいたします。

私、出張する際は、ちゃんと業務報告等も含めて、定例会のほうで報告させていただいて

おりますし、あらかじめ予定でも申し上げたりということもしております。それ以外につきましては、私、休日等を使って、そういった講演等をさせていただいているということで、基本的に平日に行く際には、教育委員の皆様にも御説明をさせていただいております。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） だから、行っていただくのは全然問題ないんですよ。だけれども、報酬を得ているというところに、この法律の根底がございます。ちゃんと教育委員会に許可をもらって、報酬を得ますよということをやはりしていたのか、要するに、無断でアルバイトをしていたということに思われるんですよ。なので、本来の職務以外に、我々もそうですよ、兼職・兼業の禁止の上に活動しているわけでありまして、そういった法律の上で活動しておりますので、そのところの報酬を受けて、こういう活動をしているというのであれば、教育委員会の許可が必要と書いてありますから、教育委員会の許可はもらったのかどうなのかだけお聞かせください。

副議長（横澤はま君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） その報酬を頂いてということについて、特に教育委員会として何か許可を取るという手続はしておりません。私としては、町長、副町長に、着任する前にそのところを御了解いただいているということをもって、私は着任をしたと、そういう理解しております。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 町長、副町長、そう述べられておりますけれども、それで間違いはないでしょうか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） その旨聞いておりますので、一応そういうことで了解はしております。以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 副町長、そのとおりでしょうか。

副議長（横澤はま君） 小田切副町長。

副町長（小田切 隆君） 確かに教育長就任を依頼したときに、講師に行きたいという話は

ございまして、それについては、所定の手続がされればよろしいではないかという答えをさせていただいておりますが、今回は所定の手続がされたかどうかということが問題になっていますので、事前に話があって、私も町長もオーケーという話はしましたけれども、地方教育法の組織何ちゃらという法律に基づいた手続かどうかということまでは、私どもは確認はしておりません。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） いずれにしても、そういった教育委員会での許可はされていないということでもありますので、やはりそういったところは法律に問題があるのではないかと。要するに、言葉は悪いですけども、裏でアルバイトしていたんですねということを言われても仕方ないと私は思います。

その点について、速やかに実態と実績を議会に報告していただきたいと、教育委員会をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

副議長（横澤はま君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 実績につきましては、教育長のほうと確認させていただいて、議会のほうへ、それでは報告という形でさせていただきたいと思います。

以上です。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 私にとっては、町内での講演を聞いて、私のところにも全国の議員仲間から様々なメッセージや問合せが来ております。そういったところも行った報告もないものですから、返事に困ることも実情であります。また、教育長は教育大綱等々が、手法も講演やパネルディスカッションだけではなくて、地域に出向いて一人一人と会話することが、この町には必要だったのではないかなと私は思います。

まだまだ池田町、講演等に教育長が出ていただくという時間的余裕は、はっきり言って私にはないと思います。まだまだ町内には、対応していかなければいけない、子供たちに対する様々なこういう事案が出ております。それを強く私は感じております。だけれども、フェイスブックやそういったところを見ていると、ここへ行きました、あそこへ行きました。なので、自分の時間、特別職のところも、休日というのは土日ではないんですね。特別職は要するに、普通の民間の公務員とは違いますので、土日が職員の勤務日ではありませんので、

そういったことも含めて、もうちょっと丁寧な対応をしていただければよかったかなと私は思います。

特に教育長は、不登校対策を数多く経験しておりました。フリースクールの関係、私も一緒に考えたことも数多くありました。当初から多くの方が、やはり不登校対策に期待をしておりました。しかし、実際には外への講演ばかり、町内の不登校児童・生徒への対応が十分とは言えません。それはなぜなら、私が父親だからです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第11条の5には、「教育長は、法律又は条例に特別の定めがある場合を除くほか、その勤務時間及び職務上の注意力の全てをその職責遂行のために用い、当該地方公共団体がなすべき責を有する職務にのみ従事しなければならない。」と書いてございます。

不登校の子供たち本人、またその親からすれば、見捨てられたのと同じです。本当に子供が真ん中だったのか。なら、なぜ町内の困っている子供たちに直接寄り添ってこられなかったのか。その子供たちにかけてあげる言葉は、教育長として、今は何でしょうか。

副議長（横澤はま君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） 矢口議員が、そういった不登校のお子さんの保護者のお一人ということで、今お話をされているというふうに理解を受け止めております。保護者の御意見ということでは尊重させていただきたいと思います。

ただ、私が池田町の子供たちのことをないがしろにしていたということ、そこまで断定される、矢口稔議員が保護者でなく議員として、そこまで断定されるという根拠を教えてくださいたいと思います。私は、そんなつもりはございません。この3年間、本当に現場としっかり信頼関係をつくりながら、本当に日々子供たちのために、中学校や小学校、保育園の個々の児童の様子もちゃんとうかがい、しっかりそのことについて指示も出し、判断もし、誠実に務めてまいりました。

副議長（横澤はま君） 矢口議員。

〔5番 矢口 稔君 登壇〕

5番（矢口 稔君） 私はたまたま保護者でもありますので、よく分かります。だから言えるんです。それと、不登校になっている、やはり保護者の方からも相談を受けております。教育長は何もやってくれなかったということも言っております。だから、私はここで言えるんです。

教育長のことを、本当に私は感謝しております。だけれども、やはり期待しているところ

と違うところがあるということ、そこは御認識いただきたい。また、次の活躍の場もぜひ頑張っていたいただきたいというのを、私は願っているところであります。

しかしながら、やはり池田町の子供たち、より私は、教育長よりも、より中に私はいると思います。直接生の声を幾つも聞いておりました。そういったところを、やはりしっかり御認識させていただきたいと私は切に思います。教育長、本当に頑張ってこられました。それはよく分かります。だけれども、私たちもそうですけれども、そういった保護者の皆さんも、仲間が真っ二つに割れてしまっている現状もあります。

これから、私は池田町ですずっと過ごしていきます。その人たちと保護者の方も、いろいろな考えのある保護者の方と、一緒に仲よくこの町をつくっていきたい、そんな思いもあります。ぜひそういったところも修復していただくのも、教育長しかできません。ぜひ本当に、3年間頑張ってこられたことには敬意を含めまして、私の最後の一般質問とさせていただきます。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 以上で、矢口稔議員の一般質問を終了いたします。

これより暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時20分

再開 午後 3時30分

副議長（横澤はま君） 休憩を閉じ再開いたします。

大 出 美 晴 君

副議長（横澤はま君） 一般質問を続けます。

5番に、6番の大出美晴議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 6番、大出美晴です。

12月の一般質問、よろしく願いいたします。

まず最初に、私が一般質問を行う基になった、町長が初めてというか、文書にして予算編成の基本方針を出してくれたということは、非常に素晴らしいことであり、我々議員としても、うまい具合に突っ込みどころができたなというように思っております。

言葉は悪いですがけれども、それだけ町長と直接議論ができる、対話ができるという基をつくってくれたなというふうに思って、私は非常にありがたく思っています。町長が2期目にして、やっと自分の思いを議員のほうに、あるいは町民に発しているのかなというふうに私は思っています。

そうはいつでも、議員としても、またいろいろな思いもありますし、町民の皆さんの思いも負託されているわけですので、そんなところから町長にお伺いをするという次第ですので、よろしく願いいたします。

まず、令和4年度当初予算編成方針における町長の具体的な道筋を聞くと。

1として、財政調整基金5億円の保持の考え方を聞きます。

令和4年度も緊縮予算が予想される中、何を引き締めて行政運営を行っていけば、余裕のある財調5億円保持という予算が導き出されるのか、町長の考えをお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） それでは、大出美晴議員の御質問にお答えをしております。

財政調整基金5億円保持の考え方についてでありますけれども、財政調整基金の残高は、一般的に標準財政規模の10%程度が適当と言われておりますが、当町に当てはめて見ますと、約3億3,000万円となります。令和3年度につきましては、町民の皆様から御理解、御協力いただき、補助金等の削減をさせていただきました。おかげさまで、その効果もあり、年度末の残高は約5億円に達する予定であります。今後も極力取崩しをせず、毎年決算余剰金を積み立てていく予定であり、これにより災害等の不測の事態等にも対応できるものと考えております。

今後は、財政シミュレーションでは、令和8年度末に残高が約6億円になる見込みであります。財政調整基金は5億円を保持しながら、余剰金について、公共施設等整備基金や減債基金等に積立てを行う方針であります。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 令和8年度には、5億円が6億円になるというようなシミュレーションも出ているというようなことですが、町長のポイントの次の項目に、大型事業の実施に当たっての将来のシミュレーションをこれで、予算化の中で考えていくというようなことを書いてありますが、やはり大型事業が始まれば、どうしても積立てというものが苦しくなってくるような気が私はするんですけれども、そこら辺の整合性は、町長はどう考えていますか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） シミュレーションにも挙げさせていただきましたけれども、大型事業といえますと、会染西部圃場非農用地の活用と、また会染保育園についての事業ということが当面予定されております。会染小学校の大規模改修につきましては、既に計画されていたことではありますが、これから発生する大型事業の2事業につきましては、シミュレーションの中では、各5億円を予定してのシミュレーションであります。その中で、長期的に見て、5億円の財調は保持できるというふうに組み立てたところであります。

ただ、先ほどの質問にもありましたけれども、5億円だからといって5億円で済むかどうか、これも非常に難しい問題でありますし、町といたしましては、極力財政に影響を与えない、そういう程度の計画でいけたらなというふうには考えているところであります。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） そうすると、私、ざっと頭の中で考えるに、西部圃場のところ、補助金とかそういうので宛てがっていくと。ただ、非農地のところについてが6億5,000万円、今のところそういう計画だと。それから、会染保育園についても6億円と、それから会染小学校についてもということで、そこにプラス5億円ということになると、18億円くらい余裕を持っていかないといけないと思うんですけれども、これから令和8年に向けて、6億円にプラス1億円ということになると、20億円というお金を保持あるいは保有していかなければ、ほかの予算プラス、それだけのものを考えていかなければいけないと、私は単純に考えるわけなんですけれども、町長はそこら辺、しっかりとした考えを持っておられるのでしょうか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 事業というのは、どうしても起債の部分があります。当町は、先ほどから御指摘をいただいているように、財政基金等基金が少ないものですから、どうしても起

債に頼らざるを得ないということで考えております。起債といいますと、その中には交付税措置をされる部分というのもございます。

そんなことも含めまして、長期的に計画をしていくということが大事なと思いますので、事業年度につきましては、シミュレーションの中でもお示ししたとおりであります。その起債、公債費の問題と、また起債の問題と含めまして、負担のかからない、できるだけ影響を及ぼさないような形で計画をしていくということで考えているわけであります。

そんな点では、シミュレーションを皆さん方がどう受け止めるか分かりませんが、そういうことを含めてのシミュレーションということで御理解いただけたらと思います。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 実質公債費比率が18%を超える超えないというような状況になってくるかと思えます。できるだけそこを超えないように、そこを超えてしまうと、やはり議員のほうも心配になってくるということもありますので、そこら辺の兼ね合いを見ながら、町長の手腕に期待するところでもあります。

1番については、そんなところで終わりにします。

2番のところですけども、選択と集中による予算配分とはということで、町長はよく、選択と集中という言葉を入れていますが、町長の言う選択とは、どういうことなのか、何を選択するのか。また、どんなふうを選択し、どこに集中することで予算配分がうまくいくとお考えなのか、お聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ただいまの御質問でありますけれども、予算のことにつきましては、限られた予算でありますので、行政運営は事業の優先順位をつけながら予算配分していくということになります。

来週から始まりますけれども、令和4年度当初予算の査定の中で、総合計画、実施計画にのっとっているか、また年度方針に沿っているか、費用対効果はどうかなど、各課の要求を吟味しながら、実施事業の取捨選択を図っていきたいと考えております。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 町長の考え方の中で、どれに力を入れていくのかということ、どんな方向に持っていくのかということが、私は大事だと思っています。農業施策にするのか、観光にするのか、あるいはまた健康福祉にするのか、それから教育問題にするのかということ、一番真っ先に持っていきたいものは何なのかというふうに私は聞きたいと思いますが、町長はまず、全部だというふうに答えが分かるような気がします。ですので、どういう形にしていって町長の考える予算配分なのかということのことをちょっとだけ聞いて、ここも終わりにしたいと思います。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 先ほどの議員さんの御質問にもお答えしましたが、方針と、必ずしもそれに伴う予算ということでは私はないと思います。重点項目を挙げましたけれども、それに従っての予算づけというのもあるんですけども、当面、私といたしましては、財政問題等を考えますと、新たな事業というのは難しいというふうにも考えておりますし、テーマを挙げましたけれども、それを皆さんと共有しながら、町づくりを進めていきたいということです。

何に一番かというのは、また後ほどの質問にもあると思いますけれども、一つの、いずれにしても池田町の置かれている状況を考えますと、少子化というのが最大の課題であると私は考えております。その少子化に対してどうしていくのかというのが、今与えられたテーマというふうに私は考えております。ということで答弁いたします。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 少子化ということが一番大事なところだということで、少子化ということで何があるのかということ、子供を増やす、子供を大事にしていくということから始まっていくと思うんですけども、3番のところ、その内容もお願いをしているような形になっていますので、3番に移らせてもらいます。

具体的な方針内容についてということですけども、町長が考える3つの重点テーマには、町長の本音が私は感じられないと思います。町長が一番大事にしたい政策は何か、具体的な説明を求めるとのことですけども、先ほど一応答えてもらいましたので、次にいきます。

町長は、町民を真ん中にして政策を考えなくてはならないと私は思います。まず、町長は少子化を食い止めようとしているのか、それとも、子供が池田町に増えてほしいのかという

ことをお聞きします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 先ほどお答えしましたけれども、一番の課題は少子化と。というのは、池田町は人口減少というばかりではなくて、少子化が一番問題であると。やはり子供が少なくなれば、将来の町づくりに対して、非常に希望が薄くなってしまうということだと私は考えております。

その少子化に歯止めをつけることについてということの御質問でありましたけれども、いろいろな歯止めをかけるべく施策を講じてまいりました。子育て支援の充実、住宅対策、教育分野の充実と施策を展開してまいりましたけれども、私は一定の成果を感じているところでありますが、新年度は従来の政策を充実させるとともに、子育て環境の整備に力を入れていく方針であります。また、雇用の創出につきましても、複数の事業のお話をいただいておりますので、具体的に進むものと考えております。

いずれにいたしましても、全力を挙げて、少子化に対応するべく施策を展開していきたいというのが私の本音であります。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 本音のトークというような気がします。

ただ、町長が挙げている少子化対策の中で、かえで広場に児童遊具及びあずまや設置というようなことも書かれております。何となく町民の皆さんから聞き取ったことを、そのまま町長の基本方針の中に取り込んでいるというような感じが私はするんですよ。

町長がそこで頭の中で練ったりして、では、そのためにどうするのかというのが、私は欲しいと思っているんですけども、例えば子育て支援の継続実施と、それから結婚推進事業の充実、これ、連携自立圏の事業等というふうに書いてありますけれども、大北の中で連携して考えていかなければならないことだと、私は、町長が思っていると思うんですよ。そのところで、本当に連携するということが大事なのか、池田町がもっと先進的な考えで飛び出していったほうがいいのかということがあると思うんです。

連携すると、やはり足並みをそろえなければいけないということもあるんですけども、足並みだけそろえていたらいいのかということもあると思うんです。ですので、町長は本音はどうなんだと。池田町、まず、ちょっと飛び出そうよと、先んじようよという考えはある

のですか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 池田町が飛び出してということではありますが、結婚推進につきましては、今までもいろいろ取り組んでまいりました。現実的には、それほどの成果が得られないということが、今実態としてなっております。

広域の中で話しても、やはり狭いエリアでは、どうしてもこの事業は進みづらいと、進めづらいということの意見がありました。そんな中で、広域的に取り組んでいくことが、やはりこの事業を進めるには適しているのではないかと。やはり狭い地域ですと、どうしても顔が見えてしまいますので、なかなか難しいというような御意見もありました。そんなことから、連携してということ考えてところであります。

少子化に対する施策につきましては、いろいろな施策を町で今打っております。これ、どこの近隣と比べましても、決して遜色ない以上に非常に進んでいると私は考えております。そういう施策の中で、子育てしやすい環境づくりということが大事だろうと思います。そういう意味で、今までの施策を継続し、充実させるということ考えさせていただきました。

これ以上というようなお話もありますけれども、現状としては、そこまでちょっと踏み込めないというのも実態でありますので、十分とは言えないまでも、私は子育て環境という点から考えますと、整備はできているというふうに考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 町長の考えも分かりました。納得できるところと納得できないところとありますけれども、私のほうもこれ以上の資料もありませんので、あとは町長の手腕に、これも期待するところであります。

次に、農業政策にどのくらいの予算を充てたいと考えているのか、割合をお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 農業政策に対する予算についての御質問でありますけれども、農業は当町の基幹産業でありますので、多くの費用をかけて振興を図っているところであります。今年度を検証しますと、多面的機能支払交付金、中山間地直接支払補助金、花とハーブの里づくり事業、会染西部圃場負担金等、総額でおよそ3億2,000万円ほどかけております。新

年度も同程度かかると思われますが、会染西部圃場負担金だけでも9,000万円を予定しております。予算に対する割合といたしましては7%程度かと思われます。

以上でございます。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 3億2,000万円ということです。西部圃場についても9,000万円です。7%ということが、多いのか少ないのか、ちょっと私、今のところは分かりませんが、今朝ほど町長にも資料を出しました。大北農協水稲肥料・農薬予約注文書というものを提出したけれども、その中の予約注文で、それぞれの肥料がかなり高騰しているということが農協からも言われていますし、これからの農業政策を進めていく中で、非常に重要な課題になってくるのではないかなというふうに私は思っています。

簡単に言えば、町としての補助ができないのかということ、これ全協でも話をしましたけれども、町長の考えとして、大北農協だから、5市町村全部まとまった意見調整でないと協力できないよというふうに言うかもしれませんが、では、町長が真っ先に先頭に立って補助をしていく、あるいは支援をしていくという考えはあるのでしょうか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 肥料と、また米価の下落等、農業が抱える課題、来年度ですかね、かなり大きなものになってくると思います。これは池田町だけの問題ではなくて、全体的な問題であると私も考えておりますけれども、そういう意味では、農協とも十分話し合いながら、また、どんなふうにしていくのか、また国・県等々の方針等も見ながら、ただ、はっきり言いまして、町単独で支援するという状況にはないだろうと私は考えております。

なかなか、農業は農業で一事業でありますので、その他の事業につきましても相当な影響を受けております。コロナを含めまして、世界情勢と原油価格の高騰等につきましても、相当な影響を受けておりますので、そういうことを考えると、一事業に及ぼしている影響だけではないというふうには考えております。

それを考えますと、なかなか町単独で、いろいろ助成するというようなところにまで、なかなかいかないというのが現実ではないかと私は考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 町長、そうはいつでも、農業、要は米作り、私もそんなに米作りに執着するつもりはありませんけれども、今現在の池田町の状況としては、米作りが中心だというようなことを私は思います。そうしたら、ここでストーリーができるわけなんですよ。

米作りをすると、春に田植をします。景観がよくなる、景色もよくなる。観光客を呼ぶのに非常に、中腹のところではいい景色が存在すると。それから、米作りが盛んだと、今言った少子化の問題も含めて、担い手が増えてくると。今問題になっているのは、集積だとか、要は田畑の貸し借りの問題も出てきていますけれども、要は跡継ぎがないという問題が今出てきています。ここに力を入れることによって、そういった問題も多少解決するのではないかというふうに思います。

町長、考えてみてください。3分の1がもし、田んぼをやらない、荒廃地になってしまったというような状況、田植のときに3分の2くらいしか田植がされていない圃場しかない、点々とそれがしています。ですので、そういうような状況になると、あとは茶色く見えて、その中に緑のところがあるというような状況。これをもっと進めていくと、今、西部圃場整備をやっていきますけれども、これをもっと北のほうに、毎回言いますが、進めることによって、そういうことが解消されてくると私は思います。

機械も大型化して、そこに補助金も入れられる。そうすると、その補助金というのはまた、国や何かから求めることができるというような状況ができてきます。ですので、一概に、ほかにもやらなければいけないこと、そして、取り組んでいかなければいけないことはいっぱいあるというふうに言いますが、確かにそれは分かります。ですけれども、この問題というのは、今、小さな問題かもしれませんが、これがやがて大きな問題に突入してくると私は思いますけれども、町長、どうですか、そこら辺は。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 農業、米作りにつきましては、大型化というのが一つの大きな課題かなと。そんなことから、会染西部圃場、今、圃場整備が始まっております。これは本当に重要な施策であるというふうに考えております。

この会染西部圃場の動向を見極めながら、また後継者という問題ありますけれども、食っていかれる農業にするというのが最大の目標でありますので、食っていかれる農業にするにはどうするのか、これは皆さんとも意見交換しながら、またいろいろな知恵をお借りしながら、町の方針、方向等を定めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 最初に言いましたが、財調も5億円から6億円にするという中で、ある議員も言いましたけれども、そんなの1億円くらい、そっちから回せばいいではないかと。回して、年に2,000万円くらいずつ対策費として出せばいいではないかと。そうすることによって、5年間、そういうことが先送りになるではないかと。そうしたら、その間に、そういう問題も考えていけばいいではないかというようなことを言っている人もいますよ。

これから来年、来年なんてすぐですよ。これで、田んぼもまた起こさなければいけないと、大きなトラクターが動きます。燃料もこのまま上がった状態では、二、三割の費用がかかってしまうと。そこに肥料がすごいのかかってくると。ほかのものは上がらないにしても、肥料、町長には分からないかもしれませんが、2,900円の一発材、それが3,500円になると、600円の差があります。その600円でどうかというと、1反歩に2俵は使うんですよ。1反歩2俵使うということは、1町歩あれば20俵使うということなんですよ。20俵使うと、1万2,000円かな、いってしまうわけなんですよ。そうすると、今の状態で米2俵なくしたのと一緒なんですよ。

そういったようなことも含めて、池田町には専業農家というのは少ないかもしれませんが、兼業農家もそれぞれ田んぼを作っているわけです。これが今どんどんなくなって、人に任せてしまうというようなことを言い始めているんですよ。なぜかというと、もうからないし、やればやるほど損していくんだというような考えが、皆さんの頭の中にすり込まれてしまっているんです。それを多少でも解消するためには、やはり町が、独自でもいいから何かの補助を出すということをしなくては、このままいっただけに本当に荒廃地がどんどん増えてくると私は思いますけれども、町長、どうですか。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） そういうことは大いに想定されるころかなというふうにも考えます。しかし、この農業の問題につきましては、全国的な問題でありますので、町だけで何とかできるという課題でもないかなというふうにも考えております。

町は、精いっぱい西部圃場をやって、そこに相当な費用を投入しておりますので、まずはこの西部圃場を有効に生かしていくと。その中から担い手を見いだしていく、それがまず当面の課題ではないかなというふうには考えているところであります。

財政調整基金云々ということがありますが、これはまた別問題でありますので、またそん

なところも含めて、総合的に農業者の皆さん等の御意見を伺いながら、また方針を定めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 別問題かどうか分かりませんが、農業問題は、先ほど言いましたけれども、それぞれのストーリーが考えられると。その中では、商業にも結びつく、あるいは、もしかしたら工業にも結びつくかもしれないというような、部品をここでいっぱい作っています。その部品で何ですかといたら、やはり農業機械の部品もあるかもしれない、それくらいの状況なんですよ。ですので、いろいろなものが絡み合ってくるということで、まず何をしたらいいのかというところ、町長、ぜひ農業問題、後回しにしないで、真っ先にやってください。

もっと言えば、町長の中で、先ほど言っていましたけれども、本当に全体の農業ってどんな形なのよと。本当にオーガニック農業を、まずやっていかなければいけないのかというところ、それから、有機農業のところも、生産者というか、百姓が考える有機農法と、それから一部の人が考える有機農法とは、ちょっと若干ニュアンスが違います。町長、そのところを理解して取り組んで、皆さんの意見を聞きながらやっていただきたいと、私は言いたいと思います。

これは、全てのものを否定するわけではありません。どんどんそういうことをやっていただければありがたいんですけども、ヨーロッパの環境、あるいは、ある人が言いました、カリフォルニアで研修したら、消毒も除草剤も要らないんだよと、そんなの使う必要ないんだよと、一番困るのは水だけなんだよと、水さえあれば作物できるんだよと、そういうところもあります。

日本は逆に、あるいはというか、信州は特に住み心地のいいところですよ。住み心地がいいということは、虫も住み心地がいいでしょうし、虫に寄生する病原菌も住み心地がいいでしょうということになれば、おのずと結果は分かってくると思います。

次にいきます。

町長の考える防災とは、ハザードマップの周知と避難所の確保ができればよいか、お聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（麿 聖章君） 防災についての御質問でありますけれども、ハザードマップの周知につきましては、自然環境の変化に対するリスクと危険性を認知していただくものであります。また、避難所につきましては、有事の際、自らの命を守るための場所であると考えております。

地域防災を考えると、何より大切なのは、町民の生命・身体・財産を守ることであり、行政の大きな責任であると自覚するところであります。ハザードマップの周知、避難所の確保は地域防災の重要な要素であります。そのほか、他の自治体や事業者との災害時連携協定、避難訓練、要支援者の支援計画など、多岐にわたって防災体制を整える必要があると感じております。

町といたしましては、順次体制を取っているところでありますので、御理解いただきたいと思っております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 私の言いたかったのは、そういうところの整備も非常に大事なことで、これからどんどん進めていかなければいけないと思うんですけれども、いざ有事のときに、どうということが想定されるかというようなこと、例えば高瀬川が氾濫します、決壊しました、皆さん避難して、今言ったところに避難してくださいと。では、ハザードマップもその中で、ここは危険だから、こっちに逃げましょう、あっちに逃げましょうという形になります。でも、そのときに、どの道路を使うのか、どういった逃げ方があるのか、それぞれ地域の人たちに任せてあることは分かります。

ただ、地域の人たちは、それぞれの自治会とか、そういうところで、今現在の既存の道路だとか、そういうところを使うしかないとか、頭にはないと思います。そうすると、その道路が満杯になってしまった、あるいは、南北線は何とか避難するのに使えそうだけれども、これは前にも言ったと思うんですけれども、東西の道はどこを行っても高瀬大橋のところと、すぐに名前が出てこないのので申し訳ないです、道路の名前が出てこなかったの、そんな言葉で言いますけれども、あとは高瀬大橋の道路です。ただ、両方とも県道につながれば、あとはどうやっても、その先、高いところに行くには曲がって行くしかない。ほかの道路は旧県道で止まってしまいます。止まって、またクラックになっていかなざるを得ないと。そうした場合には、本当に逃げる時間があるのだろうかというようなこと、あるいは、そのことに

よって、南北にきた車と渋滞が巻き起こるのではないかというようなことが想定されます。

そんなこともありますので、町長、これから何年か町長であるうちに、そういうことは起こらないと思いますけれども、そこもやはり考えておかななくてはいけないと思いますけれども、町長のお考えをお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 御心配のとおりかと思えますけれども、高瀬川につきましては、今、大町ダムの再編計画が始まっております。洪水が起こるという想定をしたときに、急に起こるということはあり得ないわけです。雨量と、そこに集まってくる水の量、そしてダムの保有率、そういうのも全部計算して、どのくらい高瀬川が水位が上がるのかというのを計算していくわけで、それを考えますと、長野の事例をやはりイメージしてしまいますけれども、本当に長野の事例は、一夜にして、まさかというようなことが起こったということでありますが、私は今、その事例を受けまして、大町ダムの再編計画、大町ダムからは本当にしょっちゅうこちらに来て、今こういう計画になっていますと、これだけの容量を、いわゆる貯水できますというようなことも聞いておりますし、また計画放水ということで、大変、気象データが正確になってきておりますので、そのデータに基づきまして雨量の計算をしていくと、非常にそういうところでは、今までと違う対応がされているなというふうに感じております。

そういうことから考えますと、決してすぐ逃げなければならないという状況は、極めて少ないと私は考えております。危ないときには十分情報をお流ししますし、そして、そのときにどうやって逃げるのかにつきましては、日頃からの情報提供と、そして、それぞれの立場で逃げ方も研究しておいていただく必要があるかと思えますけれども、そういうそれぞれの取組と、また行政の情報発信と、これをしっかりと密にしまして、災害時、有事の際には、先ほどお話ししましたように、人命と身体と財産を失うことのないように取り組んでいきたいと。洪水の場合には、財産につきましては、ちょっと手が出ませんけれども、何とかこれを守っていきたいというふうには考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） そんなにすぐに起こってもらっては困りますし、昨日の「日本沈没」最終回を見ていましたけれども、あんな状態になることはまずないと思います。けれども、私、高瀬ダム、あそこができたのは昭和40年代後半、昭和48年か昭和49年頃に上ってみまし

た。すごい深くて、ロックフィルダムがすごい深いという印象を受けました。その後、1回か2回行ったのかな、ある土木会社に入りまして、あそこ、不動沢のほうかな、砂がすごい押し寄せていって、ダムって100年計画で建設するんだということで聞いたんですけども、半分の時間で3分の2くらいまで埋まってしまっているという、えらいことだということで現場に行きました。

ダンプで1日50台ずつ、上のほうまで、七倉のほうまでというか、500メートルくらいダムのほうから毎日運びました。3か月くらい運んだかな、2台で、えらい騒ぎで。だけれども、何の意味もないような状況でした。その後、4トントラック、ダンプで砂を下ろして、だけれども、それはすぐ使えないから、下で固まっていますよね。今度は、そこから籠川のほうにトンネルを空けて砂を出すんだというような計画、国と東電が一生懸命やっているようです。まだこれから、完成はまだ先かなというふうに思いますけれども、それがあつたとしても、自然というのはどんな脅威を与えるか分からないというようなことを私は感じています。

ですので、単純に、何が大丈夫だ、何が起こらないんだという考えではなくて、常に町長たちが言う危機感を持って接していただきたいというふうに私は思います。身をもってそういう実態を見てきている人間ですので、分かります。大町ダムはそのように、までは来ていませんけれども、高瀬ダムがどうにかなれば、大町ダムなんて簡単に終わってしまいます。

それはそれとして、要は圃場整備に絡めて、道路を区画整備をしていけば、そういう問題も一気に解決するのではないかなということ、私はそこにつなげたかったわけです。

町長、最後にそのお考えをお聞きいたします。

副議長（横澤はま君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 道路等のインフラ整備につきましては、一朝一夕にできるものではないというふうには考えております。一つの、ただいま具体的には高規格道路を造るということで進んでおりますが、ようやくルートが決まったというところでありまして、なかなかインフラ整備、時間と費用がかかるものだというふうに考えております。

大いに県等の意見を聞きながら、また状況を見極めながら、町の安全・安心の確保について取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

副議長（横澤はま君） 大出議員。

〔6番 大出美晴君 登壇〕

6番（大出美晴君） 道路インフラもそうですし、それから圃場の整備もそうです。それに絡めて商工業の発展と、それから観光の推進ということ、それからほかにも、健康福祉、教育ということも非常に大事になってくると思います。これからの、今度3月になりますけれども、町長の手腕を期待して一般質問を終わります。

副議長（横澤はま君） 以上で、大出美晴議員の質問は終了いたしました。

散会の宣告

副議長（横澤はま君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

大変御苦労さまでございました。

散会 午後 4時17分

令和 3 年 12 月 定例 町 議 会

(第 3 号)

令和3年12月池田町議会定例会

議事日程(第3号)

令和3年12月14日(火曜日)午前10時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員(12名)

1番	松野亮子君	2番	大厩美秋君
3番	中山真君	4番	横澤はま君
5番	矢口稔君	6番	大出美晴君
7番	薄井孝彦君	8番	服部久子君
9番	和澤忠志君	10番	那須博天君
11番	倉科栄司君	12番	矢口新平君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	麩聖章君	副町長	小田切隆君
教育長	竹内延彦君	総務課長	塩川利夫君
企画政策課長	大澤孔君	会計管理者兼 会計課長	丸山光一君
住民課長	蜜澤佳洋君	健康福祉課長	宮本瑞枝君
産業振興課長	宮澤達君	建設水道課長	丸山善久君
学校保育課長	寺嶋秀徳君	生涯学習課長	下條浩久君
総務課長補佐 兼総務係長	山岸寛君	監査委員	吉澤暢章君

事務局職員出席者

事務局長 丸山光一君 事務局書記 矢口富代君

開議 午前 10 時 00 分

開議の宣告

議長（矢口新平君） おはようございます。

ただいまの出席議員は12名全員であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

会議に入る前にお願い申し上げます。

発言をされる際は、できるだけマイクに向かってお話いただきますようお願い申し上げます。

一般質問

議長（矢口新平君） 日程 1、昨日に引き続き一般質問を行います。

服部久子君

議長（矢口新平君） 6番に、8番の服部久子議員。

服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君） おはようございます。

8番、服部久子です。一般質問をさせていただきます。

今回、4点お願いいたします。

まず、福祉灯油の実施を求めてお聞きいたします。

原油価格の高騰に伴い、ガソリンや灯油の価格が上がっております。コロナ禍で休業や解雇で生活が困窮している方が増えている中、本格的な冬に向かい不安感が増しています。灯油の価格上昇は寒さが厳しい長野県にとって命に直結するだけでなく、減収になった世帯や福祉施設に自治体の福祉灯油の実施は不可欠です。

2007年、灯油が高騰したときには価格が高くなり、その頃より消費税も10%に上がり、低所得世帯にとっては厳しい冬を迎えることとなります。全国で福祉灯油の対策を取る自治体が増えております。

先日も中山議員が言いましたとおり、新聞報道では「福祉灯油実施が県内市町村69の市町村が実施する」という報道があったところです。町の方針をお聞きします。

まず、第1問です。

11月12日、総務省は自治体が発行する灯油購入費用助成に対して、各自治体に交付税の措置を講じるとしました。交付税率は2分の1で、対象は生活困窮者に対する灯油購入費などの助成、社会福祉施設、養護老人ホーム、障害者施設、保育所、幼稚園などに対する暖房費高騰分の助成です。低所得世帯、ひとり親世帯、高齢世帯などに福祉灯油の実施と、町にある民間福祉施設の光熱費の高騰分の助成を求め、町の対応をお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 宮本健康福祉課長。

健康福祉課長（宮本瑞枝君） 町としましては、福祉灯油等購入費助成につきまして、平成24年に実施しました対象（住民税非課税世帯で施設入所者を除く75歳以上の高齢者だけの世帯、ひとり親家庭世帯、身体障害者手帳1・2・3級、療育手帳A1・A2、精神保健福祉手帳1・2級、介護保険要介護4・5、生活保護を保持している者がいる世帯）に実施する方向で、12月議会の最終日に補正予算を上程する予定であります。

以上です。

議長（矢口新平君） 8番、服部久子議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君） はい、よかったです。

具体的にお聞きしたいと思います。

一人一人といいますが、その対象者の1人、1世帯どのぐらいの補助が出るのでしょうか。

議長（矢口新平君） 宮本健康福祉課長。

健康福祉課長（宮本瑞枝君） 現在、1世帯1万円という形で調整をしております。

ただし、生活保護世帯につきましては、8,000円という形で、それが歳入になって保護費が減らない金額という形で現在調整しているところでございます。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部久子議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君） 少しちょっと聞き逃したんですけれども、福祉施設に対する補助はあるのでしょうか。

議長（矢口新平君） 宮本健康福祉課長。

健康福祉課長（宮本瑞枝君） 現段階のところでは考えておりません。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君） 民間で障害者の施設とか、それから老人のケアをされている施設は、今でも非常に経営が大変だと思うんです。特に弱い立場、高齢者ですよね、そういう方はやはり冬の寒さにはとても弱いので、ぜひ幾らでもいいですので、少しでも応援になるようなそういう応援ができないでしょうか。町長にお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 灯油の値上げについて各方面で非常に問題になっているところであります。これはどこの業種でも同じでありますし、福祉施設が特別苦しいということにはつながっていかないのかなというふうにも考えます。

前回は消費税値上がりしたときも、今お話ししたような対象者に限定して福祉灯油の助成を行ったということでもあります。

したがって、今回も今のところ施設に対する助成は検討しておりません。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君） 生活保護世帯は1世帯8,000円というふうに2,000円少ないんですけれども、2014年ですね、国会の答弁で、災害対策特別委員会で担当者がこういう答弁があるんです。地方自治体が原油価格高騰の理由で灯油代の助成を行う場合、その趣旨にかんがみて、生活保護制度上、収入と認定しない取扱いにするので、差額をつけないというようなことも認めております。それはどうでしょうか。町長お聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ちょっと詳しいところを把握しておりませんので、健康福祉課長より答弁させます。

議長（矢口新平君） 宮本健康福祉課長。

健康福祉課長（宮本瑞枝君） 現段階で把握した範囲では、8,000円という金額ということ
で聞いております。今議員のおっしゃった部分についてももう一度調査しまして、把握をした
いと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） やはり生活保護を受けておられる方も、生活に困って生活保護を受け
ておられるので余裕がありませんので、ぜひそのところをおもんばかっただけならばと
思います。

それで、もう1点、生活保護についてお聞きいたします。

生活保護の冬季加算、これ、長野県は11月から支給されるんですが、北海道などは10月か
ら4月まで支給されることになっております。長野県も寒冷地なので、10月になると非常に
朝夕暖房が必要とする方が増えておりますので、冬季加算を10月から実施するように国と県
に求めていただけないでしょうか、お尋ねいたします。

議長（矢口新平君） 宮本健康福祉課長。

健康福祉課長（宮本瑞枝君） 大町保健福祉事務所に、10月から冬季加算のほうの要望があ
ったことをお伝えをしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） ぜひよろしく願いいたします。

では、次に進みます。

米価下落に対して町の対応をお聞きいたします。

コロナ禍による米価暴落で、農家から減収に対する対策を求める声が上がっております。
長野県は、概算金が60キ口当たり2,000円も下落しております。大規模農家ほど減収が大き
く、農業の担い手である専業農家の方から、来年は継続していけるか心配と不安を訴えてお
られます。大規模農家が続けられなくなると、広大な放棄地が生まれかねません。本来は、
国が余剰米の買上げや輸入米の停止、戸別所得補償の復活転作補助金の拡充などをするべき
ですが、現在、全国各自治体が米価下落に対しての支援策を実施しています。

町の令和4年度の基本方針では、農業の担い手及び新規就農者の確保と優良農地の保全、
継承とあります。農業は町の基幹産業です。米価下落に対する町の対応を求めてお聞きいた

します。

まず、現在、米価下落に追い打ちをかけるかのように、燃料代が大幅に上がっています。その上、機械のローンや肥料代の支払いもあり、農業で生計を立てている農家は、将来に大きな不安を抱えておられます。

全国では、米価下落に対する補助を出す自治体が増えていて、10アール当たり4,000円から8,000円、1俵1,000円から2,000円の補助などを出しております。

また、収入保険料の助成や米を買い取って学生などに支援をしています。町はどのような対策を立てていますか、お聞きいたします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えいたします。

米価の下落についての御質問でありますけれども、議員御指摘のとおり、農業関係もコロナ禍による経済への影響が現れてきており、十分認識しておりますが、国全体の課題となっているところであります。

コロナ禍による影響は他の業種に関しても多大な影響を与え、国によるそれぞれの支援策が取られているところでありますが、いずれにいたしましても、町独自の対策につきましては、財政状況等を考えますと取りにくい状況にあります。農業者の皆さんとも十分意見交換しながら、また、国・県、近隣市町村の動向を注視しながら対応を考えてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） 非常に冷たいお答えだと思います。

先日も大出議員からも強い要望があったかと思えます。私も、農家の方から強い要望を受けてこの質問をしております。やはり生の声を聞くと、専業農家の方はこれからどうしようと、来年もこれでできるのかと。それから跡継ぎの方がおられるそうですが、その方にはなかなか継いでこれから続けられるのかと非常に将来心配しておられます。

それで、今回のようにコロナで影響されているのは、池田町、国もそうですけれども、飲食店には非常にいろいろな支援がありました。しかし、同じコロナで米価が減収した農家には、このような冷たいことでよろしいのでしょうか。

私も、今日御飯食べてきました。麩町長もそうだと思います。この食料がなければ、基本

人間は生きていけません。それをしっかりと支えておられるのが農家の方です。第一次産業が本当に一番です。だから、そののところをしっかりと支えないと、私はこの日本やっていけない。

気候変動が今起こっております、あちこちで嵐、大きな災害が起こっております。そのたびに農業が荒らされ、日本だってしょっちゅう土砂災害が起こっております。森林も壊れて、それから農業もやっていけなく、日照りが続いたり、洪水があったり、そういうところを非常に自然の災害を受けておられる第一次産業の方々、そこに支援を行わないで、基本基幹産業だと、私は池田町の施政方針の基幹産業だと農業は言えないと思います。町長、いかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 町長。

町長（甕 聖章君） 議員のおっしゃることよく分かりますけれども、いろいろな物資の高騰、またコロナ禍ということの影響につきましては、本当に農業含めまして、工業においても原材料の高騰、原油高によるその他の原油等を使っているところについても、大変な困難な状況を招いているということにつながっております。

一農業だけではないと私は考えておりますが、農業者の気持ちも十分分かりますので、十分今後意見交換しながらどんな対応をしていくのか、検討を考えていきたいと思っております。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） JAの方も、もし池田町が何かあれするなら協力するというようなことをおっしゃっておられると聞きました。ぜひ農家の方、希望される方を集めて、膝を交えて相談していただきたいと思っております。池田町の将来、来年どうしよう、もう本当に来年どうしようというところまで来ておりますので、ぜひ農家の方の意見をしっかりと聞いていただきたいと思っておりますが、具体的にそういう計画をしていただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 懇談会につきましては、具体化してまいりたいというふうに考えております。

また、商工会のほうでも円卓会議等が、そういう場がありますので、そういうところでいろいろ皆さんの御意見を伺っていきたいなというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） このコロナの収束は、ちょっと見通し今少し収まっていますけれども、収束が見えません。世界でも非常に今コロナ、イギリスでも、シンガポールでも非常に感染者が高くなっております。だから、第 6 波が来ないとは限らないので、こういう場合にぜひもしあれだったら幾らかお金が、非常に財政難で分かっていますけれども、お米を買い取って大学生に第 2 弾の支援をすとか、そういうことは考えられないでしょうか。そうすると、農家も助かるし、大学生も助かるということになりますけれども、そういうことを少し考えていただけないでしょうか。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） いずれにいたしましても、皆さんの御意見を十分伺っていきたくと。それによりまして、対応できることは対応していきたいなというふうに考えています。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） ぜひよろしくお願いいいたします。

次に、県が霜被害で農作物など、災害経営支援利子補給金を出すことになりました。コロナによる米価下落で、自然災害被害と捉えて対象になるよう求めてお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えいたしますが、米価の下落により農業者の経営を圧迫していることは十分認識しておりますが、米の作況は平年並みとの評価でありますので、自然災害とは別であるというふうに考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） 町の農家の霜被害、どのような現状になっているのでしょうか。

また、利子補給の広報、どのようにして行われるのでしょうか。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） その件については、詳しいことは担当課のほうから説明をさせていた

だきます。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） この凍霜害につきましては、池田町のほうでも情報としてあるのではないかとのことですけれども、結局融資の申込みとかがないと対象にはなっておりませんので、具体的にどの農家とか、そういったところの把握はいたしてございません。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） 今感じたんですけれども、今年リンゴを仕入れるというか、送ろうと思ってあちこち電話したんですが、霜の被害で非常に出来が悪いというようなことを聞いたんですが、池田町でもリンゴを少し作っておられると思いますが、その被害なんかはどうなんでしょうか。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） 被害等もありまして、農業共済組合のほうには若干の相談に来たということでありまして、ちょっとまだ具体的に金額的に幾らだったかどうかというところまでは、ちょっと私ども聞いてございません。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） ぜひこういう大変な今年時期でしたので、ぜひ農家のところを回って、現状を把握していただけたらなと思います。

次のナラシ対策については、私の思い違いでしたので、この質問は削除いたします。

次に、3 点目お尋ねします。

会染保育園の町民説明会と町民アンケートを通しての町の考えをお聞きいたします。

会染保育園の今後の方向性について町民説明会が3 回行われ、12 月 9 日までには提出するアンケートも実施されました。それらを通して町の考えをお聞きいたします。

3 回の説明会の内容は報告がありましたが、9 日締切りのアンケートはどのような意見がありましたかお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

12月9日に募集を締め切りましたパブリックコメントでございますが、72件の意見をいただきました。今回のパブコメは3つの案より、1つないし2つ選んでいただく方法を取っております。その結果を申し上げます。

まず、3案から1案を選択した結果ですが、会染地区の新たな場所に新築移転をするA案を希望するが8件、現在の場所に新築をするB案を希望するが10件、池田保育園に増築し、統合するC案を希望するが46件でございます。このほかにA案、またはB案を希望するが4件、B案とC案が3件、3件とも希望しないが1件でありました。

また、具体的な御意見の代表的なものとしたしまして、子育て世帯が安心して暮らすため、環境整備を基本として行うべき、また反対に、少子化の進む中で、池田保育園への統合をすべきなどの意見がございました。

なお、会染保育園の方向性に関するパブリックコメントは、教育大綱普及推進研究部会に方向性を検討するための資料として提出する予定でございます。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君） 町から保育園関係者の意見、それから町民の意見などをまとめたものを見せていただきました。その中に、池田保育園との統合は、会染、中鶴区に若い人が住みたいという意識にマイナスになるという意見が数件ありました。住民への説明会で、池田保育園との統合案について保護者から送り迎えが非常に厳しくなるので、会染地区に建設をという意見もありました。

また、子供の安全か、送迎の便利さか、財政問題かのいずれかを優先するのかと問われて、教育委員会は保育の質を保ち、会染、中鶴地区に保育園を残すことを優先させたいと答えております。会染地区に保育園を残す考えがおりかどうか、町長にお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えいたします。

会染保育園のことでございますけれども、現在、委員会等で在り方について検討中であり、3案について答申される予定となっておりますが、今年度中に2案に絞り込み、結論とするということになると思います。

答申を受けまして、最終的に方向を定めることとしておりますが、御意見を伺う中ではいろいろな意見があり、私といたしましてはさらに広く御意見を集め、方向性を定めてまいり

たいと考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） 町長の意見をお聞きしております。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） 私単独の意見で言ったところで、それが実現するわけでもありませんので、意見については差し控えさせていただきますが、いずれにいたしましても、私の中でも、皆さんの意見を基準に考えていくというのは方向でありますので、大いに御意見をいただきたいなというふうに考えております。

いずれにいたしましても、町民の皆さんの御意見にできるだけ沿っていくというのが基本的な考えでありますので、これからも今までより枠を広げまして御意見を集めていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） 町長の心の中の意見を本当は聞きたいと思ひまして、この質問をいたしております。

やはり町長は町行政のトップでありますので、こういう方針をしたいというようなことを指し示していただくのが本当はいいんじゃないかと思うんです。それに沿って行政がどういうふうに動くか、町の人もどんなふうな町長に対しての考えで意見があるかというのを聞いてもよろしいんじゃないでしょうか。まず町民の意見を聞くのも大事ですけども、町長の方針もやはり示していただけたらなと思います。

次の質問いきます。

年配の方から、新保育園のスタートが令和 8 年 4 月からでは遅すぎる。平成 27 年に、会染保育園建設検討委員会の建て替えるべきの答申が出されてから何年も経つ。子供の発育は早く、そのときの園児は中学生になる。保育園の問題は最優先で進めてほしい。また、西部園場の非農地の運動場は今造るべきか、保育園を優先にとの意見がありました。子供を第 1 に考える町政を求めておられる発言だと思います。町長のお考えをお聞きいたします。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麿 聖章君） それではただいまの御質問にお答えいたしますが、議員御指摘のとおり、検討委員会から建て替えるべきとの答申をいただいておりますが、大型事業の集中、出生数の減少、ハザードマップの更新等状況の変化があり、再検討するということとなりました。

再度検討委員会を立ち上げ検討しているところでありますけれども、さきにお答えしましたように、様々な御意見や状況があり、結論に時間を要しているのが実情であります。人口減少していく将来を考えますと、より慎重な対応が必要であると考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） 町長は、どうして町長になられたのかなと、今答えを聞きながら思っております。やはり町長の考えをしっかりと示すことが大事ではないでしょうか。こういう大きなところはまず方向を示していただいて、それで皆さんがどんなふうにかんがえるかということの募るということも私は大事だと思います。これからもそういう町長の姿勢をぜひ表していただければと思います。

では、次に進みます。

子供を守るための新型コロナウイルス感染症対策についてお聞きいたします。

新型コロナウイルス感染症は現在落ち着いておりますが、年末年始を控え第6波が懸念されます。ワクチン接種が進んで免疫力が広がることが期待されますが、子供のワクチン接種対象年齢は、現在12歳以上になっています。1日当たりの感染者数に占める10歳未満の子供の割合は、8月は平均7.6%でしたが、9月は40%近い日があり、保育園などで集団感染が発生しました。

また、最近になって新変異株、オミクロン株が発生し世界に広がっています。感染力が高く、日本でも感染者が出ており、今後の感染状況が心配されます。第5波のような逼迫した状況を回避するため、無症状の感染者を検査で早期発見し、治療を早くして重症者を出さない手立てが必要です。今後、保育園、学校、児童センターなど、密にならざるを得ない施設での感染対策をお聞きいたします。

9月議会で国が簡易検査キットを配布する方針を出し、それに申し込んだとのことでしたがどのようにになりましたか、お聞きいたします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校教育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

簡易検査キットの無償配布につきましては、池田、会染両保育園、池田小学校、会染小学校、高瀬中学校にそれぞれ配布済みでございますが、小・中学校につきましては、国は使用方法について、児童・生徒が登校後不調を来した場合は、基本的には抗原簡易キットは使用せず、保護者の連絡の上速やかに帰宅させ、医療機関を受診させることとしております。

したがって、今回の簡易検査キットは、児童・生徒には直ちに医療受診できないことが明らかな場合に限るなどの補完的な使い方になりますので、御理解をお願いいたします。

また、保育園につきましても、園児を対象としたものではなく、保育従事者を対象としたものでありますので御理解をお願いいたします。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） 国が第 6 波を抑えるために、補正予算の地方創生臨時交付金、6 兆 8,000 億円のうち約 3,000 億円は、検査促進枠として体質が原因でワクチンを打てない人、12 歳未満の子供の検査費用を無料にすることに当てるとしました。また、無症状でも無料の PCR 検査と抗原検査を実施する方針を 11 月にやっと出しました。国の助成を使ってワクチン接種の対象になっていない 12 歳未満の子供と、中学生に保育園や小・中学校単位で定期的に PCR 検査の実施を求めてお聞きします。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） お答えいたします。

現在、保育園、学校、児童センターにおける定期的な PCR 検査の実施につきましては、考えておりません。

その理由といたしまして、PCR 検査の実施が日常的な健康観察目的であるとすれば、その費用面や検査体制面の問題があることを以前にも申し上げております。

また、今回の国の補正予算案に盛り込まれた検査促進枠の予算措置につきましては、今のところ臨時国会で予算審議されている段階でありますので、動向について注視してまいりたいと思います。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8番（服部久子君） 現在、ブレイクスルー感染ですか、2回ワクチンを打っていても感染した人、それからの感染力が高いオミクロン株、これが感染力が高いので心配されております。

それでワクチン接種できない人、それからワクチン接種の対象になっていない11歳以下の子供たち、この子供たちの検査体制を整えるというのは、やはり非常に大事なかなと思います。町民の命を守る行政の任務ではないかと思うんです。

だから、さっき言われたPCR検査は、今の国のあれによっては通るか、通らないか分からないという答えでしたけれども、その前に検査キット、抗原検査のキットが出ておりますので、それをもっと積極的に使って、子供たちの無症状で感染している場合がありますので、そういう感染の検査をぜひ学校で、保育園、進めていただけたらなと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 簡易検査キットの使用方法につきましては、基本的な考え先ほども申し上げましたけれども、学校で使用するという目的はございませんので、理由といたしましては、やはり医療受診が原則ということであります。学校で仮に陽性が出たとしても、その後の対応ということが当然ありますので、学校でそういう機会を定期的に設けるということは原則考えておりません。保育園につきましても、園児の年齢考えますと、園で検査を行うということは想定できませんので、そういったことで御理解をお願いしたいと思います。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君） そうすると、小学校、中学校、それから保育園に検査キットを配られたというのは、それを家に持って帰って、親御さんがそれを実施するということでしょうか。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） それだけの数量がありましたらそういったことも可能かと思いますが、無料配布された数量、そこまでの配布できるような数量ではありませんので、それは国が無償配布しているということでもありますけれども、希望する保護者の方に配布できるような数量ではございませんので、御理解をお願いしたいと思います。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君）では、具体的にどのぐらいの数量、子供たちの何%に行き渡るぐらいの数量が来たんでしょうか。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君） 小・中学校では70個、70セットです。70回分という意味でございます。

保育園につきましても、約50個、50セット程度でございます。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君）何か非常に国のやること、何もかも中途半端で非常にがっかりしました。全員の検査キットが来たのかと思って、私勘違いしております。はい、分かりました。

これはあれですか、生徒数、保育園児分のこれは来ないということなんでしょうか。希望を出しても来ないということなんでしょうか。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君）もともとそういう使用方法を国は考えていないということは、先ほど来申し上げましたので、定期的に児童・生徒に使っていただくような数量は想定していません。学校で使う目的ではありませんので、万が一医療受診がすぐできない生徒については、補完的な利用を認めているということでございますので、もともとそういう国の無償配布という考え方はそういう、万が一のときに補完的に使っていただくためのもの、または保育園については、保育従事者用という意味で無償配布をしているというふうに思っていたきたいと思います。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔8番 服部久子君 登壇〕

8番（服部久子君）そうすると、今度PCR検査まだ国会を通過していないということですが、PCR検査、無症状でも検査する、それから12歳未満の児童でも、無症状でも検査するというような趣旨の国は方針出しましたが、それがもし通った場合、池田町は小学校、中学校、それから保育園用に、12歳未満の方、小学生ですか、それから保育園児のそのPCR検査用のあれは求めるんでしょうか。

議長（矢口新平君） 寺嶋学校保育課長。

学校保育課長（寺嶋秀徳君）仮に予算がついた場合には、無償配布の希望は出す可能性がありますけれども、先ほど来言っていますが、検査体制については、市町村が検査を実施して

いるわけではなく、都道府県が行っているわけです。

今回の補正予算についても、都道府県の検査体制の充実ということが補正予算の内容になっておりますので、直接市町村の自治体が検査を行うということではないもんですから、同じような簡易検査キットを無償配布されたとしても、先ほど申し上げたとおり、医療受診をするということが原則になりますので、そういった使い方にしか対応できないかなというふうに考えております。

議長（矢口新平君） 服部議員。

〔 8 番 服部久子君 登壇 〕

8 番（服部久子君） めか喜びでした。PCR検査は無症状でも、それから12歳以下の子供たちでもやりますという国の方針は、やはりそういう中途半端なのですね。しっかりとやりますという手を挙げたところは、できるというあれじゃないということですね。

〔 発言する人あり 〕

8 番（服部久子君） 分かりました。

私の質問これで終わります。

議長（矢口新平君） 以上で8番、服部久子議員の質問は終了しました。

一般質問の途中でありますが、この際暫時休憩とします。

休憩 午前10時40分

再開 午前10時47分

議長（矢口新平君） 休憩を閉じ再開いたします。

薄 井 孝 彦 君

議長（矢口新平君） 一般質問を続けます。

7 番に、7 番の薄井孝彦議員。

薄井議員。

〔 7 番 薄井孝彦君 登壇 〕

7番（薄井孝彦君） 7番議員、薄井孝彦です。

今回は、4つのテーマで質問いたします。誠にすみませんが、質問が多くなってしまいましたので、簡潔な答えをお願いし、質問に入ります。

まず、町業務の引継ぎをどう改善するのかのテーマですが、農業担い手への農地集積を進める町独自の奨励金制度、中核農家育成経営規模拡大事業補助金制度は、国が同様の制度を設けたということで必要がなくなるということで、町は平成29年度をもって廃止するとしておりました。

しかしながら、当時の担当課の体制不備により対象農家には周知されず、令和2年度まで継続されました。このため、その間の3年間の不払いに対し、町は対象者に陳謝し、令和3年度に不払い金805万8,000円を支払うことになりました。町は関係者を処分するとともに、業務の引継ぎが正常に行われていれば、このような事件は避けられたとし、再発防止策として業務引継ぎの改善を講ずるとしました。

議会は、その引継ぎ解除の内容を示すことを求めましたけれども、具体的にはまだ示されておられません。進捗状況や引継ぎをどう改善するのか、下記の点も含めて担当課長や町長の考え方をまずお聞きします。まず、進捗状況のことです。

それから、2番目に、私の業務引継ぎの取組の基本的な考え方を述べたいと思いますけれども、今年3月26日に、町民の皆さんと議会との意見交換会が開かれました。その席上で、町民から今回の問題について、職員のミスに対してチェックできない職場が問題であるということが意見として出されました。私は、このことが今回の業務改善の最大のキーポイントになるんじゃないかというふうに考えております。

そこで、次の2ページの図1の引継ぎ体制図を御覧ください。

引継ぎに当たりましては、係長、課長が事前に早めに引継書をつくっていただいて、それを課長だとか課長補佐だとか、それから引継ぎ者に事前にお渡ししていただいて、チェックをいただくということと、それから引継ぎに当たっては、なるべく課全体で引継ぎを行って、やはり課の職員全体が課の業務全体に、事務全体について共通認識を持っておく、そういう引継ぎというものをやはり考えていく必要があるんじゃないかと思うんですよね。

そうすれば、お互いに何をやっているか分かりますので、では、協力し合おうとか、いや、この点はまだちょっと抜けているから、この点はこういうふうにしたほうがいいんじゃないかというアドバイスもやはりできる。そのことが、やはりこういう事務引継ぎにおける不祥事をなくしていく最大のポイントに私はなっていくというふうに思いますので、ぜひ事務引

継書だけをつくるというのではなくて、引継ぎのやり方そのものをやはり変えていく、課全体でみんなで共有して、みんなで課全体で仕事をやっていくというような、そういうふうに引継ぎのやり方そのものの改善も私は必要じゃないかというふうに思います。

そのことをシステムとして引継書の規定というものを、見晴らしの事務規定というのはありますけれども、そういったものの中に生かしていただいて、やはり引継ぎ規定もぜひこの際整備していただいて、改善していくということが私一番重要じゃないかというふうに考えております。その点について、進捗状況を含めて課長及び町長の考え方をお聞きいたします。議長（矢口新平君） 甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） それでは、ただいまの薄井孝彦議員の御質問にお答えをしていきたいと思います。

業務引継ぎ改善の取組についてでありますけれども、何度か庁内会議を行いまして、引継書の統一様式を協議してまいりました。来年度から使用できる体制を整えているところであります。

次に、業務引継ぎの取組の基本的な考え方でありますけれども、新規引継書により行うということではありますが、内容的には引継ぎする事務と内容、また、未処理事項、そして未着手事項、将来実施すべき事項、引継ぎをする書類、物品等、また、年間の日程等、その他引継ぎ事項となっております。前任者と後任者で事務引継ぎが完了したときは、前任者及び後任者が連署の上、後任者が課長補佐以下の職員にあっては、所属の課長へ、課長にあっては副町長に報告するというようにしております。

それから、3番目の引継ぎ規定をつくることについてであります。来年度新しく作成した統一の引継書様式を使用して引継ぎを行う中で、職員間で問題等があれば、その時点で考えてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 7番、薄井孝彦議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） ちょっとこれ、詳細に進め方についてちょっと述べていなかったのですが、私いろいろ検討する中でそれが一番重要だなということで述べさせていただきましたけれども、その点について町長、引継ぎのやり方そのもの、書類の問題、様式の問題あるんですけども、やり方そのものを課全体でやっていくような、対個人、個人じゃなくて、課全体で

やっていくようなやり方というのは、今後検討していかなければいけないと思うんですよ。
その点はどうですか。

議長（矢口新平君） 麩町長。

町長（麩 聖章君） 当然課それぞれで検討して、その結果の引継書という形がつけられた
わけです。それにつきましては、さっき御説明したように、その扱いについてそれぞれの課
で共有していくということにしております。

決して単純に、簡単に決めたものではありません。課の中でそれぞれ皆さんの知恵を絞っ
ての形態でありますので、御理解いただきたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） あれですかね、これ、議会には統一様式というのはいつ示していただ
くんでしょうか。議会としても、それを早く見せていただきたいということで要求はしてお
りますけれども、その辺はいかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） 前にも和澤議員のほうから御質問ありましたが、これにつきまし
てはもう作成はできておりますので、今後1月等の議員協議会か、協議会に作成したものは
御覧いただくことはできると思いますので、よろしく願いいたします。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 1月頃の議員協議会で示していただくということで私いいと思うんで
すけれども、問題は示していましたが、私の一般質問も含めて、そのときにまだまだ意見が出
ますと。問題は、それを受けて町としてそれを変える気があるのかどうか、そこなんですよ。
その辺をお聞きします。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） これにつきましては、今の町長の答弁でも言いましたとおり、職
員みんなで協議をした中でつくらせていただいた引継書です。内容的にも町長言いましたが、
1番から7番ということで、薄井議員言われている三原市の内容、全国的に見ても大体同じ
ような内容のものを入れておりますので、今回につきましては、3番の答えでも町長言いま
したけれども、来年度1年間、この引継書でやらせていただき、その中でいろいろ問題点が

あれば、こちらのほうも改善しますので、今回につきましては、議員の皆さんにはお見せしますけれども、この作成した引継ぎで来年度はやるようにしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 事の発端が、いわゆる806万8,000円を、要するに言ってみれば不必要な経費であったと私は思うんですけれども、そういう重大な事態を起こしたという、そういう上に立ってこういう改革をするという、そういうことだと思っただけです。だから、普通のあれとは違うと私は思うんですよ。

そういう意味からいっても、これはやはり今日の私の一般質問の内容だとか、議員協議会で様々な多分意見が出ると思っています。そういうことを含めて、1年間試行してからということではなくて、取りあえず改善していいと思う内容については、その時点で改善をして、私はやはり町民のそういう、いわゆる何とかしてほしいという、そういう意見、声、そういったものに応えていくには、やはり事務規定をこの際思い切ってつくと、そういうことのほうが町民の納得が得られると思っただけです。

その点、町長どうですか、やはり1年間の試行なんて言わなくて、ここで3月までに、1月に示していただいて、私の意見だとか、あるいは議員協会で出された意見を通して、改善すべきは改善して、そして規定をつくっていただいて、3月議会で出していただければいいと思いますよ。それでやるというふうにしたほうが、私は町民の変えてほしいという声、それに応える道だと私は思いますけれども、いかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） これはさっきも答弁いたしましたように、簡単に決めたものではありません。それぞれの部署で検討してこれが最善であるということで決めたものであります。引継書の規定ということではありますが、これは規定をつくってどうこうというものではないと思います。いかに引継ぎを的確に行っていくかということが大事でありますので、この引継書を通しまして、やはり実施に行ってみて、その改善点があればそれをどうするのかということで、検討を加えていくということの段取りを踏んでいきたいというふうに考えています。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） あとの問題もありますので、この辺にしておきますけれども、ぜひその辺のところは、先ほど申し上げましたように、町民の声を大にして改革をしていくということをお願いしまして、次の質問に移りたいと思います。

それから、ちょっとこの図で示しましたけれども、総務課のほうに出された各課の引継書は総務課のほうで保管して、理事者も見えるような、そういう体制にすべきだと思いますけれども、その辺はどういうふうにお考えでしょうか。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） その辺につきましては、総務課一括ということは考えておりません。各課にちゃんと引継書がありますので、総務課に来なくても町長、副町長、他の課の職員も各課へ行っていただいて引継書を見ていただければそれで分かることですので、総務課としては保管を行いませんので、よろしく願いいたします。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） その辺も、私は役場としてちゃんとした総務課でも管理をしていくという、知っておくということもやはり必要ですので、これは総務課のほうに集めて総務課長もちゃんと目を通すと、理事者もちゃんとそこへ行けば見えるというようにしておく体制が必要だというふうに思います。

次の質問に移ります。

災害時の避難対策・田んぼダムの取り組み強化についてですけれども、指定避難所の町民主体の運用をどのように進めるかということですが、令和3年2月の改正により指定避難所の地区指定はなくなりました。

池田町避難所運営マニュアル（令和3年5月修正）によりますと、指定避難所の運営は開設時には町職員が、担当職員が運営に当たるが、次第に住民主体の運営、避難者の中から互選された方々、自主防災会や自治会の代表、役員の方々に切り替えていくとしております。指定避難者の中に自主防災会や自治会の代表、役員の方々が存在しない場合、町はどのように指導するのか、町の考え方をお聞きします。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） それでは、今の御質問ですけれども、避難所の中に役員等が存在

しない場合ということですが、マニュアルの中で「避難所運営にかかわる組織及び人について」として、本部員や活動班等の避難所の在り方について示しています。避難してきた皆さんの助け合いによって、避難生活をしていただくことが基本となります。避難者の居住区の中の互選により代表者を選出していただき、居住区ごとの代表者が集まって避難所の運営本部をつくっていただくことになろうと思います。

今年度2月に予定している自主防災会連絡協議会においても、ハザードマップやマイタイムライン、避難行動要支援者の説明会をする予定ですので、避難所の件も含めて説明をしたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 私は、避難所に近い自主防災会の役員に集まっていたいて、対応していくのが一番いいんじゃないかと思うんですよね。そういったようなことも自主防災会の中で意見を聞いていただいて、進めていただきたいなと思います。

次の質問に移ります。

実践的な指定避難所運営訓練（HUGなど）の実施を。

指定避難所の運営のイメージを町民が共有していなければ、災害時のスムーズな運営はできません。

大町市が昨年実施したような自主防災会役員を集めての避難所運営ゲーム（HUG）を大町市は年2回、延べ80人が参加して実施したようですけれども、非常に効果があったというふうに聞いております。池田町でも実施すべきと考えます。考え方をお聞きします。

また、指定避難所、指定緊急場所の地区自主防災会ごとに集まり、避難所運営について検討をすべきと考えます。居住空間とか、避難所の居住空間とか、運営本部などのスペース配置などにつきましては、事前に自主防災会集まって該当する、自主防災会で集まって決めておかないと、災害対応はできないと思います。その例に、指定避難所ごとの自主防災会の案を示しておきましたけれども、この辺についてもお聞きしたいと思います。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） それでは、今の御質問ですが、避難所運営訓練は8月の地震総合訓練と秋に行っている避難所運営訓練において、実践的に体験を通して訓練を行っております。

議員が提案していただいた避難所運営ゲーム（HUG）は、県も進めている避難所運営のカードゲームです。県が指導者とゲーム機材を持って指導に来ていただけるので、来年以降、計画していきたいと思います。

また、避難所運営について自主防災会ごとに集まり運営検討会をすべきとの意見ですが、避難所運営委員会を開催し、検討を重ねている避難所もございます。風水害時には同じ地区の人が必ず同じ避難先へ行くとは限りませんので、どこの避難所でも同様に運営ができるように、開設や運営のイメージを持っていただくことが必要です。その運営のイメージを確認していただくため、避難所運営訓練時に再確認していただこうと考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 地区指定を指定避難所についてなくなったということで、そういうことになるかと思うんですけども、既に、例えば池田小学校については、吾妻町3丁目、4丁目、半在家、相道寺集まって、既に順番を決めているところもあるんですよ、現実問題として。だから、そういうところ、私は細かいこと、例えば池田工業高校、小学校、高瀬中学校、それぞれ違うんですよ。ですから、それによってスペース割りというんですか、それも変わってくると思うんですよ。

ですから、先ほど課長が答弁した答弁でいいんですけども、指定避難所の特殊性がありますので、それをやはり今まであったような地区割りというんですかね、自主防災会割りというものでやはり事前に運営を検討しておくということは、やはり私は必要なことだと思うんですけども、その辺再度お聞きします。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） これにつきましては、地区割りから自由にさせていただいた経過があります。災害時になりますと、皆さんが地区割りしていただいても、災害時慌てて応用が効かないということもありますので、町としましては、今までどおり地区割りなしの中で総合訓練、避難所訓練等で、このことについて再度皆さんに毎年話をしながら、災害時になればどこの避難所へ行ってもスムーズな運営ができるということを町としては考えたいと思いますので、お願いいたします。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 一番問題になるのは、スペース割りだと思うんですよ。要するにどう
いうスペース割りをするかと、それをやはり避難所によって違ってきますので、やはり事前
に案というものはやはりつくっておいて、それで災害時にすぐそれに従ってやっていくとい
う体制をつくっていく必要があると思うんですけども、そういうスペース割りというのは
指定避難所ごとにできているんでしょうか。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） スペース割りにつきましては、担当課のほうで検討はしておりま
すので、もし議員が言われるようなことが今後必要であれば、担当課のほうとしても、作成
のほうをできていなければ検討させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 一応マニュアルの中に案はあるんですよ。だけれども、それが例えば
池田小学校、高瀬小学校どうするかということについての案は、多分できていないと思うん
ですよ。ですから、その辺のところはぜひ検討してつくっておいてもらって、対応できる
ようにしてもらいたいということを要望して、次の質問に移ります。

3番、災害時逃げ遅れゼロにするための地区防災計画作成指導に町の支援を。

地区防災計画は、地区住民が安全な地区をつくるためのツールであり、安心して暮らせる
ための取組でもあります。地区住民が積極的に計画を考え、実施する姿勢は、地区の安全を
高めることにとどまらず、地区を守ろうという次世代を育む防災教育にも効果があります。

町が地区防災計画のひな形をつくったことは、大いに評価できます。全地区で地区防災計
画ができるよう、次の点について町の取組をお聞きします。

まず、現時点で地区防災計画ができていない防災会は幾つあるのか、今後、地区防災講演会
などを開催し、作成を促すことが必要と考えられますが、町はどういうふうに考えますか。

それから、3番目に、避難所へ避難すべき人が漏れなく避難できますよう、自主防災会で
当該地域の避難所の状況、また、自主防災会での避難者の状況を把握しやすくするために、
地区指定の指定避難所を自主的に自主防災会で決めといたほうが私はいいんじゃないかとい
うふうに考えますけれども、町の考え方をお聞きします。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） それでは、3点についてお答えします。

まず1点ですが、現在計画を完成している地区はありませんが、現在作成に取りかかって

いる地区が2地区ほどあります。作成が完了したら町へ報告していただくことにしておりますので、御理解をお願いいたします。

2点目ですが、今年10月に、32地区の自主防災会長さんへ地区防災計画作成の通知と作成のひな形を配布したところです。来年2月に自主防災会連絡協議会を開催し、そこで説明をしたいと考えております。

3点目です。自主防災会が主体となり避難所運営を行うこととなりますので、自主的に決めていただくことは異議ありませんが、地震や水災害等において同じ避難所へ同様に避難できるか、災害状況によって避難先が変わるおそれがあります。一番大切なことは、声を掛け合い、ぜひ逃げ遅れのないように地域で助け合いをしていただくことです。同じ避難所へ避難することは安心につながりますので、よいことだと思います。

しかしながら、避難先の選択肢はコロナ禍を考慮すると、地区が一堂に会して密集することは避けたいと思います。親戚や友人宅、ホテル等複数ありますので、そちらを優先的に避難先として考えていただき、町が開設した避難所へ行くことは選択肢の最後にしていただくことが賢明だと考えております。

最終的には、複数の選択肢の中から「自分の命は自分で守る」ことが基本となります。自主防災会で自主的に決める場合は、複数の選択肢があることを念頭に置いて検討していただくよう御理解をお願いします。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） その考え方で私はいいと思うんですけども、そういう声も多分自主防災会の中からは出てくるんじゃないかと思っておりますので、その辺の声も聞いていただいて、逃げ遅れゼロにしていく、みんなで声を掛け合って、できれば同じ避難所へ、それはコロナがありますので密にならないようにするというので、ほかのところへ逃げるとするのはそれもそれで結構ですけども、やはりそれができない人もいますわけですので、その辺のところをうまくやって、逃げ遅れゼロにしていくという取組をぜひ指導をお願いしたいと思います。

次の質問に移ります。

ペットとの同行避難について飼養者に啓発を。

指定避難所へペットと同行して避難した場合、様々な課題というか問題が考えられます。

例えば犬がほえたり、臭いが出たり、問題が、苦情が寄せられたり、いろいろペットへの、そういうことでペットへの飼養者の啓発が今求められているかと思います。

ペットとの同行避難については、環境省の「人とペットとの災害対策ガイドライン」がありまして、それを町のホームページにアップしたり、あるいはペット登録時に犬だとか、そういった登録する際に、災害時のペットの同行避難についての注意事項を記載したチラシを作って渡したらいいんじゃないかと思います。

また、広報にペットの同行避難の注意事項について記載してもらおうと、そういうことも必要と考えます。町の考え方をお聞きします。

参考までに、信州大学の防災センターから出されたペットの同行避難のポイントとして、ペットに対しくれぐれも身元が分かるタグやマイクロチップがつけられているか、この点につきましては、動物愛護法の改正により、犬猫は来年6月からマイクロチップの装着が努力義務化されます。

そういったことも宣伝していただいたり、あるいはペットを連れて避難訓練をしているかとか、避難所でほえない訓練はできているかとか、病気や害虫予防はできているか、そういったようなことがポイントとして上げられております。町の考え方をお聞きします。

議長（矢口新平君） 塩川総務課長。

総務課長（塩川利夫君） それでは、今の質問ですけれども、災害時に行われる行政機関の支援では、人の救護が基本であることから、災害の発生当初にはペットフードや水などの支援ですら困難なことが多いと考えられます。飼い主はこうした場合でもペットの安全と健康を守り、他人に迷惑をかけることなく、災害を乗り越えてペットを適正に飼養管理していく責務を負っております。

したがって、普段から災害時に必要となる備えをし、地域社会に受けられるように、ペットを適正に飼養管理する必要があると環境省の「人とペットの災害対策ガイドライン」でうたわれています。

ペットと同行避難する方も多くいると思われしますので、議員の御提案のとおり、ペットに対するガイドラインを町ホームページにリンクしたいと思います。

また、避難所運営マニュアルの資料集・様式集に、有事の際、ペット同行時には必ず記載していただく「同行避難動物受付簿」を様式で定めています。

また、「ペットの飼い主の皆さんへ」と題したチラシも掲載しております。これを有事の際に、受付簿の様式と一緒にチラシにして渡せるようにしたいと考えております。

また、町広報紙にペットとの同行避難の注意事項について掲載する件ですが、今後掲載について検討していきたいと思います。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 環境庁の方で「ペットを飼っている皆様へ」ということで、チラシがもう既にできておりますので、そういったものも登録時にぜひ渡していただいて、啓発をしていただくということでぜひお願いをしたいと思います。

次の質問に移ります。

水田の貯水機能・田んぼダムの取り組みの進捗状況と今後の取り組みをお聞きします。

本年6月定例会の一般質問で、水田の貯水機能・田んぼダムを生かした水害対策をお聞きしました。国は、流域治水の一環として多面的機能支払交付金事業資源向上支払い（共同の水田面積の50%以上の水田で田んぼダムを取り組めば、10アール当たり300円を加算する）としています。田んぼダムの取組は、内川などの内水氾濫や湛水被害の軽減に役立ちます。

町は、多面的機能交付金事業地区の代表者会議で、田んぼダムの事業の内容を説明し、地区での取組を検討いただくと回答しました。その後の進捗状況を追うと、下記の点、次の点について町の取組をお聞きします。

1点目、申請があった場合、来年度県への補助金申請の手続を取るのかどうか。それから、2番目に、来年度以降も田んぼダムの役割を啓発し、申請手続を続けてほしいと思いますが、町の考え方をお聞きします。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） それでは、お答えいたします。

1点目ですけれども、6月17日に多面的機能支払交付金地区代表者会議を開催いたしまして、雨水貯留能力を高める田んぼダム取組による防災・減災力の強化と資源向上支払共同活動の単価の加算措置について説明をし、各地区での取組について検討をお願いいたしました。

その結果、令和4年度から2つの地区で取組をいただけることとなり、県への申請の予定となっております。

2点目ですけれども、来年度も田んぼダムの役割を啓発し、申請措置を続けてほしいという質問ですけれども、各地区での取組を検討いただいた結果の中で、令和5年度までの第2期対策の共同活動計画が決定をしているため、令和6年度からの第3期対策での取組を検討

すると、さらに2地区より回答をいただきました。

加算措置の要件として、多面的機能支払交付金事業における地区協定区域、区域面積の5割以上で活動に取り組むこととされています。水田の排水まさんがないことや畦畔が低いといった物理的な理由により取組が困難な地区もありますが、引き続き各地区での取組をお願いしていきたいと考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 2地区だけですけれども、あって非常によかったなというふうに思います。これがやはり突破口となって、起点となって、さらに広がっていけば、内水氾濫、特に内川が私一番、そこに集中をしてきますので、心配ですので、その点でぜひ今後も取り組んでいただけるということですので、さらにお願いをしたいと思います。

次の質問に移ります。

3、企業版ふるさと納税「地方創生応援税制」を導入し、「花とハーブの里池田町」の取組み強化を。

町長は来年度の当初予算の編成方針として、「花とハーブの里づくりの推進」を上げてしております。非常に結構なことだと私は思いますけれども、「花とハーブの里池田町」の取組として次の3点でさらなる充実が求められるんじゃないかと思います。

1つは、ハーブ園ガラス温室のさらなる充実、2番目に、ハーブ関連の生産需要の拡大、3番目に、町民の日常的な花とハーブに親しむ風土づくりの取組強化という3つの課題というのがあると思います。それを実現する施策を具体化し成果を上げるため、町財政に負担をかけない企業版ふるさと納税「地方創生応援税制」を導入すべきと考えます。

参考としまして、地方版ふるさと納税の概要について書いておきましたけれども、次のページに示しておきましたけれども、いずれにしても、青木村の五島慶太記念館とかいうふうに、全国の自治体でこの制度を活用して、それぞれの自治体のやりたい事業というものを進めているというところが最近増えてきております。この制度自体も非常に使い勝手がよくなっているというふうに聞いております。

そういったことで、これを活用するためには、町の方から国のほうに対して、まち・ひと・しごと地方創生寄附金活用事業をやりたいんだということを申請して認定を受ける必要があります。

そういうことですので、来年度、ぜひその辺のところを検討していただいて、国に申請を上げていく。それから、そのためにもハーブ園ガラス温室のビジョンですね、これについては、今回、「ハーブステーション」というふうに名称を変更して、さらに充実していく方針が出ておりますけれども、方向性が出ておりますけれども、具体的にではどういうふうにするのかということについては、まだ明確になってないわけですよ。その辺のところをぜひ明確にさせていただいて、その計画をやはりこの創生の寄附金活用事業に生かして進めていくということが必要だと私は考えますけれども、町の考え方をお聞きします。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） それでは、お答えをいたします。

1点目ですけれども、企業版ふるさと納税を導入することで、町が進める地方創生事業に対し企業から賛同していただき、資金面で応援してもらえることは大変ありがたいこととなります。

議員の御質問にありますように、財源確保の面からも本制度の活用は有益であると考えます。大前提としまして、企業から寄附を呼び込むことができる効果の高い事業内容であることが考えられますので、期限は明言いたしません、今後研究していきたいというように考えております。

それから、2点目のハーブ園のビジョン等の関係ですけれども、ハーブ園・ガラス温室の将来ビジョン、施策については、町長が予算編成の基本方針で示した内容に基づき、他市町村の取組を参考にしながら、これにつきましても期限は明言いたしません、引き続き研究していきたいと考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 来年度具体的に申請をする考え方はあるということでしょうか。その辺をちょっと具体的にお願いたしたいんですけれども。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） すみません、そこも含めてちょっと研究ということをお願いします。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 研究もいいんだけど、これやはり、これは町長にお聞きするんですけれども、やはりいいものは早めに検討して進めていくということが、花とハーブの里づくりでも必要だと思うんですよね。その辺、町長はどんなふうにお考えでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ただいまの御質問でありますけれども、これは企業版ふるさと納税につきましても、しっかりとした計画ビジョン等がないとなかなか申請できない。その成果についても問われるわけでありまして、この点につきましても、もうちょっと研究していかななくてはならないということでもあります。

ただいまふるさと納税を導入してやるというような、具体的には大きな事業方針がまだございません。それについてまた十分検討してまいりたいということでもありますので、御理解いただきたいと思います。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 何ていうかね、ハーブセンター、ハーブ園の取組が始まってからもう30年たつわけですね。そういう中で、一定程度の私は成果は上がっているとは思いますが、ただ、町内から来た人が、はっきり言ってあのハーブ園や、最近ハーブ園の評価が高まっているとは思いますが、満足できないという声を聞いたり、本当に花とハーブが池田町にあるのという声も聞くわけですね。

だから、やはり本当に花とハーブが町民に根づいているというふうに、私はなかなか言いがたい面もある。だけれども、やはりそこを何とか改善して取り組んでいかななくてはならないということだと思うんです。その辺のところはなかなか進まない。その辺のところについて、町長の考え方なぜ進まないのか、その辺を含めて町長の考え方をお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） これは昨年度からですかね、町の直営にいたしました。ここは大きな改革だと私は思っております。それと本来でしたらガラス温室は相当手を入れたいというふうに考えましたけれども、これはもう財政問題ありまして中断をしたという経緯もあります。

大きなこの事業、集客力がある、あるいは町の顔として大いにアピールできる。そんなことの事業として考えるとすれば、まず一番にやはりガラス温室どうするのかなというところがあります。これは老朽化が相当始まっておりますので、これには手を入れたいというふう

に考えております。

あのエリア全体につきまして、そのビジョンを持っておりますけれども、それに対して具体的にこれだけ投入して、この事業をするというところまでまだ行ってないというところがあります。

ただ、今の委託先は大変この度法人化いたしましたし、1つの企業として「この花とハーブの里づくり」を推進していくということで大変力を尽くしていただいておりますので、また年を追うごとに、この花とハーブの里についての発展的な状態に持っていけるんじゃないかというふうには考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 私なりに考えてみますと、やはり外部企業頼み、これはやはり結局駄目なんですよ。いろいろやってみましたけれども、結局それが根づく、全然駄目だという評価するのは間違いだと思いますけれども、やはり効果は町民自身が、町自身が考えて、そこに合ったやり方をやっていくということが、私、一番重要だと思うんですよ。

そういう点から言いますと、例えば今、町長が申しました、いわゆるハーブの苗づくりを行うグラウカだとか、ハーブガーデンの管理を行うレモングラスだとか、販売を促進するみちくさとか、そういう新たな町民組織が立ち上がってきているわけですね。それを管轄している団体もあるわけで、そういう意味では、かつてない町民主体の動きになりつつあるんで、やはりそういうところから意見をどんどん吸い上げて、やはりまた町民からも意見を吸い上げて、早く計画をつくって早くいい方向に持っていくという、先ほど課長でも契約はつくる、町長にしてもいつまでにつくるかということを明確にされないわけですが、やはり目標を持ってこの地域版の創生応援税制につきましても、令和6年度までというふうに期限が決められているわけですね。やはりそういうものを有利なものをつくるためには、やはりスピーディーに、いつまでにやるんだという目標を持ってやはりこれ取り組んでいただかないと、いつまでたたって契約は立たないと思うんですよ。

そういう点で、町長、いつまでに、私は来年度までに、来年度なるべく早い機会に計画は、今ハーブガーデン、その地域についてもビジョン、具体的な計画はないというふうにおっしゃいましたので、ぜひそういう団体、いろいろな運営団体もありますので、そういう意見を聞いたり、町民からアンケートというか、11月末までの意見募集もやりましたよね。

そういったことも含めて、多分意見も出てきていると思います。その辺のところも含めて、来年度なるべく早めに、できれば夏くらいまでにその辺の計画をつくってもらいたいと思いますが、町長いかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ここは1つの町の方針でありますので、来年度の夏ということが明言はできませんけれども、これは常に各団体の意見は徴収しております。希望も出てきておりますので、その辺の具現化してまいりたいというふうを考えております。

来年度中には相当方向性が定められるんじゃないかというふうには考えておりますので、よろしくをお願いします。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） ちょっと課長にお聞きいたしますけれども、パブリックコメントやりましたよね、あの結果はどうだったんでしょうか、ちょっと教えていただければと思います。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） 直近に行いました意見募集については、意見はございませんでした。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） いや、それはおかしいです。私が11月28日ですかね、やっています。意見として上げています。だから、ないというのは、それはおかしいです。何か機械の間違いかどうかは知りませんが、私はアンケート出していますので、それはないというのはちょっと、また事実確認をしていただきたいと思います。

議長（矢口新平君） 宮澤産業振興課長。

産業振興課長（宮澤 達君） 直近で行ったものについては、ちょっと担当に確認したところそういう答えでしたので、またさらに確認したいと思っておりますし、その前にやったものについては、1件そのような意見があったということで認識しています。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔 7 番 薄井孝彦君 登壇 〕

7 番（薄井孝彦君） その辺は、確認をしていただければというふうに思います。

それでは、次の問題、町長は町の行財政改革をどのように進めるかについて移ります。

最初 1 点目、町行財政改革推進委員長から、町長の発言撤回の申入れの対応についてお聞きします。

今年 5 月に設置した町行財政改革推進委員会は、7 回の審議を経て 11 月 8 日、諮問事項 1、組織機構の管理に関する事、組織のスリム化、効率的な組織にすることによって人件費の削減を図るの第 1 次答申書を町長に行いました。答申の要旨は次のページの参考に示してあります。町長はこの答申を受けどのように対応していくか、検討していく責務があるかと思えます。

しかし、町長は 11 月 15、16 日行われたまちづくり懇談会において、職員の給料減額は諮問していない対象外だと発言しました。この発言につきましては、次の点で問題があると考えます。

まず 1 点目は、職員給料の削減は、諮問事項の人件費削減に沿って検討したものであり、諮問対象外とは言えないということ。

2 番目に、町行財政改革推進委員会設置条例第 2 項で、委員会は行財政の推進に関し町長に意見を述べる事ができるとなっており、職員給料の削減の答申には問題がないというふうに思います。

この件に関して、11 月 25 日、町行財政改革推進委員会会長から町長に発言撤回を求める申入れ書が出されました。町長発言不適切であり撤回すべきと考えますが、町長の考え方をお聞きします。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、御質問にお答えしたいと思います。

私は、諮問内容については、一般職員の責任問題については、含まれていないということでお答えをいたしました。設置条例には、御指摘のとおり、意見を述べる事ができるとあります。でありますので、御意見として伺いをいたしましたところであります。

したがって、発言を撤回する考えはございません。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔 7 番 薄井孝彦君 登壇 〕

7番（薄井孝彦君） やはり時間を割いて、推進委員会の人は貴重な時間を割いて、一生懸命池田町の財政をどう立て直すかということを検討しているわけですよね。私もなるべく出るようにして、非常に熱心に、非常に真摯にやっているというふうに、私はいつも敬意を表しているわけですが、やはりそういったものに対して、出たものに対して、検討した結果としてどうするかということであるならば全然問題ないんですけども、検討しないでやはりそういうことを言うというのは、ちょっと私は一般通念上好ましくないというふうに考えますけれども、その辺のところ、今撤回する考え方はないというふうに申しましたけれども、ちょっとこのままいきますと、推進委員会と町長、町との関係ですね、これがちょっと好ましくない方向に行ってはしないかというふうに私は懸念をするわけですね。

ですから、その辺のところは、やはり町長のほうで会長に会って話をするとか、そういうやはり何らかの打開策、そういったものをしてほしいと思いますけれども、町長、その辺どうでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 当然委員長さんとはこれから懇談をして、この件についてお互いすり合わせをしたいと思いますが、私、再三申し上げますけれども、諮問をしているわけです。その内容に含まれていないものを、答えをいただいたからといって、私がこれに対してどうこうということの考えを持たないということでもあります。

1つの問題を諮問しているかどうかということと、その責任問題ということでもありますので、これにつきましては、昨日お答えいたしましたように、もう既に結論を出している問題であります。しかも、それ以降、町民の皆さんからも、また議会からも、職員の給料を減額すべきという声は一言も聞いておりません。そういうものを含めると、これはもう既に結論が出た問題だと私は考えておりますので、諮問内容に入れなかったということでもありますので、御理解いただきたいと思います。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） すみません、またその辺のところについては、倉科議員からもまた出るとお思いますので、このぐらいにしておきます。ぜひ話し合っただけ悪い方向に行かないように、ぜひ御留意をお願いをしたいと思います。

次の問題いきます。

持続可能な町財政の構造転換を、経常経費削減について理事者、町職員の対応策の検討を

ということで、質問をします。

町行政改革審議会の答申では、財政再建の最大の問題として投資的経費が著しく、今後の施設更新などに対応できない財政向上を上げております。そういう中で、経常経費の削減を求めています。

先日晒されました町の財政シミュレーションを見ても、令和8年度の経常経費は増加しており、町の解決策は示されていないように思います。この点について町理事者は、アンプロですか、やったというふうで、検討しているというふうな昨日答弁がありましたけれども、お聞きしたいのは答申が出てから、このアンプロを開催して検討しているのかどうかということとをまずお聞きしたいと思いますけれども、そういう意味で、職員の皆さん、今の町財政の課題というものをもっと広く知ってもらおうということで、職員の皆さん集めて、あるいは理事者も含めて、やはり行革委員会の先生を呼んで話を聞いて検討するというのも必要じゃないかと思えますけれども、その辺はいかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ただいまの御質問でありますけれども、財政シミュレーションにつきましては、解決策が示されていないとの御指摘でありますけれども、人件費につきましては、答申内容に対する対応は含まれておりません。

さきの質問でお答えしておりますように、新年度当初に答申を受けました内容を含めてシミュレーション等作成することとしております。

なお、検討会につきましては、既に財政安定プロジェクト、アンプロとっておりますけれども、を設置いたしまして、検討を重ねているところであります。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） やはりですね、今後かかっていく投資的経費というのが、毎年5億円は発生するだろうというふうに行革委員会で見ているんですね。そのお金が今の財政構造では出てこないわけですよ。ですから、やはりその辺が一番私は重要な課題だというふうに考えるんですね。だから、その辺のところをやはり職員全体の、理事者も含めて共通認識してどうしていくんだということを、3億円プロジェクトやりましたよね、あのときは職員全体で多分検討したと思えます。

そういったものの観点で、この時期にぜひそれをやっていただいて、いろいろな職員の案

を出していただいて、それに基づいて検討していくということが必要じゃないかと思えますけれども、その辺はいかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 十分これ、アンプロにつきましては、相当な職員が関わってきております。そういう点では問題点共有しているかなと思えますし、また、そんなことで職員のほうからもいろいろな御意見が出てくるというふうには考えております。

いろいろな意見をいただきながら、これからどうするのかというところも含めまして、具体的なシミュレーションが組み上げられたらなというふうには考えているところであります。

以上です。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 時間の問題もありますのでちょっと先に飛ばしまして、美術館の問題についてお聞きしたいと思います。

美術館につきましては、光熱水費含めて3,000万円かかっているということで、これを今後どうしていくのかということが非常に大きな財政上の課題にもなってくるというふうに思っています。

一応9月議会でお聞きしたところ、行革委員会の答申案が出てから検討するというお答えでしたけれども、一応この美術館の問題について方向性を今年度中に出すということになっております。この点についていつ頃答申案が出るのか、年度内にそれが出てから討議するというので、方向性を出すのに間に合うのかどうか。その辺について、課長も含めてお答えをいただければと思います。今後どんなふうに取り組んでいくのか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） では、私のほうから先に、この美術館の方向性につきましては、現在各方面で意見聴取しております。

また、行財政改革委員会等でも在り方について検討に入るものと思われませんが、やはりこれは町にとって大きな課題でありますので、広く意見を求め、慎重に対応してまいりたいと考えております。

でありますけれども、時間的にはもうないというのも現実でありますので、行財政改革推進委員会等の進行状況を見ながら、年度内には方向を出すということでは考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 大澤企画政策課長。

企画政策課長（大澤 孔君） 行革委員会での検討状況でございますけれども、現在、議会、農業委員会、附属機関の答申案づくりに入っております。年明けには公共施設のほうに着手できるかなというところでございますけれども、これがかなりボリュームがあるものですから、取りあえず美術館から着手というような考えで年度内に何か方向性が出せるような形で今考えております。

当初、月1で委員会を行っていたところ、委員からの発議で月2回ということで、ピッチを上げて検討しておりますので、何とか年度内には方向性が出ればと思いますけれども、検討内容次第でずれ込む可能性もあるということをお含みをいただければと思います。なるべく早く審議をしてまいりたいと思います。

よろしく願いいたします。

議長（矢口新平君） 薄井議員。

〔7番 薄井孝彦君 登壇〕

7番（薄井孝彦君） 恐らく年度当初、来年1月くらいになってしまうかと思うんですけれども、なるべく急いでいただくというのもちょっとあるんですけれども、そういう方向で早く行革委員会としての結論を出してもらって、それでそれを参考に、やはり町の案を示していただいて、年度内に町民の意見を聞いて、年度内に方向性を出すということでお願いをしたいと思います。

戻りまして、令和4年度の削減に検討すべき事項についていっぱいこう書いてありますけれども、要は言いたいことは、随意契約委託料、負担金などの見直しを今度の予算編成にかけて行って、経常経費の削減を図っていただきたいと、そういうことです。

以上で終わります。どうもありがとうございました。

議長（矢口新平君） 以上で7番の薄井孝彦議員の質問は終了しました。

一般質問の途中でありますが、この際、暫時休憩とします。

休憩 午前11時48分

再開 午後 1時00分

議長（矢口新平君） 休息を閉じ再開いたします。

松野亮子君

議長（矢口新平君） 一般質問を続けます。

8番に、1番の松野亮子議員。

松野議員。

〔1番 松野亮子君 登壇〕

1番（松野亮子君） 8番、松野亮子。

12月定例会の一般質問を始めさせていただきます。

化学肥料の価格が最近高騰しております。昨日、大出議員からも肥料の値上がりのお話がありました。農水省の見解では、世界的に人口増など食糧需要が増加していることなどから、肥料の需要が高まっている。また、化学肥料の原料を産出できる国が限られているため、また生産量についても限りがあるということで、肥料の価格が上がっているそうです。

今年は米価の価格が問題になりまして、先ほど服部議員や昨日の大出議員の一般質問でも取り上げられましたように、これをきっかけに離農する人が増えるのではないかという話を最近よく耳にいたします。

池田町では、米価の下落が原因で農業を辞めた人は今のところいないということですがけれども、今後、化学肥料の価格がさらに上がれば再生産が不可能になって、農業を諦める、諦めざるを得ない米農家の方が現れるかもしれません。

問題なのは、価格だけではありません。添付の農水省の資料にありますように、日本は国内で使用される化学肥料はその全てを輸入に依存しているそうです。コロナの影響で輸出国側の事情などにより、輸入がストップするという事態も起こり得る時代です。

昨日の大出議員の質問にあったように、短期的には高騰する化学肥料に対して補助金を出すことも必要だと思いますけれども、もっと長期的な視野に立ったときに、万が一海外からの化学肥料の供給がストップしても、農業が続けられる町であるために、肥料も自給できる町を目指す必要があるのではないかというふうに考えます。

日本では、温暖化対策といいますが、再生可能エネルギーが注目されがちですが、海外に目を向ければ、農業が地球温暖化に大きく関与していることが言われております。特に窒素肥料は製造過程で大量の化石燃料を必要とすることから、CO₂排出源としても見られてお

ります。

農業分野でのCO₂削減策として、2015年の気候変動枠組条約の第21回締約国会議、COP21にて、フランス政府が4パーミルイニシアチブというものを提唱いたしました。このイニシアチブについて世界的な取組が行われております。この取組につきましては、添付資料をつけましたので、そちらを御参照いただければと思います。

日本では、山梨県がこのイニシアチブに力を入れております。山梨県では、果樹園で発生する剪定枝を炭にして炭素を土壌中に貯留する方法ですとか、草生栽培、剪定枝のチップや堆肥等の施用を行っているそうです。また、そのように生産された農産物をブランド化しているというふうにも聞いております。

農業での雑草の利用についてですが、山梨県でも行われているように、主に果樹園で草生栽培は取り入れられてきました。また、果樹ではない畑や田んぼでも、自然農法など草を堆肥にする農法も、少数派の農家の方ではあったと思いますけれども、かなり前から行われてきております。

最近になって、雑草を堆肥化して活用する方法が非常に注目を集めており、添付資料にある「やさい畑」という農業雑誌で、雑草で土を変えるという特集を組んだところ、この号だけ売り切れ状態になるほどの注目があったそうです。

雑草を使うことのポイントは、雑草の分解者である菌が野菜と共生関係をつくり、野生の生育に必要なミネラル分を菌類が供給することにより、健康な野菜が育つということになります。雑草は言うまでもなく、この辺りでは無尽蔵に生えてきます。人件費をどうするのか、手間が大変だという課題はありますけれども、雑草をうまく活用できれば、原材料費はかけないで肥料を作ることも可能だと思います。

また、ごみ削減に関連してですけれども、量としては大したことはないと思いますけれども、家庭から刈り取った雑草が燃えるごみとして出されているという話も聞いております。

ここで質問です。

町民一人一人ができる温暖化ガス排出削減策として、庭や畑に十分なスペースがある方の場合は、刈り草をごみとして出すのではなくて、堆肥置場のような場所を造ってもらって、そこに積んで堆肥にするなどの啓蒙活動はできないもののでしょうか。

議長（矢口新平君） 蜜澤住民課長。

〔住民課長 蜜澤佳洋君 登壇〕

住民課長（蜜澤佳洋君） お答えいたします。

刈り取った雑草などを処分する土地がない場合には、燃えるごみとして出していただくこととなりますけれども、庭や畑などがある場合には燃やしてしまわずに、堆肥化して土に戻すということは重要な取組であると思いますので、有効な処理方法の一つとして情報発信していきたいと思います。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 1番、松野議員。

〔1番 松野亮子君 登壇〕

1番（松野亮子君） 庭や畑がある場合は、草の堆肥化を啓蒙活動で行っていただけるということで、非常にありがたいと思います。微々たるものかもしれませんが、実際にその草を堆肥にしたものを畑で使うことで野菜がよく育つということが実感できれば、また草に対する見方も変わってくるのではないかと思いますので、ぜひその点は進めていただけたらと思います。

次の質問に入ります。

今度町長にお尋ねしたいんですけれども、地球温暖化ガス排出削減策として雑草の有効活用についてどのようにお考えになりますでしょうか。誰がやるのかというのが本当に最大の課題だとは思いますが、例えば雑草堆肥で栽培した農産物を町の特産品にするとか、そこから上がる収益をまた雑草管理に充てるとか、何かそういったような方法は検討できないでしょうか。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えしたいと思いますが、私もいろいろ勉強する中で、雑草が優良な肥料となることは理解を深めたところであります。

しかしながら、当町では農業者の高齢化等の状況もあり、雑草の除去が大きな課題となっております。現状では除去するだけで精いっぱい、活用までには及ばないのが実情だと感じております。

ただ、有機農業を志す皆さんにとりましては、有効な有機肥料として活用が始まっているものと認識しており、将来的なテーマとして考えていきたいというふうには考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 松野議員。

〔1番 松野亮子君 登壇〕

1番（松野亮子君） 冒頭に申し上げましたように、日本は肥料も海外に依存しているとい

うことで、本当にこれから海外からの供給がストップしたときにどうするのかということをやはり真剣に考えていかなければならない時代だと思います。本来は国がそれを考えるべきだと思いますけれども、国の動きが鈍いのであれば足元でできることからということで、町でぜひそのような取組をしていただけたらと思います。

また、兵庫県の豊岡市というところがあるんですけども、そこでは「コウノトリ育むお米」というブランド米が無農薬、無化学肥料で作られておりまして、海外にも輸出されるほど人気の商品のようなようです。生き物の名前を冠した農産物というのは、概して人気が高いような印象を私は持っているんですけども、例えば雑草堆肥で作ったお米などを、池田町であれば、例えば蛭など水のきれいな場所にすむ生き物の名前を付けてブランド化するとか、そのような取組ができないかというふうに考えております。

近年、エシカル消費が非常に脚光を浴びてきておりますので、そのような環境問題に意識の高い消費者には、雑草堆肥のエコ米とかを受けるのではないかと思います。これも誰がやるのかというまだ課題はありますけれども、ぜひ池田町で有機米を作りたいというような方を募っていただいて、そのような形で進めていただけたらと思います。

すみません、もう1回町長に、ブランド米、池田町独自のブランド米みたいなものについてどうお考えか、ちょっとお聞かせいただければと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 御指摘のとおり、これからのお米ということに関して申し上げます、やはり特徴のあるお米というのがこれから大いに求められていくことだろうと思います。そういう点では、有機米というのは一つの大きな需要といたしますが、求められる産物ではないかというふうに考えます。そういうことをもって、ブランド化していくということで非常に大事なことだと思います。

過去にも、「れんげ米」とか取り組んだ農業者の皆さんいらっしゃいます。もう一度私もそういう皆さんとの意見交換する中で、有機栽培米というのを少しでも増やしていければなというふうには考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 松野議員。

〔1番 松野亮子君 登壇〕

1番（松野亮子君） 日本は、昨日、横澤はま議員の質問にもありましたように、食料の自給率38%、肥料もほとんど100%海外依存、野菜の種なども自給率10%ぐらいというふうに

聞いております。この国は、本当に食料に関する自給率は低いです。

私は、そんなことで非常にこれからの日本の食のことを大変心配しております。少しでもできるところから自給率を高めていけるような、町がそのような施策を取っていただけること非常に強く願っておりますので、お願いしたいと思います。

私の一般質問は、これで終わりとさせていただきます。

議長（矢口新平君） 以上で1番、松野亮子議員の質問は終了しました。

倉科栄司君

議長（矢口新平君） 一般質問を続けます。

9番に、11番の倉科栄司議員。

倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 11番の倉科栄司です。

12月定例議会の一般質問の最後の質問者であります。

今回は、2点について行政の考えをただしたいと思います。

まず1点目、町営墓地の階段部分に手すりの設置をしてほしいということで質問をいたします。

町営墓地は、和洋式合わせて302聖地ございますが、ここ数年、聖地利用の数は290台の前半で推移をしております。聖地利用の数が大きく変わらない理由は、新たに申込みをする方と町営墓地から他の墓地に移設したりする方が、年間大体同じくらいいるからとされます。ここ数年の聖地利用申込者と反対に町営墓地の永代使用を取消し、聖地を返還する方、これは未使用のまま返還する方と、建立されたお墓を更地に戻し返還する方、両方合わせてございますが、この推移をお聞きすることと、合わせて聖地を返還する方の理由について、分かる範囲で結構ですのでお聞きをしたいと思います。

議長（矢口新平君） 蜜澤住民課長。

〔住民課長 蜜澤佳洋君 登壇〕

住民課長（蜜澤佳洋君） 聖地の申込みと返還の推移でございますが、過去5年の状況は、平成28年は申込みが3、返還が6、平成29年は申込み4、返還2、平成30年は申込み2、返

還4、令和元年は申込み1、返還3、令和2年が申込みが5、返還2で、合計では申込み15に対して、返還が17で、令和2年度末の空き区画は10区画となっております。

返還理由といたしましては、継承予定だったお子さんなどが転出して池田町に住んでおらず、建立する予定がないという方が一番多くなっております。また、自宅に近いところに墓地が確保できたという方もいらっしゃいます。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 11番、倉科栄司議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 大体290ちょっと前半くらいでということで、今課長の答弁の中に墓守ができないという、いわゆる後継者もいなかったり、あと遠くにお住まいになって、現実的な実際の墓守ができないということが一番多いということでありまして、今回の12月補正でも、2件の聖地返還の申出があって補正予算が組まれています、この2件の理由についてお分かりでしたらお願いをしたいと思います。

議長（矢口新平君） 蜜澤住民課長。

住民課長（蜜澤佳洋君） すみません、ちょっと定かでないところがありますけれども、先ほども言いましたように、継承の予定がないという方、それからもう1件は、多分近くに墓地が確保できたと、そういう理由だったと思います。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 返還の手續に窓口のほうへ多分来られて、その手續をしているかと思うんですけども、そういったときには理由とか、そういうのも聞いて、墓地をきちんとした使いやすい状況で保っていくというのも担当課としての責務だと思いますが、そこら辺についてこちらから理由をお聞きして、中に、例えば墓守ができないということだけでなく、ほかのことについて、ほとんどそういう理由はないということでお聞きしていいですかね。

議長（矢口新平君） 蜜澤住民課長。

住民課長（蜜澤佳洋君） お聞きしている中では、そういった理由です。返還届のところには理由を書く欄があるんですけども、あまり深くは求めておりませんで、建立の予定がないという、そういう理由で届けをいただいております。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 分かりました。

それでは、2番目の質問に行きます。

聖地を返還する方の中には、聖地を墓地公園の中の中段から上段に求めたために、聖地への上り下りが大きな負担となって、聖地返還を求めた方が少なからずいるかと思ひますし、実際私も聞いております。

町営墓地の永代使用申込みが始まったときに申し込まれた方は、その多くの方は高齢の世代と今なってきたと思ひれます。墓地利用に当たって少しでも楽になるように、墓地公園の階段部分に手すりを設置してほしいという声は担当課に届いているか、お聞きをしたいと思ひます。

議長（矢口新平君） 蜜澤住民課長。

住民課長（蜜澤佳洋君） 年齢を重ねてきて傾斜地だから大変だという、そういうお話は何件かお聞きしておりますけれども、具体的に手すりを設置してほしいという、そういう要望はいただいております。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 上り下りが大変だということを裏返せば、手すりをつけてもらえればありがたいよということだと思ひますよね。そこをやはり担当課としては、本当に住民サービスの一環として、そう思ふくらいのやはり気持ちで業務を遂行していただきたいと思ひております。

それで、私の聞いている範囲でも、私の聖地の近くの方も昨年墓地を移管しました。それから同じ町内の方で、未建立の方も4丁目の区の管理しているところに行かれました。今年たまたま送り盆で墓地公園に行ったとき、ちょうどあの坂の階段のところでお行き会いした方に直接声を聞いたんですが、やはり階段のところに手すりの設置をしてもらえれば、本当にありがたいがねという声を聞きました。

今課長の答弁でも、そういった上り下りに非常に楽になるという話は来ているということはあるので、安全面の面でもそういったことについてお願いをしたいと思ひますし、実際に手すりを欲しいということは届いていないというふうに、今課長の答弁ありましたけれども、今日私の方からこういった質問をして、手すりを設置してほしいという声が今日初めて届いた記念日になりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

午前中の薄井議員の引継書の大事な観点のところでございますので、ぜひ引継書にはきち

んと書いていただきたいと、こんなふうに思います。

それでは、次の質問に行きます。

一時墓地公園の南側のあずまやの周辺から北に入る道路を開けて、途中で車数台分の駐車場を設けたら、中段から上段の聖地利用者にとって聖地の利用が楽になるのではと話があり、実際に担当者、そして小田切副町長も同席していただきましたけれども、仮調査をした経過がございます。残念ながら町の財政状況の悪化と時期が重なってしまいまして、この話は今のところ日の目を見ずに立ち消えとなっている状況ではあります。

駐車場を設ける事業に比べれば、町営墓地の階段部分に手すりを設置する費用は、安価で済むと思われます。墓地公園利用者の利便性、安全性向上の観点から設置を検討してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 蜜澤住民課長。

住民課長（蜜澤佳洋君） 利用者の利便性や安全性の向上につながると思いますので、事業費を算出した上で、今後検討していきたいと思います。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔 11番 倉科栄司君 登壇 〕

11番（倉科栄司君） 今後に向けて検討してほしいということですが、まだ見積りとかそういうのは取ってはいないということによろしいですか、理解としては。

〔 発言する人あり 〕

11番（倉科栄司君） そんなに高いものではないかと思しますので、ぜひ早急に見積りを取っていただいて、恐らく新年度の予算も締め切られていますので、今後事業費によっては本当に早めに対応もできる、当初予算なくても、例えば補正対応できるということで、要は町営墓地として町が運営している墓地ですので、そこに利用された方の利便性とか、安全性のことを考えれば、早急に設置していただくことが一番望ましいかと思しますので、お願いをしたいと思うんですが、町長いかがでしょうかね。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） ただいまの御質問ですが、今担当の方から御説明ありましたように、確かに利便性、安全性の向上につながるものと私も考えておりますので、十分検討してまいります。

以上です。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔 11番 倉科栄司君 登壇 〕

11番（倉科栄司君） 町長はいつも検討するという答えが多いんですけども、十分というものが上に付いていましたので、非常に私としてはありがたいなという答弁として受け取りました。

これですね、例えば今年の新年度予算もう間に合いませんので、年明けの前から多分副町長の査定が始まると思うんですけども、そういったことで、ぜひ現場まで足を運んでいただいた副町長として、こういった予算が、例えば要求された場合にぜひ後押しをするような観点から、副町長の考えもちょっとお聞きをさせていただきたいと思います。

議長（矢口新平君） 小田切副町長。

副町長（小田切 隆君） 御指名ありがとうございます。

実際に前、現地に足を運ばさせていただきまして、駐車場の取り方もいろいろな案がございましたが、どの案も1,000万円を超える非常に高額なことになったということで、今回断念をさせていただきました。

それに比べれば、手ずりは恐らく10分の1以下というようなことも予想されますので、担当課が見積り調査した結果、金額次第ですけども、当然新年度予算には間に合いませんが、場合によっては3月の補正、各課での不用額を集めた中で対応できるような金額に収まれば、またそのときは検討していきたいと思っておりますし、また、今年度につきましては、いろいろ事情があって予備費が3,000万円ほど抱えておりますので、いざとなればそういうところからの予算流用ということも可能であると思います。

いずれにしても、具体的な金額が出たときに本格的な検討をさせていただきたいというふうに思っております。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔 11番 倉科栄司君 登壇 〕

11番（倉科栄司君） 要望した事業の実現に当たっては、やはりその要望そのものですね、強さとか要望の高さ、そういった必要性ですね、こういったものが観点として勘案されると思うんですが、ぜひ限られた方が利用されているところではあります。しかも年間通して、例えばスーパーみたいに常時人が来るところではありませんけれども、やはり一生そこに今度は自分が眠るようになって、また自分たちの子供や孫がということになることも考えると、長い目で見て、ぜひ金額によってですけども、今の副町長の非常に前向きな十分な答弁をいただきましたので、これについての質問は以上で終わりにしたいと思います。

それでは、町営墓地のPRについて課長にお聞きをしたいと思います。

現在、町営墓地の利用あっせんのためにどのようなPRを行っているか、まずお聞きをしたいと思います。

添付の資料、1枚添付をしてございますが、実際のものはこれが市民タイムスさんのあれなんですけれども、大体これが春と秋の、いわゆるお彼岸ですね、お彼岸の前に新聞で一面を使ってPRがされていることになっておりますが、この中にここは公用の墓地なんですけれども、池田町の墓地公園だけ入ってないんですよ。もう1個朝日村が入ってなかったと思うんですけれども、これについてちょっと理由が分かったらお聞きをしたいと思います。

議長（矢口新平君） 蜜澤住民課長。

住民課長（蜜澤佳洋君） PRの方法につきましては、今年4月にも発行いたしました「池田町くらしの便利帳」とそれから町のホームページに案内を掲載をいたしまして、墓地公園の紹介を行っております。

市民タイムスへの掲載につきましては、新聞社から毎回御案内をいただきますけれども、空き区画が10区画ほどで毎年数件の申込みがありましたので、特に必要ないと判断したものでございます。

紙面を参考にされる方もいらっしゃるかと御教授いただきましたので、考えを改めたいと思います。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 今の課長の答弁で十分理由は分かりました。公にあまり募集していても、また来れば、また課長の担当課長時代のときに増設というようなことになれば、あそこ非常に水が出やすいところで、これからちょっとほかに聖地を求めるといとなかなか大変だと思うんですよ。

ですから、前の町長のときにも私、お聞きをしましたが、どこかで結局求めて行かざるを得なくなる時代が来るかと思うんですけれども、そういったことでPRはそこそこにとどめておくということではありましたけれども、次回にぜひ、来年3月のお彼岸の前には池田町を載せていただいて、例えば問合せが来たときには、実は手すりも設置されて、より利便性が高めますよということのお話もできるかと思っておりますので、その実現に向かってお願いをしたいと思います。

それでは、町営墓地については、以上で終わりたいと思います。

それでは、3番目の行政のリーダーとして言葉の発信についてお尋ねをしたいと思います。

行政のリーダーとして首相が国民に、そして都道府県知事が都道府県民に、また市町村長が市町村民にメッセージを伝えることは、非常に大きな意味や役割を持つと考えております。

新型コロナの感染症発生の折には、世界中のリーダーが自らの言葉を持ってメッセージを発信いたしました。特に、この12月に16年間ドイツを率いて来たメルケル首相が退任されましたが、昨年12月に本当に外出を抑制してほしい、それからきちんとした対策を取ってほしいという国民に呼びかけたメッセージは、非常に心を打つものとして世界中で共有されたところでもあります。

池田町においても、甕町長が行政無線を通して生きた生の声を持って町民に呼びかけを行いました。広報やチラシで思いを伝えるよりも、大きなインパクトがあったと思われれます。

ただ、行政のリーダーとして発する言葉は非常に重いものがあり、多方面に大きな影響を与えるため、言葉を吟味した十分な注意の下、言葉を発信することが求められます。町のリーダーとして、一町のリーダーとして、行政の方針や方向性を決定する言葉は、より慎重性が求められます。町長は十分理解されていることと思いますが、あえてお聞きをしたいと思っております。

一町のリーダーとして、思いのままを言葉として発信することの危険性について、町長は認識を十分持っているかお聞きをしたいと思っております。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） それでは、ただいまの御質問にお答えいたします。

リーダーとしての言葉の重さの認識については、十分理解しているつもりであります。メディアとの雑談の中で話した内容が翌日には報道の紙面となっていることがありましたが、そのような経験の中から、発言には十分注意を払っているところであります。

ただ、説明不足の点や言葉足らずで誤解を招いた点があったのかも分かりませんが、十分注意してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔 11番 倉科栄司君 登壇 〕

11番（倉科栄司君） 十分理解されているということで、非常に重い責任を持って町長の職に就かれていると思っております。

昨日の中山議員のお話なんかもございましたが、本当に町長の言葉というのは本当に生きておりますので、より慎重に、またより大胆な発言を求められるので、本当にその利便性が大変だと思いますけれども、今町長のお話のように、十分検討して理解もしているということもあって、注意も払っているということではありますが、若干ここ本当に数か月のことで、町長の言葉について若干質問させていただきたいと思います。

昨日から行革審、行財政改革推進委員会の答申について、町長のほうからちょっと内容がそぐわないとか、そういったような意味で答えがありましたけれども、今回、私はですね、多くの議員さんがもう質問されておりますので、町長、行財政改革推進委員会の答申については、様々な機会のところで尊重していくというふうに言葉を発しておられますが、これが発言の整合性について町長の具体的な見解をお聞きをしたいと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 先頃、第1次答申ということでいただきました。尊重するというところで職員の皆様にはお話をしたところであります。

そういう意味で、ほとんど諮問した内容に対しての御指摘に対しては、積極的、かつ何とかそれに沿うような形で取り組んでいきたいというふうなことで考えております。

そぐわないとすれば、先ほどから、昨日から御質問あるように、職員の減額、給料の減額という点でありますけれども、これはもう何回も説明したとおりでありますので、私としては諮問内容には含まれていないということで解釈しておりますので、そんな発言をさせていただきました。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 昨日から何人かの方にそういった答えがされていますので、これ以上この場は申し上げません。

それから、教育長の人事についてちょっとお聞きをしたいと思いますが、教育長の不在が3か月になってしまうということについて、マスコミの取材に対して町長の答えは、「職務代理で務まると考えていたと。認識が甘かったと見られても仕方ない」とお答えをされております。その後、文部科学省のほうへ問い合わせた後、文科省の見解として「教育行政に支障がないようにすればいいではないか」というような答えをいただいたということで、違法性はないという見解を示されました。

これはもうちょっと上手にやっていただければ、文科省の見解を聞いた後、町長御自身でマスコミに対して町長の思いを言っていただければ、ちょっとここまでの混乱はなかったのではないかなと。ちょっと1日、2日のところで町長の発言が続けて出ましたので、これについてちょっと町長の見解というか、当時の思いの至らなかったこととか、町長の思いをお聞きをしたいと思います。

議長（矢口新平君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） ちょっと準備不足といえますか、調査不足だったと私は感じております。なかなか急なことに対して即答すべきじゃないなと大いに反省したところであります。

今後は十分研究し、先方の言っていることが本当に正しいことなのかどうなのか、そんなところも調査、自分なりに研究した中での発言をすべきかなというふうには反省しております。

以上でございます。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 町長の思いは十分伝わっておりますが、私も一応用意したものがありますので、もう二、三質問させていただきます。

さらに、このときの関係で、全協ですね、全員協議会で、「3か月間の不在に対して議会側から何らの質問がなかった」というふうに町長はおっしゃっているんですね。

ただ、なぜ議会が質問しなかったということは、あのときに町長が新教育長の提案の案件で、お名前からいろいろなことを説明されました。それで終わってれば、多分質問が出たかと思うんです。

その新しい教育長は、令和4年4月1日からということでしたので、ここにいる全員の議員が多分3か月間の空白を感じ取っていたと思うんですが、小田切副町長のほうから間髪入れずに、実はこの3か月の空白については、こういうことですよという説明がなされたんですね、補足説明の形で。3か月空白になってしまうので、暫定的な教育長の人事ということも考えたし、県教委の見解も聞いたしということがあって、それで一応法的には問題ないから、あと、ではその3か月をどうやって乗り切るかということについての説明もありました。

教育行政の推進については、職務代理者がおりますので、その中で対応してもらいながら、なおその財政上の執行権、いわゆる支出とか、そういうものについては、副町長の立場でや

らせてもらうということで議会に説明がありました。したがって、議会としては質問しなかったわけです。

ただ、これがマスコミの次の日の言葉になって町長が語られた言葉でいくと、「議会から何の質問なかった」ということになると、一般的にそこにいたものは分かるんですが、いなかった人は、3か月の空白というものを事前に町長が発表し、そこで議会は聞いておきながら、何の質問しなかったのかということになってしまうと、議会の機能不全というふうに捉えても全くこれはしょうがないわけです。

例えば池田町議会として誰も質問しなかったのかということが、これまかり通っていっちゃいますので、これについて本当に議会の機能不全の印象を与えてしまったということがあるかと思えますので、やはり町長、先ほどからおっしゃっていますが、本当に雑談的なことも活字になれば怖いということもありますし、ですから、この辺のもう少し丁寧にマスコミ対応して、実はこういうわけで副町長から補足の説明がありましたというふうに一言言っただけならば、ここまでの混乱にまた拍車がかからなかったと思いますが、いかがでしょうか。

議長（矢口新平君） 麿町長。

町長（麿 聖章君） 今の御指摘ですけれども、行政としてもメディアが文章化する、活字にするときには、こちらの思いと違う部分があるということで、ここ数か月随所にそんなところを感じたところであります。

そんなことでありますけれども、議会の皆さんにとりまして、その発言が紙面に載ったということで、議会に対する印象ということこそらだとするならば、私もちょっと言葉足らずであったというふうに反省しております。

単純に議会からの質問があったかどうかという質問でありましたので、「質問ありませんでした」と単純に答えてしまいましたけれども、その裏までやはり読まないで、紙面になったときにはそういう印象を与えてしまうということかなというふうに思います。

そういう意味で、十分これからも言葉足らずの部分がないように、考えた発言をしたいと思えます。

以上です。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔 11番 倉科栄司君 登壇 〕

11番（倉科栄司君） 十分町長も理解されていると思えますし、言葉の中でもよく分かり

ますが、もう一つだけ、町長、逆に今度言葉足らずじゃなくて言葉が余り過ぎちゃった、余分なことしゃべっちゃったというのがあったので1点聞きをしたいと思います。

これもマスコミからですけれども、11月25日のマスコミで、文科省の見解で示されたやむを得ない事情という中の町長の説明の中で、打診した2人に断られた経緯を上げました。ただ、これは取りようによっては、非常に失礼な言葉になっていくかと思うんですよね。これももちろん当事者とか、そういうことは、関係する人しか分からないことだと思うんですけれども、もう少し言葉を上手につないでいただいて、諸事情があって様々なことの中から、新しい教育長に私のほうから願いをしたというような言葉で言ってもらえばいいんですけれども、やはり行政のリーダーとしてここちょっと慎重にほしかったなと思うんですが、このことについて町長、多分記憶にあらうかと思いますが、ちょっと見解をお聞きしたいと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） これは表現といたしますか、対外的な発言の内容について、一言で言えば思慮不足であったかなというふうには感じております。

十分その点は御指摘のとおり、注意をしていかななくてはいけないなと、そんなところも反省させていただきました。

以上です。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔11番 倉科栄司君 登壇〕

11番（倉科栄司君） 行政のリーダーとして1期終わって2期目、もう間もなく折り返しというところまで来ておられますので、くどくは言うつもりはございませんが、本当に任期の町長の折り返しまであとおよそ3か月くらいになりました。これから行政改革推進委員会の答申を実現していく、それからまた、昨日、今日と質問が出ていますが、財政調整基金が5億円になったとあって、行政としては果たしてそれでオーケーではありません。経常経費が依然として高止まりの状況でございます。人間の体でいったら本当にもう動脈硬化がもう本当に相当進んでいると、宮本健康福祉課長そこにいますけれども、これ大変なことだと思うんですけれども。

そういった中で、なおかつ行政を運営していかななくてはいけないという、何というかね、ジレンマということもあるかと思うんですが、金さえあったらなと思うときもあるかと思えます。

ですが、そういった中で、さらに今回の意見でも問われたように、いろいろなこれからまた大型事業もありますよね。そういうものも逐一実行していかななくてはいけないという立場にあった中で、町長として、やはりこれから言葉の発信についてはかなり慎重に言葉を選んで、そうかといって全く貝のように黙ってしまったら、これ町民としても非常に不安を覚えますので、やはり必要なときは必要な言葉を大きな声できちんと伝えてほしいということと、慎重にならざるを得ないなと思うときは、ちょっと一考えですね、一時ちょっと熟慮していただいて、言葉をまた見つけてお話をいただきたいと、こんなふうに思うわけです。

町長は独任制です。町長の気持ちが行政に、あるいはこの池田町の方角も全部決定づけるところにありますので、それで唯一無二のリーダーであります。ただ、私も議員は本当に合議制ですので、合議体ですので本当に個々の意見があっても、最後はやはり合議制で多数決で決まるということですので、非常に怖い部分を町長今座ってらっしゃるんですよ。

ですから、よほど本当に慎重にいろいろなことを言っていたかしないと、活字になれば池田町の町長という言葉として残りますので、慎重にお願いをしたいと思います。

例えば、ちょうど思い返せば1年ぐらい前ですか、まだ記憶に新しいですが、美術館の今後の扱いについて、町長がちょっとマスコミのほうにちらっとしゃべってしまったというか、全協でしゃべってしまったことが、もう次の日にはマスコミの活字になって独り歩きをしていく部分が出てきますので、町民として非常に不安を覚えることもあるかと思うんです。

小さな行政運営の中のことでしたらそれはいいんですけども、やはりこれからの大型事業であり、美術館とか、それから会染保育園とか、いろいろなものについて本当に町がこれからどうするかということで、本当に町長の昨日、今日の問いの中にもございましたように、町長の思いで右左になったりする部分もありますので、ぜひきちんとした熟慮を重ねた上で、言葉の発信をしていただきたいと、こんなふうに思います。

なお、町長、ちょっと最初に戻ってしまいますけれども、職員の皆さんに給与の削減についてはするつもりはないというふうにおっしゃっていますけれども、かつて町長まだ議員になれる前ですけども、下水道事業でちょっと池田町がつかまなかったことがございまして、このときは全職員で本当に1年でしたかね、多分給与を何%かカットした時代がございまして、

しがいてまして、ある部分では行政というのは連綿と続いているわけです。池田町というものがある限り続いております。例えば年度切替えになったから、心機一転にはなるんですけども、続いて行っている行政というものは、底辺に必ず流れていますので、例えば今回町長、それから副町長と矢面に立っておりますけれども、例えば社総交事業で大型事業を本

当に最後の最後決定づけたのは町長だということです。責められましたが、ただきっかけというか、社総交の最初の取っ掛かりから始まったときには、担当者は違います。ですから、その人たちも決して責任がないということを私言えると思うんですよね。ないということとは言ってはいけない。同様な責任があった。

ただ、たまたま最後の仕上げのところに甕町長がいたということ、たまたま甕町長、残念ながら議会議員経験してそのまま町長になりましたので、意思決定の中には町長も参画していましたので、そこら辺についても責任はあろうかと思いますが、そういったことで本当に、何というか、理に沿わないとか、意にそぐわないという思いがあろうかと思いますが、一町のリーダーとして本当に町を引っ張っていく大事な立場におられますので、今後慎重な言葉を発していただきたいと思いますが、最後にもう一度町長の決意を聞いておきたいと思います。

議長（矢口新平君） 甕町長。

町長（甕 聖章君） 先ほど来お話ししておりますけれども、十分言葉の重さにつきまして認識をしているつもりでありますけれども、さらに認識を深めて十分な慎重な対応をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

議長（矢口新平君） 倉科議員。

〔 11番 倉科栄司君 登壇 〕

11番（倉科栄司君） 町長から責任ある言葉をいただきました。こういったマスコミに出たものをコピーしなくても済むような、そういった毎日が送られることを願って、一般質問を終わります。

議長（矢口新平君） 以上で11番、倉科栄司議員の一般質問は終了しました。

以上で一般質問の全部を終了いたします。

散会の宣告

議長（矢口新平君） これで本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会をいたします。

大変御苦労さまでした。

散会 午後 1時47分

令和 3 年 12 月 定例 町 議 会

(第 4 号)

令和3年12月池田町議会定例会

議事日程(第4号)

令和3年12月17日(金曜日)午前10時開議

日程第 1 各担当委員会に付託した案件について、委員長報告、質疑

日程第 2 議案第40号より第42号について、討論、採決

日程第 3 議案第45号、第46号について、討論、採決

本日の会議に付した事件

日程第1から日程第3まで議事日程に同じ

追加日程第 1 議案第47号について、上程、説明、質疑、討論、採決

追加日程第 2 同意第5号、第6号について、上程、説明、採決

追加日程第 3 同意第7号から第18号について、上程、説明、採決

追加日程第 4 総務福祉委員会、振興文教委員会の閉会中の所管事務の調査の件

追加日程第 5 議会運営委員会の閉会中の所掌事務の調査の件

追加日程第 6 議員派遣の件

出席議員(12名)

1番	松野亮子君	2番	大厩美秋君
3番	中山真君	4番	横澤はま君
5番	矢口稔君	6番	大出美晴君
7番	薄井孝彦君	8番	服部久子君
9番	和澤忠志君	10番	那須博天君
11番	倉科栄司君	12番	矢口新平君

欠席議員(なし)

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長 麩聖章君 副町長 小田切隆君

教 育 長	竹 内 延 彦 君	総 務 課 長	塩 川 利 夫 君
企画政策課長	大 澤 孔 君	会計管理者兼 会計課長	丸 山 光 一 君
住 民 課 長	蜜 澤 佳 洋 君	健康福祉課長	宮 本 瑞 枝 君
産業振興課長	宮 澤 達 君	建設水道課長	丸 山 善 久 君
学校保育課長	寺 嶋 秀 徳 君	生涯学習課長	下 條 浩 久 君
総務課長補佐 兼 総務係長	山 岸 寛 君		

事務局職員出席者

事 務 局 長	丸 山 光 一 君	事 務 局 書 記	矢 口 富 代 君
---------	-----------	-----------	-----------

開議 午前10時00分

開議の宣告

議長（矢口新平君） おはようございます。

ただいまの出席議員は12名全員であります。

定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

なお、吉澤監査委員、所用のため欠席との届出がありました。

各担当委員会に付託した案件について、委員長報告、質疑

議長（矢口新平君） 日程1、各担当委員会に付託した案件についてを議題とします。

これより各委員長の報告を求めます。

報告の順序は、予算決算特別委員長、総務福祉委員長、振興文教委員長の順とします。

最初に、矢口稔予算決算特別委員長。

矢口委員長。

〔予算決算特別委員長 矢口 稔君 登壇〕

予算決算特別委員長（矢口 稔君） おはようございます。

予算決算特別委員会の報告をさせていただきます。

本委員会に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告をさせていただきます。

予算決算特別委員会の開催日時は、令和3年12月10日午前9時30分から、開催場所、池田町役場3階協議会室において、参加者は委員12名でございます。協議事項は、令和3年度12月議会定例会の予算・決算に係る案件について総合審議をいたしました。

審査の結果を申し上げます。

議案第45号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第6号）について、審議の結果、原案可決であります。

議案第46号 令和3年度池田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について、原案可決であります。

審査の経過につきまして御説明申し上げます。

議案第45号及び議案第46号について、質疑はなく、先ほど申し上げたとおり、それぞれ原案可決となりました。

以上であります。

何か補足の説明等がございましたら、お願いをいたします。

また、各課にわたる詳細な説明については、各担当委員長より御説明をお願い申し上げます。

議長（矢口新平君） 他の委員に補足がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 補足なしと認めます。

審議報告を求めます。

中山眞総務福祉委員長。

中山委員長。

〔総務福祉委員長 中山 眞君 登壇〕

総務福祉委員長（中山 眞君） 予算決算特別委員会の総務福祉関係の審査の内容を御報告します。

開催日時、令和3年12月8日、場所、池田町役場協議会室、出席者、議員12名、行政側、町長、副町長、教育長及び総務福祉に関する課の課長及び補佐、係長、議会事務局長であります。

12月8日に審議した案件は2件です。

議案第45号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第6号）、議案第46号 令和3年度池田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）についてであります。

以下に説明を省略し、質疑のあった内容を御報告します。

まず、協議事項1番目、議案第45号についての企画政策課関係についてです。

問、ふるさと納税について、現状はどう推移しているのか。

答、今のところ、昨年より増えているので、このままいけば昨年度分より1,000万円くらい増えることを見込んでいる。

問、移住・定住補助金額減額の今のところの影響は。

答、移住・定住補助金申請について、昨年の新築22件に対して16件に、中古は8件から5件に減り、減少傾向が見られる。ただし、昨年4月から昨年11月末までの移住者の人数は41

人で、今年も同じ期間で41人だった。経過措置に該当の人もいるので、単純比較は難しい。

次に、総務課関係。

問、国保の過誤納が電算システムの不具合により生じたようであるが、経過と今後の対応について聞きたい。

答、今日、担当者が町長に説明に来る。町内の該当者1名には通知を出している。

問、防災無線の蓄電池は何個交換するのか。交換すると何年もつのか。

答、交換したバッテリーは8個で、5年以上は使える。

住民課関係についてです。

問、マイナンバーカードは、これまでに町で何件発行されているのか。

答、現在の保有率は約33%。マイナポイントの付与の詳細指示がないので、マイナンバーカードの申請は若干増えている程度である。年明けから増えることが予想されている。

問、現在、池田町の病院で、マイナンバーカードが使えるところはあるのか。

答、町内の病院ではまだないが、複数の薬局では使える。

次に、健康福祉課関係について。

問、福祉輸送サービスの利用者増について、どのようなニーズが増加につながったのか。

答、透析の方が増えたための増額である。

問、予防事業について、子宮頸がんワクチンについての今後の見通しは。

答、予算は来年度から計上される。

次に、議案第46号であります。質疑はありませんでした。

報告は以上であります。

他の議員に補足の説明がありましたら、お願いします。

議長（矢口新平君） 他の委員に補足がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 補足なしと認めます。

中山委員長の報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

引き続き、審査報告を求めます。

大厩美秋振興文教委員長。

大厩委員長。

〔振興文教委員長 大厩美秋君 登壇〕

振興文教委員長（大厩美秋君） それでは、予算決算特別委員会、振興文教委員会関係の委員会審査報告を行います。

本委員会に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定しましたので、会議規則第77条の規定により報告いたします。

日時、令和3年12月9日午前9時30分より、場所、池田町役場協議会室、出席者、議会側、予算決算特別委員12名、議会事務局、行政側、町長、副町長、教育長並びに産業振興課、建設水道課、学校保育課、生涯学習課の課長及び課長補佐、係長。

12月9日に審議した事件は議案1件であります。

以下、説明を省略し、質疑について報告いたします。

なお、言い回しにつきましては、簡潔にするため、文章上変えてある場合があります。御了承ください。

それでは、協議事項、議案第45号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第6号）について。

産業振興課関係について。

問、農地の集積について、現在の集積率は。

答、令和2年度末で、自己所有・借入地では62.5%、特定作業受託を入れると73.3%である。

問、大北森林組合の補助金の返却状況について。

答、期間は5年ごとに県と森林組合で確認している。令和3年度に計画について確定、金額は利益によって変わってくるのでまだ未定である。このままだと長期にわたる。

問、残金はどの程度か。

答、池田町分は、今年度の返却が終了したとして1,150万円である。

問、返還額が122万円となっている。合計額が合わないのでは。

答、金額は、当初予算で24万円計上してあるので、残りの4分の3で91万5,000円となる。

建設水道課関係について

問、道路台帳の整備委託費用についてお聞きする。

答、協同測量社に委託している。町道の認定・廃止等に関わる費用である。

問、町財政が厳しいので、なるべく職員で行うなどの見直しは。外部委託が必要なのか。

答、交付税の算定にも影響している。今の職員体制では難しい。

問、作業者の高齢化等に伴う除雪の安全対策は。

答、11月末に除雪会議を行い、今年はアンケートをお願いした。オペレーターや重機の保有状況、除雪路線の重要度など、3月末に回収する予定である。そのアンケートを基に、今後の除雪体制を考えていきたい。安全対策は、委託契約時に作業について、焦らず怪我をしないようにとの確認指導を行った。

学校保育課関係について

問、保育園の施設修繕料について、ボイラーの修理であるが、状況は。

答、配管から水漏れがある。本体には問題ない。今後5年くらいは大丈夫だと考えられる。

問、池田保育園の設計委託料の内容は。

答、エアコンの設計委託料である。3歳児、4歳児、各学年に1台ずつ設置するための委託料である。来年度に向けて、速やかに導入できるようにしたい。

問、池田保育園は地中熱を利用して、夏も冬も一定温度で運営できるとのことだったが、夏の暑さには対応できないということか。

答、現在も分散してしのいできているが、会染保育園より子供たちの密集度が高いので設置したい。

問、児童センターの車両購入について、必要性は。

答、公用車が数年前に廃車となった。現在は、職員の私用車で移動等を行っている。購入する中古車両は、主に子ども教室巡回や職員の移動などに使用する。

問、池田小学校の遊具修繕について、年に1回の点検は実施されているのか。

答、精密検査を専門業者に依頼して実施している。教職員の方には月1回、目視で点検を行い、精密検査以外に年2回、業者による点検を行っている。

生涯学習課関係について。

問、創造館の非常用放送設備の故障について、落雷が原因とのことだが、保険で対応はできないのか。

答、公共施設の保険の申請手続きをしている。工事完了後に請求し、入金される見込みである。

その他について。

問、国が給付を予定している1人10万円の子育て支援金について、当町はクーポンなのか、現金給付なのか。

答、クーポンの場合、印刷・募集など、経費の割にはクーポン券が使える場所が限定されてしまう。当町の場合は現金給付を予定している。申請は1回のみで済むように対応したい。高校生については申請手続が必要であり、これから生まれる子供についても3月末までの方まで申請が必要である。10万円の半分5万円は、最終日に上程を予定している。残りの5万円分は、国の内示が出た段階で、来年に入り専決予算で対応したい。10万円の一括交付についても検討を行った。その結果、国の交付決定がまだなので、2回に分けて行うことにした。担当課は住民課で所管する。

問、手数料はどの程度の負担か。事務費削減を考えて、10万円の一括給付でもいいのでは。

答、現金給付の場合、1人1回当たり銀行振込手数料が110円である。事務費を含めて全額国庫負担である。クーポンになると、国レベルでは経費だけで900億円を超えている。費用対効果を考えると、当町はクーポンが使える店が少ないのが現状である。予算には事務費と会計年度任用職員給与1か月分も計上する。現在は2回に分けて給付予定である。国で何らかの方針が示されれば対応するが、国からの方針を待ちたい。

問、農業関係について、米価の下落、肥料などの高騰により、農家の皆さんの負担が重くのしかかってきている。農協も市町村の政策連携に協力したいとしているが、町の支援策は。

答、現在、具体的に考えは持っていない。

要望、国の政策等を見ながら早めの対応をお願いしたい。

以上、振興文教関係の質疑を申し上げました。

他の委員に補足があれば、お願いいたします。

議長（矢口新平君） 他の委員に補足がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 補足なしと認めます。

大口委員長の報告に対する質疑を行います。

質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって、予算決算特別委員会の報告を終了します。

続いて、総務福祉委員会の報告を求めます。

中山眞総務福祉委員長。

中山委員長。

〔総務福祉委員長 中山 眞君 登壇〕

総務福祉委員長（中山 眞君） 令和3年12月池田町議会定例会、総務福祉委員会の審査内容を御報告します。

日時、令和3年12月8日、予算決算特別委員会終了後です。

協議事項、議案第40号 池田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、質疑はありませんでした。

採決の結果、全員賛成で可決されました。

議案第41号 池田町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、質疑はありませんでした。

採決の結果、全員賛成で可決されました。

議案第42号 池田町特別職の職員等の給与に関する条例及び池田町執行機関の附属機関設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、質疑はありませんでした。

採決の結果、全員賛成で可決されました。

報告は以上であります。

他の議員に補足の説明がありましたら、お願いします。

議長（矢口新平君） 他の委員に補足がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 補足なしと認めます。

委員長報告に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって、総務福祉委員会の報告を終了します。

振興文教委員に付託した案件はありませんので、これにて各委員会の報告を終了いたします。

議案第40号から議案第42号について、討論、採決

議長（矢口新平君） 日程2、議案第40号から議案第42号について、各議案ごとに討論、採

決を行います。

議案第40号 池田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、討論を行います。

まず、この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって、討論を終了します。

議案第40号を挙手により採決します。

この議案を原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

議案第41号 池田町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、討論を行います。

この議案に対する反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって、討論を終了します。

議案第41号を挙手により採決します。

この議案を原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

議案第42号 池田町特別職の職員等の給与に関する条例及び池田町執行機関の附属機関設置等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、討論を行います。

この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって、討論を終了します。

議案第42号を挙手により採決します。

この議案を原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

議案第45号、議案第46号について、討論、採決

議長（矢口新平君） 日程3、議案第45号、議案第46号について、各議案ごとに討論、採決を行います。

議案第45号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第6号）について、討論を行います。

まず、この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって、討論を終了します。

議案第45号を挙手により採決します。

この議案を原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

議案第46号 令和3年度池田町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）について、討論を行います。

まず、この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって、討論を終了します。

議案第46号を挙手により採決します。

この議案を原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

この際、暫時といたします。

休憩 午前10時23分

再開 午前10時55分

議長（矢口新平君） 休憩を閉じ再開いたします。

日程の追加

議長（矢口新平君） お諮りします。

追加案件として、議案1件、同意14件が提出されました。

これを日程に追加して、議題としたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、日程に追加し、議題とすることに決定しました。

議案第47号について、上程、説明、質疑、討論、採決

議長（矢口新平君） 追加日程1、議案第47号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第7号）についてを議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 議案第47号 令和3年度池田町一般会計補正予算（第7号）の提案理由の説明を申し上げます。

本議案は、原油価格高騰に伴う非課税世帯への生活支援をはじめ、18歳以下に10万円を給付する子育て世帯への臨時特別給付、3回目のコロナワクチン接種費用等による補正予算でございます。

歳入歳出それぞれ1億5,517万9,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ48億7,866万3,000円とするものでございます。

歳入の主なものとしては、款10地方交付税に598万5,000円を追加するとともに、款14国庫支出金では、新型コロナウイルスワクチン接種負担金をはじめ、子育て世帯臨時特別支援事業費補助金を主なものとして、1億4,900万7,000円を増額しました。

一方、歳出の主なものとしては、款3民生費では、原油価格高騰に伴う灯油等の購入補助金553万6,000円及び子育て世帯への臨時特別給付金1億1,800万円を中心に、1億2,525万5,000円を増額しました。

款4衛生費では、来年2月から開始予定の追加接種に向けたコロナワクチン接種経費として2,744万1,000円を、款12災害復旧費では、今年8月の大雨災害で被災した花見地区の農地の復旧工事に248万3,000円をそれぞれ増額しました。

以上、議案第47号について、提案理由の説明を申し上げます。御審議の上、御決定をお願いいたします。

議長（矢口新平君） これをもって、提案理由の説明を終了します。

質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終了します。

議案第47号について、討論、採決を行います。

まず、この議案に対して反対討論がありますか。

〔「なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 次に、この議案に対して賛成討論がありますか。

〔「省略」の声あり〕

議長（矢口新平君） これをもって、討論を終了します。

議案第47号を挙手により採決します。

この議案を原案のとおり決定することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、この議案は原案のとおり可決されました。

同意第5号、同意第6号について、上程、説明、採決

議長（矢口新平君） 追加日程2、同意5号 池田町固定資産評価委員の選任について、同意6号 池田町固定資産評価委員の選任についてを一括議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 同意第5号 池田町固定資産評価審査委員の選任について、提案理由の説明を申し上げます。

固定資産評価審査委員は、固定資産課税台帳に登録された価格に関する不服を審査・決定するものであり、地方税法第423条第3項の規定に基づき、委員は当町の住民で、納税義務者または固定資産の評価について学識経験を有する者のうちから、議会の同意を得て選任することになっております。

本件は、現在委員であります矢口茂樹氏が令和4年2月17日をもって任期満了となることから、引き続き再任したいので、議会の同意を求めるものであります。

矢口氏は、昭和28年6月28日生まれで68歳であります。昭和52年3月、東京電機大学を卒業され、同年4月に池田町役場に就職され、税・財政専門課長、総務課長を務められ、税に関する知識もあり、人格・識見ともに優れた人物で、固定資産評価審査委員として適任であると考えております。

任期は、令和4年2月18日から3年間です。

御審議の上、御同意をお願いいたします。

引き続きまして、同意 6 号 池田町固定資産評価委員の選任について、提案理由の説明を申し上げます。

本件は、現在委員であります赤田喜久市氏が令和 4 年 2 月 21 日をもって任期満了となることから、引き続き再任したいので、議会の同意を求めるものであります。

赤田氏は、昭和 25 年 1 月 24 日生まれで現在 71 歳であります。昭和 43 年 3 月、県立南安曇農業高校を卒業され、同年 4 月に池田町役場に就職され、総務課財政係長、会計管理者、振興課長を歴任され、税に関する知識もあり、人格・識見ともに優れた人物で、固定資産評価審査委員として適任であると考えております。

任期は、令和 4 年 2 月 22 日から 3 年間であります。

御審議の上、御同意をお願いし、提案理由の説明といたします。

議長（矢口新平君） これをもって、提案理由の説明を終了します。

お諮りします。

同意第 5 号、同意第 6 号は人事案件であるため、質疑、討論を省略して採決したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

同意第 5 号を挙手により採決をします。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手をお願いします。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第 5 号は同意することに決定しました。

同意第 6 号を挙手により採決をします。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第 6 号は同意することに決定しました。

日程の追加

議長（矢口新平君） お諮りします。

同意第7号から同意第18号までは、池田町農業委員会委員の任命に関する同一案件であります。

この案件を一括して日程に追加し、議題としたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

よって、一括して日程に追加し、議題とすることに決定しました。

同意第7号から同意第18号について、上程、説明、採決

議長（矢口新平君） 追加日程3、同意第7号 池田町農業委員会委員の任命についてから同意第18号 池田町農業委員会委員の任命についてを一括議題とします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 同意第7号から同意第18号、池田町農業委員会委員の任命について、提案理由の説明を申し上げます。

農業委員会委員につきましては、農業委員会等に関する法律第8条第1項の規定に基づき、農業に関する識見を有し、農地等の利用最適化推進等の職務を適切に行うことのできる者のうちから、町長が議会の同意を得て任命することとなっております。

なお、委員の過半数を認定農業者が占めることとなっておりますが、当町の認定農業者が少ないため、準ずる者を含めて4分の1を占めることで可とする要件の緩和を含めまして、同意をお願いいたします。

同意第7号、中山博氏、住所は大字池田2144番地2 吾妻町で、昭和23年1月3日生まれの農業者です。

同意第8号、片瀬善昭氏、住所は大字池田3002番地1 四丁目で、昭和29年6月19日生まれの農業者であります。

同意第9号、村山一峰氏、住所は大字池田235番地正科で、昭和31年3月27日生まれの会

社員であります。

同意第10号、小林伸司氏は、住所は大字会染321番地中島で、昭和25年5月6日生まれの農業者であります。

同意第11号、矢口律子氏は、住所は大字会染6508番地1滝沢で、昭和34年2月21日生まれの会社員であります。

同意第12号、横山健一氏は、住所は大字会染6127番地9林中で、昭和51年9月3日生まれの農業者であります。

同意第13号、内山泰全氏は、住所は大字会染11876番地十日市場で、昭和20年2月19日生まれの農業者であります。

同意第14号、師岡盛隆氏は、住所は大字会染8193番地坂下で、昭和27年10月28日生まれの農業者であります。

同意第15号、山本春彦氏は、住所は大字中鷓557番地1中之郷で、昭和29年2月11日生まれの農業者であります。

同意第16号、丸山史子氏は、住所は大字池田2464番地2一丁目で、昭和21年4月1日生まれの農業者であります。

同意第17号、丸山俊明氏は、住所は大字会染8541番地1渋谷で、昭和25年12月22日生まれの会社経営者であります。

同意第18号、田中貴子氏は、住所は大字会染10359番地内鎌で、昭和44年7月26日生まれの農業者であります。

任期は令和4年4月1日から3年間であります。

議会の皆様全員の御同意を賜りますようお願い申し上げます。

議長（矢口新平君） これをもって、提案理由の説明を終了します。

お諮りします。

同意第7号から同意第18号は人事案件のため、質疑、討論を省略し、採決に入りたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

同意第7号から同意第18号を1議案ごと、挙手により採決します。

同意第7号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第7号は同意することに決定しました。

同意第8号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第8号は同意することに決定しました。

同意第9号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第9号は同意することに決定しました。

同意第10号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第10号は同意することに決定しました。

同意第11号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第11号は同意することに決定しました。

同意第12号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第12号は同意することに決定しました。

同意第13号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第13号は同意することに決定しました。

同意第14号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第14号は同意することに決定しました。

同意第15号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第15号は同意することに決定しました。

同意第16号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第16号は同意することに決定いたしました。

同意第17号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第17号は同意することに決定いたしました。

同意第18号を挙手により採決します。

本件は、これに同意することに賛成の方は挙手を願います。

〔賛成者 挙手〕

議長（矢口新平君） 挙手全員であります。

したがって、同意第18号は同意することに決定いたしました。

日程の追加

議長（矢口新平君） お諮りします。

各常任委員会より、閉会中の所管事務の調査の申出が提出されました。

これを日程に追加し、議題としたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

総務福祉委員会、振興文教委員会の閉会中の所管事務の調査の件

議長（矢口新平君） 追加日程4、総務福祉委員会、振興文教委員会の閉会中の所管事務の調査の件を議題とします。

各常任委員長から所管事務のうち、町議会会議規則第75条の規定により、お手元に配付しました申出書のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。

総務福祉委員会について、委員長の申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、総務福祉委員長の申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

続いて、お諮りします。

振興文教委員会について、委員長の申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、振興文教委員長の申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

日程の追加

議長（矢口新平君） お諮りします。

議会運営委員会より、閉会中の所掌事務の調査の申出が提出されました。

これを日程に追加し、議題としたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、日程に追加し、議題とすることに決定しました。

議会運営委員会の閉会中の所掌事務の調査の件

議長（矢口新平君） 追加日程5、議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の件を議題とします。

議会運営委員長から町議会会議規則第75条の規定により、お手元に配付しました申出のとおり、閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。

委員長の申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、委員長の申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

日程の追加

議長（矢口新平君） お諮りします。

議員派遣の件について、日程に追加し、議題にしたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、日程に追加し、議題とすることに決定しました。

議員派遣の件

議長（矢口新平君） 追加日程6、議員派遣の件を議題とします。

この件については、町議会会議規則第128条の規定により、お手元に配付した資料のとおりとすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

議長（矢口新平君） 異議なしと認めます。

したがって、お手元に配付した資料のとおり決定しました。

なお、次期定例会までに急を要する場合は、町議会会議規則第128条の規定により、議長において議員の派遣を決定しますので、申し添えます。

教育長あいさつ

議長（矢口新平君） この12月31日をもって勇退される竹内延彦教育長に、一言退任のあいさつをいただきたいと思います。

中央の演台に進み、お言葉をいただきたいと思います。

竹内教育長。

〔教育長 竹内延彦君 登壇〕

教育長（竹内延彦君） 12月定例会最終日の貴重なお時間をいただき、私に発言の場を与えてくださいましたこと、誠にありがとうございます。

今月末の任期満了をもって教育長を退任するに当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

私はこの3年間、実に多くのことを経験させていただき、学ぶことができました。議員各位並びに甕町長はじめとする職員の皆様、保育園、小学校、中学校、児童クラブの先生方、子供たちと保護者の皆様、教育行政に御尽力いただいている教育委員と各委員会委員の皆様、そして地域でお世話になっている皆様に、改めて心より深く感謝申し上げます。

私が、子供を真ん中に、現場を信頼し任せる教育行政という信念を貫くことができましたのは、池田町にゆかりはなくとも、私を信頼して教育長をお任せいただいた甕町長のおかげです。その御決断に深く敬意を表し、厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

私が子供の頃より憧れ、遠くから眺めていた北アルプス連峰の麓のこの地での暮らしは、本当に楽しく、幸せな毎日です。豊かな自然環境と歴史・文化に恵まれ、教育はもとより、様々な分野に価値と可能性を秘めている池田町の魅力がさらに高まれば、必ず子供たちと町民の皆様に、より多くの幸せをもたらすものと信じています。

地域の子供は地域で育てるという池田学問所の精神が受け継がれているからこそ、「子どもがまんなか 未来を拓くひとづくり」を基本理念とする第2次教育大綱が生まれました。そして、保小中15年プランを土台に、学校と地域が有機的に連携するコミュニティスクールが来年度から本格的にスタートいたします。

コロナ禍のピンチもチャンスに変えた経験を生かして、信州はもとより、日本の子育て、教育のモデルとして、今後も注目されることを願っております。

地方自治は民主主義の最良の学校という格言があります。次代を担う子供たちが豊かで幸せに成長するためには、民主主義が成熟した地域社会が不可欠です。かのエイブラハム・リンカーンの言葉を借りるならば、町民の町民による町民のための町政を真に実現されますことを心よりお願い申し上げます。

結びに、議会の皆様、甕町長、小田切副町長、各課長と職員の皆様、保小中、児童クラブの先生方と子供たち、保護者の皆様、教育委員と各委員会委員の皆様、そして地域の皆様のますますの御健勝と御活躍、町の末永い御繁栄と御発展をお祈り申し上げ、御礼の言葉といたします。誠にお世話になりました。

議長（矢口新平君） この3年間、池田町の教育のトップに立っていただきました。池田町の教育に対して、新しい道筋を示していただきました。「子どもがまんなか」というありふれた言葉が、我々に気づきを与えてくださいました。

竹内様には、もっと広い大きなステージで、さらなる活躍を期待しています。頑張ってく

ださい。

町長あいさつ

議長（矢口新平君） 甕町長より発言を求められておりますので、これを許可します。

甕町長。

〔町長 甕 聖章君 登壇〕

町長（甕 聖章君） 12月定例会の閉会に当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

6日から本日までの12日間にわたる会期の定例議会、大変御苦労さまでございました。提案いたしましたそれぞれの案件につきまして、慎重に御審議、御決定いただき、誠にありがとうございました。審議の中でいただきました御意見や一般質問での御意見、御指摘は、今後の行政執行の中で生かしていくよう努力してまいります。

新型コロナウイルス感染の件につきまして、年末年始を控え、第6波の拡大が懸念されておりますし、オミクロン株の拡大の脅威も増してきております。議員の皆様、町民の皆様、くれぐれも御注意の上、新たな年を迎えていただきますようお願いいたします。

また、12月末日をもちまして任期満了を迎えます竹内教育長におかれましては、3年という期間でありましたが、その間、第2次教育大綱の策定に当たっていただき、町内外から高く評価されるような大綱となりました。誠にありがとうございました。今後は、その大綱を基本として、池田らしい教育環境となるよう引き継いでまいりたいと考えております。竹内教育長には、さらに大きな舞台で、ますますの御活躍を期待するところであります。

結びに、議員各位におかれましては、今年1年の御協力、御尽力に感謝申し上げます。これから寒さも一段と厳しさを増してまいります。健康には十分御留意され、来る2022年が明るい新年を迎えられますとともに、議員各位、町民の皆様にとりましても輝かしい年となりますよう御祈念申し上げ、本定例会の閉会に当たり、お礼のごあいさつといたします。

誠にありがとうございました。

閉議の宣告

議長（矢口新平君） 以上で、本日の日程と本定例会に付議されました案件の審議は全部終了しました。

議長あいさつ

議長（矢口新平君） 閉会に当たり、一言御あいさつを申し上げます。

本定例会は、12月6日より本日まで12日間にわたり、慎重な御審議をいただき、各位の御協力によりまして順調な議会運営ができましたこと、厚く御礼申し上げます。

本定例会の審議及び委員長報告等の中にありました意見、要望等に十分配慮され、事務事業の適切な執行に一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

議員及び町長はじめ、職員の皆さんにおかれましては、体に十分気をつけていただき、来る令和4年という新しい年を健康でお迎えくださることを御祈念申し上げます。

閉会の宣告

議長（矢口新平君） これをもって令和3年12月池田町議会定例会を閉会といたします。

大変御苦労さまでした。

閉会 午前11時23分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

令和3年12月17日

議 長 矢 口 新 平

副 議 長 横 澤 は ま

署 名 議 員 横 澤 は ま

署 名 議 員 服 部 久 子